

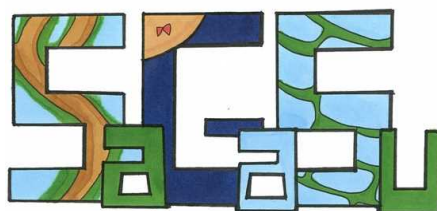
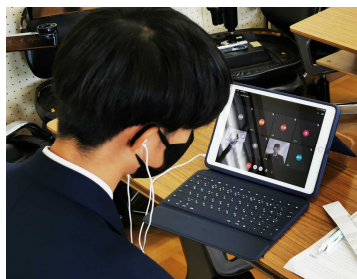
令和4年度 文部科学省委託事業

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)

新潟の未来を SaGaSu プロジェクト

調査研究報告書 (第2年次)



新潟県教育委員会

令和5年3月

はじめに

新潟県教育庁高等学校教育課
課長 市野 正廣

「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」は、文部科学省の「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築（CORE ハイスクール・ネットワーク構想）」に採択された事業であり、2年目の取組を終えようとしています。このプロジェクトの目的は、離島・中山間地域における小規模校の教育環境の充実を図ることにあります。

本県では、生徒数の減少により、県立高校の小規模化が進行しており、令和5年度の募集学級では、本県の県立高校全日制課程73校のうち、1学級5校、2学級12校と、極めて深刻な状況となっています。この小規模校の教育環境を改善するための実証研究として、ICTを活用した双方向型の「遠隔授業」、探究活動を中心とした「学校間連携」、コンソーシアム構築をとおした「地域との連携・協働」の3つを柱として取り組んでいます。

ネットワークを構成する学校は、佐渡島内に立地する佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校、佐渡中等教育学校の5校に加え、県東部の阿賀町に立地する阿賀黎明高校、そして、遠隔授業配信センターとして位置付けた新潟翠江高校通信制課程の計7校であります。

「遠隔授業」については、事業1年目である昨年度に、必要な機器をネットワーク校に設置してシステムを構築し、年度後半から試行授業を実施しました。今年度は、単位認定を伴う通年の授業を8科目に渡り実施し、遠隔授業のノウハウを蓄積するとともに、受信側の職員体制の課題も見えてきたところです。

「学校間連携」については、昨年度から、ネットワーク校の生徒同士で交流を行い、プロジェクトのロゴマーク作成や、探究活動の合同発表会等を実施しておりますが、今年度は、広島県の県立高校6校とオンラインによる交流を行うとともに、ネットワーク校の高校2年生（中等教育学校5年生）324人がオンラインで参加する合同発表会を実施するなど、オンラインを活用した学校間連携についても取組を進めています。

また、「地域との連携・協働」に関しては、佐渡市と阿賀町がそれぞれ中心となって、生徒の学びを支える地域協働コンソーシアムを構築しました。それぞれのコンソーシアムからは、探究活動等の充実に向けた取組を中心に、キャリア教育、生徒募集などにおいても多大な協力をいただいています。

この報告書は、これら第2年次の取組や、その成果、課題などについて取りまとめたものです。指導委員会では、2年間の取組を評価していただく一方で、「より一層、遠隔授業の質を向上させていくことが今後の目標となる」との指導・助言もいただいています。2年間の振り返りを丁寧に行い、最終年度となる来年度はネットワークの総力を結集し、本県教育の充実に向けた取組をさらに進めていきたいと思っております。

終わりに、本プロジェクトの様々な取組にご支援、ご協力をいただいている皆様にあらためてお礼を申し上げ、「研究調査報告書」巻頭のご挨拶といたします。

【目 次】

第1章 3か年の調査研究計画と第1年次の取組

- I 3か年の調査研究計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- II 第1年次（令和3年度）の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2章 第2年次の取組

- I 遠隔授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 1 令和4年度遠隔授業実施に向けた体制・・・・・・・・・・・・ 8
 - 2 遠隔授業の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 3 遠隔授業の公開（11月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
 - 4 遠隔授業研究協議会（2月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
 - 5 放課後オンライン講習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
 - 6 総括（成果と課題）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
- II 学校間連携（生徒交流）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
- III 地域との連携・協働・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

第3章 調査研究の総括

- I 事業関係アンケート調査結果の分析・・・・・・・・・・・・・・ 90
- II 設定目標の達成状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

第4章 第3年次に向けて

- I 「教科・科目充実型」遠隔授業の本格実施に係る調査研究・・・・ 102
- II 学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究・・・・・・ 104
- III 学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究・・・・ 105

資料

- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」事業概要図・・・・・・・・・・・・ 108
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 設置要綱・・・・・・・・ 109
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会 委員名簿・・・・・・・・ 110
- 「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要・・・・・・・・・・・・ 111

第1章

3か年の調査研究計画と 第1年次の取組

I 3か年の調査研究計画

テーマ	新潟の未来を SaGaSu プロジェクト「持続可能な離島・中山間地域を目指して」 ～ICTの活用と連携・協働による地域人材の育成モデルの構築～		
	小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築	同一自治体内の複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築	地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築
R3	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔授業システムの構築 (R3) ○遠隔授業試行による展開及び評価に関する調査研究 (R3) ○タブレットとクラウドを活用した遠隔授業の実施 (R3～R5) 	<ul style="list-style-type: none"> □佐渡市内5校による学校間連携 (R3～R5) □佐渡中等教育学校と阿賀黎明高等学校による1学級募集の中高一貫教育校の連携 (R3～R5) □羽茂高等学校と阿賀黎明高等学校の「地域探究コース」の連携 (R3～R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域協働コンソーシアムの構築 (R3) ●地域協働コンソーシアムの活動を踏まえた「スクール・ミッション」の再定義及び「スクール・ポリシー」の策定 (R3)
R4	校時表の午後時程統一化と学校間連携を生かした遠隔授業の実施 (R4・R5)		学校間連携と地域連携・協働による課題研究の実施に関する調査研究 (R4・R5)
	<ul style="list-style-type: none"> ○理科など実習を伴う教科・科目における遠隔授業に関する調査研究 (R4・R5) ○佐渡・阿賀の地質・鉱物等の学習に係る教育課程の共通化に関する調査研究 (R4・R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携・協働した活動による生徒や地域の変容の評価に関する調査研究 (R4・R5) 	
R5	学校間連携と地域コンソーシアムの構築と生徒のキャリア形成に関する調査研究 (R5)		
	最終事業報告会 (シンポジウム) の開催と事業評価 (R5) 「遠隔授業、学校間連携、地域協働の新潟モデルの創出と、これからの持続可能な離島・中山間地域における人材育成について」		

Ⅱ 第1年次（令和3年度）の取組

1 遠隔授業

(1) 取組

ア 遠隔授業システムの構築

信州大学教育学部 東原 義訓 特任教授からの助言により、生徒1人1台端末の環境を前提とした汎用性の高い遠隔授業システムを構築。

イ 試行授業の実施

令和3年11月から、3科目で10回の試行授業を実施。生徒1人1台端末の環境のもとに、JamboardなどGoogleのツールを活用した遠隔授業の方法を研究。デジタルスイッチャーを活用し、書画カメラやビデオカメラなど、様々な提示装置を利用した授業を研究。

ウ オンライン講習の実施

令和3年11月～令和4年2月の間で、大学進学希望者を対象に、6教科10科目のオンライン講習を実施。オンデマンド型と双方向ライブ型の講習を実施し、延べ54人が受講。

エ 遠隔授業研究協議会の開催

令和4年2月に新潟県遠隔授業研究協議会を開催し、本事業の取組や遠隔授業の方法等を全県に周知。各県立高校等から1名ずつ、計88人が参加。

(2) 成果と課題

- 第2年次（令和4年度）の遠隔授業の本格実施に向け、生徒のタブレット端末を活用した双方向型の授業展開や、デジタルスイッチャーを活用した教材の提示など、効果的な遠隔授業の方法についてノウハウを蓄積した。
- 遠隔授業では、生徒が教員に質問しづらいなどの課題も明らかになった。
- オンライン講習では、希望制としたこともあり、受講登録時に比べて参加人数が減少し、配信教員のモチベーションの維持が課題となった。
- 遠隔授業研究協議会の開催により、遠隔授業の意義やその取組を県内の全県立高校等に周知した。



配信側のシステム機器

2 学校間連携

(1) 取組

ア 生徒会交流

令和3年6月に、ネットワーク構成校の生徒会役員がオンラインで顔合わせをするキックオフイベントを実施。

イ SaGaSu プロジェクトのロゴマークの作成

ネットワーク構成校でロゴマークの案を募集し、24件の応募があり、Google Forms を活用した投票により、最多得票作品を選び、これをベースにロゴマークを作成。

ウ 2校合同の探究学習交流授業

令和3年10月、羽茂高校の2年生18人が阿賀黎明高校を訪問し、阿賀黎明高校2年生22人と合同で、6班に分かれて探究学習の取組を相互発表。

エ 3校合同の地域探究学習発表会

羽茂高校2年生22人と、阿賀黎明高校2年生18人、佐渡総合高校2年生22人がオンラインで参加し、3校のそれぞれの代表3グループが、地域資源を活かした探究学習の成果を発表。

(2) 成果と課題

- 6月のオンラインキックオフイベントにより、ネットワーク構成校で協力して取り組んでいこうとする生徒間の雰囲気醸成できた。
- 生徒がオンラインを活用し、学校間で意見交換を行いながら、SaGaSu プロジェクトのロゴマークを作成した。本プロジェクトにおいて、生徒が参画する場をつくることができた。
- 今後は、より一層、生徒・学校で学校間連携について主体的に考え、企画し、行動することが課題である。
- 探究学習の交流では、生徒から、「他校の生徒との交流は刺激になった」「異なる地域でも共通した課題があることが分かった」など、有意義な機会であったとの感想が多かった。



キックオフイベント（学校紹介）の様子



最多得票作品を元にしたロゴマーク案



2校合同交流授業の様子



佐渡総合高校の発表の様子

3 地域との連携・協働

(1) 取組

佐渡教育コンソーシアム

ア 総合的な探究の時間における「SDGs 講演会」の実施

コンソーシアムの支援により、地球環境戦略研究機関や長岡技術大学から講師を招き、羽茂高校、佐渡総合高校、佐渡中等教育学校で「SDGs 講演会」を実施。

イ 羽茂高校の学校設定科目「ソーシャルデザイン」（2年）への支援

羽茂高校の教科横断的な学校設定科目「ソーシャルデザイン」において、佐渡市の職員が協力し、地元農業や、福祉、伝統食、ビジネスなどの学習を支援。

ウ 進路ガイダンスの支援

佐渡高校相川分校において、佐渡市内の企業、団体が協力し、分野別進路ガイダンス（製造、建設、販売、介護、接客の5分野）を実施。

エ 佐渡市高校生議会の開催

佐渡市主催の高校生議会に、羽茂高校と佐渡総合高校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問や、SDGsの17の目標に関連付けた政策を提案。

阿賀学コンソーシアム

ア 生徒募集に向けた活動

中学生及びその保護者を対象に、「学校見学&まなび体験会」を開催し、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学して魅力を体感してもらったり、教育留学生と交流する機会を設定。「地域みらい留学」オンライン合同説明会を4回実施。

イ 阿賀黎明高校の総合的な探究の時間「阿賀学」の支援

1年「あがまちゼミ」において、地元有志「阿賀黎明探究パートナーズ」のメンバー12人が、①まちづくり・福祉、②観光・商業、③自然・農林業の3テーマについて講話を担当。

ウ 職業体験の支援

2年生の生徒が設定した8テーマ（アウトドア・林業・食・カフェ・川・建設・福祉・保育）に沿って、協力団体が生徒とともに各分野の体験活動を実践。

エ 学校設定科目「地域学」の支援

地域プロジェクトを企画・立案する2年生6チーム（商業・観光・福祉・まちづくり・土木・農業）と一緒に活動し、課題解決に向けた取組を支援。

(2) 成果と課題

- 高校がコンソーシアム関係者と定期的な会合を重ね、高校の魅力化が町の活性化につながるという共通認識をもつこととなり、ビジョンを共有しながら様々な意見交換を行った。
- 令和3年度における教育留学制度に関連した阿賀黎明高校への入学志願者は10人弱で、これまでの積極的な広報活動が成果となって表れている。その一方、阿賀町内の2つの中学校からの入学志願者数が伸びておらず、町内の生徒や保護者に対する一層の本事業の取組の周知や高校の魅力発信が必要である。

第2章

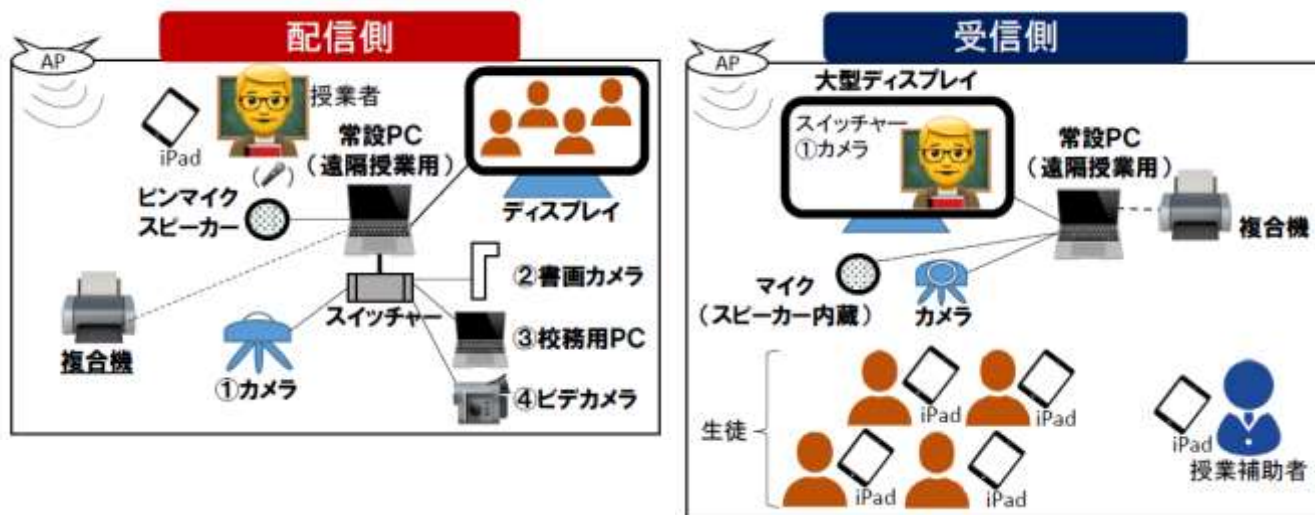
第2年次の取組

I 遠隔授業

1 令和4年度遠隔授業実施に向けた体制

(1) 遠隔授業システムの構築

令和3年度において、生徒1人1台端末の環境を前提とした、汎用性の高い遠隔授業システムを構築し（概要図参照）、次のように配信側、受信側を接続した。



ア 配信校の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71 (TOSHIBA)
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U (Tenveo)
27 インチディスプレイ	JN-IPS2705UHDR (JAPANNEXT)
ピンマイク	MM-MCF03BK (SANWA)
スピーカー	MM-SPL6BK (SANWA)
FAX機能付き複合機	PX-M6711FT (EPSON)
書画カメラ・ペンタブレット	L12F・CRA-2 (ELMO)
デジタルスイッチャー	Blackmagic Design Mini Pro (ATEM)
10.1型モバイルディスプレイ	JN-MD-IPS1010HDR (JAPANNEXT)

イ 受信校の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71 (TOSHIBA)
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U (TENVEO)
65 インチディスプレイ	FW-65BZ30J/BZ (SONY)
マイク・スピーカーシステム ・拡張マイク(2台)	YVC-1000 (YAMAHA) ・ YVC-MIC1000EX (YAMAHA)
FAX機能付き複合機	PX-M6711FT (EPSON)

※令和4年度から変更した点

- 生徒用タブレット端末は、県費で購入した Apple 社製端末を使用した。（令和3年度は生徒一人一台端末の環境が整っていなかったため、Google クラウドジャパン合同会社から

の貸与端末（Chromebook）を使用）

- 上記端末の使用を踏まえ、遠隔授業用に Apple 社製電子ペンを、県費で受信生徒数分整備した。
- 配信教員の Google アカウントに、有償ライセンス（Teaching and Learning Upgrade）を付与した（ノイズキャンセルや、ブレイクアウトセッションなどの追加機能を活用）。

【基本的な接続方法】

○ 配信側・受信側双方の遠隔授業用パソコンを Google Meet により接続

Google Meet に接続することで、配信側のディスプレイ（27 インチ）に受信側生徒の様子を映すとともに、受信側の大型ディスプレイ（65 インチ）に配信教員の様子が映し出され、両者が対面する環境を整えた。

なお、配信側にはデジタルスイッチャーを整備しており、①配信者を映すカメラ、②書画カメラ、③校務用 PC、④教師用 iPad（又はビデオカメラ）のそれぞれの映像を、場面に応じて切り替えることが可能である。授業では、①を中心としつつ、②を利用して紙媒体で提示資料にマーカーを引きながら示したり、④で実験台を映し、演示実験の様子を映すことができる。

○ 配信側教員と受信側生徒とのタブレット端末を Google Classroom 等により接続

Google Workspace のアプリケーション（Google Classroom、Forms、Jamboard、ドキュメント等）を活用して、課題の送受信や同時共同編集を行うなど、個別最適な学びや協働的な学びを実現できる環境を整えた。

なお、一部授業では、Google Workspace のアプリケーションに加え、今年度、本県県立高校等に導入されたロイロノートや他のアプリケーションも活用している。



【遠隔授業用 PC を接続する Google Classroom】

配信教員と受信補助職員を登録し、Google Meet（囲み部分）から配信校・受信校ともに接続して、双方のディスプレイにお互いの様子を映す。



【タブレット端末を接続する Google Classroom】

配信教員と受信生徒を登録し、Google WorkSpace のアプリケーションによって、課題やアンケートを送受信したり、Google Meet（丸囲み部分）に接続して、教材等を画面共有する。

(2) 遠隔授業運用規程の策定

高等学校教育課が令和4年2月28日付で「遠隔授業の実施に係る運用規程」を策定し、配信校や受信校における留意点とともに、学習評価・単位認定等について実施校に周知した。

「遠隔授業の実施に係る運用規程」の主なポイント

I 遠隔授業全般

- 遠隔授業の実施にあたって、対面授業は年間2単位時間以上を確保
- 配信側は、当該教科の免許状を保有する教員
- 受信側には、授業補助としての教員（当該教科の免許状の有無は問わない）又はその他の教職員（*）を配置
*その他の教職員…校長の指揮監督下にある学校教職員で、実習助手や会計年度任用職員など。文部科学省事業で特例的に認められた措置。

II 配信校

- 配信校（配信教員）の業務
 - ・ 受信校との協議を踏まえ、年間指導計画及びシラバス、授業配信計画の作成
 - ・ 遠隔授業及び対面授業の実施
 - ・ 受信校の教員等の協力を得ながら、配信する教科・科目の学習を評価
- 配信教員には受信校の教諭の兼務を発令

III 受信校

- 受信校の業務
 - ・ 配信教員の業務の補助
 - ・ 遠隔授業の使用教科書及び副教材の選定
 - 授業補助としての教員等の業務
 - ・ 遠隔授業実施前の教材や機器設定等の準備及び配信教員との事前打合せ
 - ・ 遠隔授業時における遠隔授業システム機器と生徒用端末の操作補助、タブレット端末等を使用した机間指導
 - ・ 遠隔授業実施後の機器の後片付け及び配信教員との事後打合せ
- ※ 上記内容を、受信サポート日誌に記録することとする。（次頁【参考】を参照）

IV 学習評価・単位認定

- 出席時数等の扱いや履修・単位修得の認定に関しては、受信校の規程による
- 定期考査について
 - ・ 配信側と受信側の役割分担は次の表のとおり

		定期考査業務に係る分担				考査後の授業
配信側	作問			採点 ^(※1)		解説
受信側		印刷	監督		返却 ^(※2)	授業支援

※1…受信校の当該教科主任等が解答用紙をPDFファイル化し、統合型校務支援システムのグループウェアにて配信教員に送信する。配信教員は、そのPDFファイルをもとに採点。

※2…配信教員が統合型校務支援システムのグループウェアにて遠隔授業支援教員等に採点済みPDFファイルを送付し、遠隔授業支援教員等はカラー印刷したものと及び保管した原本を返却。

【参考】受信側補助職員が毎時間記録するサポート日誌

令和4年度遠隔授業 受信サポート日誌（例）

	学校名	担当者職名	担当者氏名
配信校	A 高等学校	教諭	C
受信校	B 高等学校	事務職員	D

教科（科目）	数学（数学B）	
業務	内容	成果・反省点
授業前の準備及び打合せ (日時も記載)	体育祭の延期により、急遽授業を行うことになった（前日に連絡、教頭は両校ともに不在。B高校校長も電話連絡をしたとのこと）。	受信校・配信校ともに無理なく学校運営ができるような連絡体制の構築が必要と思われる。 (時間変更について、教頭間の事前協議がなかった)
授業中の支援	・生徒の手元をタブレットで撮影 (作業速度を確認するため)	
授業後の打合せ	本日は授業のペースが普段より速かったため、生徒がついていけているかどうかについて情報共有（生徒の手元を別のタブレットで適宜写しているのので、生徒がおいていかれていることはなさそう）	ノートに精一杯で解説が聞けないような状況をなるべく作らないように、適宜生徒の作業状態を確認
授業評価の支援	観点別評価の材料とするため、Jamboardに取り組んでいる時間に机間支援を行った	
特記事項		

(3) 配信時間割及び予定表の作成

遠隔授業運用規程に基づき、配信校の教頭は、受信校の年間行事計画及び月間行事計画を踏まえ、月ごとに遠隔授業の時間割及び配信予定表を組むとともに、受信校の学校行事や短縮時程に応じて別途、授業変更の調整も行った。

【参考】配信校（新潟翠江高校）の配信時間割

※ 部分は原則配信授業を入れない（通信制の学校の業務）

火曜日					水曜日					金曜日				
相川分校	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	相川分校	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	相川分校	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明
8:20					8:20					8:20				
8:25					8:25					8:25				
8:30		SHR	朝読書	SHR	8:30		SHR	朝読書	SHR	8:30		SHR	朝読書	SHR
8:35		SHR		1限	8:35		SHR		1限	8:35		SHR		1限
8:40			SHR		8:40			SHR		8:40			SHR	
8:45		1限			8:45		1限			8:45		1限		
8:50	1限	1限	1限	1限	8:50	1限	1限	1限	1限	8:50	1限	1限	1限	1限
8:55					8:55					8:55				
9:00					9:00					9:00				
9:05					9:05					9:05				
9:10					9:10					9:10				
9:15					9:15					9:15				
9:20				9:22	9:20				9:22	9:20				9:22
9:25					9:25					9:25				
9:30					9:30					9:30				
9:35				9:38	9:35				9:38	9:35				9:38
9:40					9:40					9:40				
9:45					9:45				2限	9:45				2限
9:50	2限	2限	2限	2限	9:50	2限	2限	2限	2限	9:50	2限	2限	2限	2限
9:55		2限	2限		9:55		2限		2限	9:55		2限		2限
10:00		2限	2限		10:00		2限		2限	10:00		2限		2限
10:05		2限	2限		10:05		2限		2限	10:05		2限		2限
10:10		2限	2限		10:10	2限	2限		2限	10:10		2限		2限
10:15		2限	2限		10:15		2限		2限	10:15		2限		2限
10:20		2限	2限		10:20		2限		2限	10:20		2限		2限
10:25		2限	2限		10:25		2限		2限	10:25		2限		2限
10:30		2限	2限	10:33	10:30		2限		2限	10:30		2限		2限
10:35		2限	2限		10:35		2限		2限	10:35		2限		2限
10:40		2限	2限		10:40		2限		2限	10:40		2限		2限
10:45		2限	2限		10:45		2限		2限	10:45		2限		2限
10:50	3限	3限	3限	3限	10:50	3限	3限	3限	3限	10:50	3限	3限	3限	3限
10:55		3限	3限		10:55		3限		3限	10:55		3限		3限
11:00		3限	3限		11:00		3限		3限	11:00		3限		3限
11:05		3限	3限		11:05		3限		3限	11:05		3限		3限
11:10		3限	3限		11:10		3限		3限	11:10		3限		3限
11:15		3限	3限		11:15		3限		3限	11:15		3限		3限
11:20		3限	3限		11:20		3限		3限	11:20		3限		3限
11:25		3限	3限		11:25		3限		3限	11:25		3限		3限
11:30		3限	3限	11:28	11:30		3限		3限	11:30		3限		3限
11:35		3限	3限		11:35		3限		3限	11:35		3限		3限
11:40		3限	3限		11:40		3限		3限	11:40		3限		3限
11:45		3限	3限		11:45		3限		3限	11:45		3限		3限
11:50	4限	4限	4限	4限	11:50	4限	4限	4限	4限	11:50	4限	4限	4限	4限
11:55		4限	4限		11:55		4限		4限	11:55		4限		4限
12:00		4限	4限		12:00		4限		4限	12:00		4限		4限
12:05		4限	4限		12:05		4限		4限	12:05		4限		4限
12:10		4限	4限		12:10		4限		4限	12:10		4限		4限
12:15		4限	4限		12:15		4限		4限	12:15		4限		4限
12:20		4限	4限		12:20		4限		4限	12:20		4限		4限
12:25		4限	4限		12:25		4限		4限	12:25		4限		4限
12:30		4限	4限		12:30		4限		4限	12:30		4限		4限
12:35		4限	4限		12:35		4限		4限	12:35		4限		4限
12:40		4限	4限		12:40		4限		4限	12:40		4限		4限
12:45		4限	4限		12:45		4限		4限	12:45		4限		4限
12:50		4限	4限		12:50		4限		4限	12:50		4限		4限
12:55		4限	4限		12:55		4限		4限	12:55		4限		4限
13:00		4限	4限	5限	13:00		4限		4限	13:00		4限		4限
13:05		4限	4限		13:05		4限		4限	13:05		4限		4限
13:10		4限	4限		13:10		4限		4限	13:10		4限		4限
13:15		4限	4限		13:15		4限		4限	13:15		4限		4限
13:20		4限	4限		13:20		4限		4限	13:20		4限		4限
13:25		4限	4限		13:25		4限		4限	13:25		4限		4限
13:30		4限	4限		13:30		4限		4限	13:30		4限		4限
13:35		4限	4限		13:35		4限		4限	13:35		4限		4限
13:40		4限	4限		13:40		4限		4限	13:40		4限		4限
13:45	5限	5限	5限	5限	13:45	5限	5限	5限	5限	13:45	5限	5限	5限	5限
13:50		5限	5限		13:50		5限		5限	13:50		5限		5限
13:55		5限	5限		13:55		5限		5限	13:55		5限		5限
14:00		5限	5限		14:00		5限		5限	14:00		5限		5限
14:05		5限	5限		14:05		5限		5限	14:05		5限		5限
14:10		5限	5限		14:10		5限		5限	14:10		5限		5限
14:15		5限	5限		14:15		5限		5限	14:15		5限		5限
14:20		5限	5限		14:20		5限		5限	14:20		5限		5限
14:25		5限	5限		14:25		5限		5限	14:25		5限		5限
14:30		5限	5限		14:30		5限		5限	14:30		5限		5限
14:35		5限	5限		14:35		5限		5限	14:35		5限		5限
14:40		5限	5限		14:40		5限		5限	14:40		5限		5限
14:45		5限	5限		14:45		5限		5限	14:45		5限		5限
14:50		5限	5限		14:50		5限		5限	14:50		5限		5限
14:55		5限	5限		14:55		5限		5限	14:55		5限		5限
15:00		5限	5限		15:00		5限		5限	15:00		5限		5限
15:05		5限	5限		15:05		5限		5限	15:05		5限		5限
15:10		5限	5限		15:10		5限		5限	15:10		5限		5限
15:15		5限	5限		15:15		5限		5限	15:15		5限		5限
15:20		5限	5限		15:20		5限		5限	15:20		5限		5限
15:25		5限	5限		15:25		5限		5限	15:25		5限		5限
15:30		5限	5限		15:30		5限		5限	15:30		5限		5限
15:35		5限	5限		15:35		5限		5限	15:35		5限		5限
15:40		5限	5限		15:40		5限		5限	15:40		5限		5限
15:45		5限	5限		15:45		5限		5限	15:45		5限		5限
15:50		5限	5限		15:50		5限		5限	15:50		5限		5限
15:55		5限	5限		15:55		5限		5限	15:55		5限		5限
16:00		5限	5限		16:00		5限		5限	16:00		5限		5限
16:05		5限	5限		16:05		5限		5限	16:05		5限		5限
16:10		5限	5限		16:10		5限		5限	16:10		5限		5限
16:15		5限	5限		16:15		5限		5限	16:15		5限		5限
16:20		5限	5限		16:20		5限		5限	16:20		5限		5限
16:25		5限	5限		16:25		5限		5限	16:25		5限		5限

【参考】 通年配信科目の月間配信予定表（4月の例）

配信校	新潟翠江	新潟翠江	新潟翠江	佐渡	新潟翠江	新潟翠江	新潟翠江	新潟翠江
受信校	佐渡相川	羽茂			佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	
科目	地理A	古典B	セミナー日本史	化学基礎	政治経済	数学B	化学基礎	地理B
日	火5限(13:35~14:25) 水6限(14:35~15:25) 金3限(10:50~11:45)	水2限(9:50~10:45) 金2限(9:50~10:45)	火6限(14:45~15:40) 水3限(10:55~11:50) 金3限(10:55~11:50)	水3限(10:55~11:50) 木4限(12:35~13:30)	火5限(13:20~14:10) 水5限(13:20~14:10)	火6限(14:23~15:13) 水5限(13:28~14:18)	火6限(13:52~14:42) 水4限(11:17~12:07) 金3限(10:22~11:12)	水2限(9:27~10:17) 水3限(10:22~11:12) 金2限(9:27~10:17)
1	金							
2	土							
3	日							
4	月							
5	火							
6	水							
7	木							
8	金							
9	土							
10	日							
11	月							
12	火	現地訪問	①		①	現地訪問	①	
13	水		①	②	現地訪問	②	×	①
14	木	①	②	③	①			
15	金	②					現地訪問	②
16	土							
17	日							
18	月							
19	火	③		④		①	③	
20	水		現地訪問	現地訪問	②	現地訪問	②	③
21	木	④	③	⑤				
22	金	⑤					⑤	④
23	土							
24	日							
25	月							
26	火	⑥		⑥		④	③	⑥
27	水		④	⑦	③	⑤	④	⑦
28	木	⑦	⑤	⑧	④			⑤
29	金							
30	土							

※表中の丸数字は授業実施回を、「現地訪問」は配信教員による対面授業実施日を表す。

(4) CIO の任用

遠隔授業の実施に係る管理機関や遠隔授業実施校への指導・助言を得るため、令和3年度に引き続き、元新潟大学教職大学院特任教授 大橋 英喜 氏を CIO（最高情報責任者、教育庁参与）として配置した。

【CIO 勤務実績】

勤務日	時間	業務内容
令和4年 4月27日（水）	11:45-15:45	【県庁】辞令交付及び打合せ 【新潟翠江高校】訪問指導（佐渡総合「政治・経済」・佐渡中等「数学B」・佐渡高校相川分校「地理B」授業視察）
5月11日（水）	13:30-16:30	【県庁】遠隔授業オンライン参観の環境設定に係る指導・助言
5月18日（水）	13:00-15:30	【佐渡総合高校】訪問指導（「政治・経済」授業視察、通信環境・音質に関する確認）
5月25日（水）	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業オンライン参観（羽茂高校「化学基礎」）及び指導・助言
5月31日（火）	13:30-16:30	【県庁】遠隔授業の対外的発表資料に係る指導・助言
6月3日（金）	10:00-16:00	【東京】NEW EDUCATION EXPO 2022（東京会場）に参加 ○講演聴講 「GIGA スクール構想の 1人1台端末を活用した学び」 「GIGA スクールにおけるネットワーク環境を考える」 ○各企業ブースにて、遠隔授業の機器に関する意見交換
6月8日（水）	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業の取組に関する動画編集に係る指導・助言
6月14日（火）	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業実施校教頭ミーティングにおける指導・助言、新潟日報取材対応
6月22日（水）	9:00-12:00	【県庁】生徒対象遠隔授業アンケートの実施に係る指導・助言
6月29日（水）	13:00-16:10	【新潟翠江高校】訪問指導（校長・教頭面談、授業参観（「政治・経済」「地理A」、配信担当教員面談）
7月6日（水）	9:00-12:00	【新潟翠江高校】訪問指導（「地理B」授業参観、校長・教頭面談）、新潟日報取材対応
7月8日（金）	9:00-12:00	【県庁】第1回指導委員会の説明資料及び CORE ハイスクール・ネットワーク構想実証地域連絡会議説明資料の作成に係る指導・助言
7月11日（月）	9:00-12:00	【県庁】「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」第1回指導委員会に出席
7月13日（水）	13:30-16:30	【東京】「CORE ハイスクール・ネットワーク構想」実証地域連絡会議に出席

7月27日(水)	14:00-16:20	【新潟翠江高校】訪問指導(校長・教頭、配信教員面談)
8月3日(水)	9:00-12:00	【県庁】これまでの課題及び今後の対応に係る指導・助言
8月25日(木)	13:00-16:00	【県庁】これまでの遠隔授業の取組に係る教育長説明 【新潟市内】福祉の遠隔授業実施に向けた介護サービス企業(ツクイ新潟西営業所)との意見交換
8月31日(水)	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業生徒アンケートの実施に係る指導・助言
9月7日(水)	9:00-12:00	【県庁】公開授業(11月)の実施に係る指導・助言
9月13日(火)	13:00-16:00	【新潟翠江高校】訪問指導(阿賀黎明高校「化学基礎」の授業視察)
9月21日(水)	9:00-12:00	【阿賀黎明高校】訪問指導(「地理B」の対面授業視察、「化学基礎」のオンライン参観)
9月28日(水)	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業オンライン参観(羽茂高校「古典B」)、放課後オンライン講習実施に係る指導・助言
10月5日(水)	9:00-12:00	【県庁】放課後補習講座についての資料作成
10月12日(水)	13:00-16:00	【県庁】放課後オンライン講習実施及び公開授業実施要項に係る指導・助言
10月18日(火)	13:00-16:00	【新潟翠江高校】訪問指導(校長面談、「地理B」「化学基礎」「数学B」の授業視察、群馬県教育委員会との意見交換)
10月26日(水)	13:00-16:00	【県庁】ネットワーク校合同探究発表会(オンライン)への参加
11月2日(水)	13:00-16:00	【県庁】第2回指導委員会説明資料及び公開授業の実施方法に係る指導・助言
11月7日(月)	9:00-12:00	【自治会館】「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」第2回指導委員会に出席
11月8日(火)	13:00-16:00	【新潟翠江高校】訪問調査(これまでの課題と今後の対応について、配信教員と面談)
11月29日(火)	13:00-16:45	【県庁】「COREハイスクール・ネットワーク構想」第2回実証地域連絡会議に出席(オンライン)
12月7日(水)	9:30-12:30	【阿賀黎明高校】遠隔授業研究協議会のオンライン公開授業に向けた配信テストに係る指導・助言
12月13日(火)	13:00-16:00	【県庁】公開授業アンケート結果の分析に係る指導助言。遠隔授業オンライン参観(佐渡中等「数学B」)
12月21日(水)	13:00-16:00	【県庁】遠隔授業研究協議会のオンライン公開授業に向けた機器環境に係る指導・助言
令和5年 1月11日(水)	13:00-16:00	【県庁】遠隔授業研究協議会のオンライン公開授業に必要な機器と設置方法に係る指導・助言

1月17日(火)	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業研究協議会に係る指導・助言
1月18日(水)	9:20-12:10	【新潟翠江高校】訪問指導(「古典B」「セミナー日本史」最終授業の視察、遠隔授業研究協議会に係る打合せ)
1月25日(水)	9:55-12:25	【新潟翠江高校】訪問指導(遠隔授業研究協議会のオンライン公開授業に係る機器接続確認)
1月27日(金)	13:00-16:00	【県庁】ネットワーク校探究活動等成果発表会に参加
2月1日(水)	9:00-12:00	【県庁】遠隔授業研究協議会のオンライン公開授業の配信テスト
2月8日(水)	8:30-12:20	【県庁】遠隔授業研究協議会に参加
2月15日(水)	13:30-16:30	【自治会館】「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」第2回指導委員会に出席
2月21日(火)	13:00-16:00	【県庁】「COREハイスクール・ネットワーク構想」実証地域成果報告会にオンライン参加
3月2日(木)	13:00-16:30	【県庁】令和5年度遠隔授業実施に係るシステム更新の検討
3月17日(金)	13:30-16:00	【新潟翠江高校】訪問指導(令和5年度配信教員対象の遠隔授業システム現地説明会)
3月27日(月)	9:30-12:00	【新潟翠江高校】訪問指導(令和5年度遠隔授業の実施に係る事前説明会)

2 遠隔授業の実施

令和3年度の試行実施を踏まえ、令和4年度は計9科目にわたり遠隔授業を実施し、うち8科目は単位認定を伴う通年配信とした。

また、文部科学省事業の特例措置により、一部科目で非常勤事務職員や実習助手による受信側補助も実施した。

配信側	受信側	教科 科目	受信側補助職員	単位数	備考
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 3年	地理歴史 地理B	教頭	3	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 2年	理科 化学基礎	非常勤事務職員	3	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡高校相川 分校2年	地理歴史 地理A	地歴教諭	3	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	国語 古典B	国語常勤講師	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	地理歴史 セミナー日本史	実習助手	3	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡総合高校 2年	公民 政治・経済	数学教諭	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校5年	数学 数学B	数学教諭	2	通年配信
佐渡高校	羽茂高校2年	理科 化学基礎	理科常勤講師	2	通年配信
佐渡総合高校	羽茂高校2年	地域探究 ソーシャルデザイン	家庭科教諭	2	スポット 配信

【各教科・科目の遠隔授業の状況】

教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	3
-------	----------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校		学年	3学年
			受信生徒数	2名
	受信教室配置職員	教員	○	教頭（理科）
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet、Google Earth、スライド、Forms、YouTube、		
	その他	Book、映像資料		
配信側の状況	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの自身の授業では説明や解説が長くなりがちであったが、遠隔授業を担当したことにより、生徒が考え、表現する活動を取り入れた授業へ転換する契機となった。 ○ 各種アプリケーションを活用した調べ学習や発表の機会の設定するとともに、動画教材を効果的に活用して、生徒の興味・関心を引き出すことにつながった。 ○ 受信生徒数が2人のため、協働的な学習機会の確保には限界があった。今後、複数校同時配信ができれば、そうした状況も改善できると考える。 			
受信側の状況	<p>【授業前の準備及び打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機器の準備 ○ 授業プリントの印刷 ○ 考査の採点済み解答用紙を返却 <p>【授業中の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 配信側カメラ及びマイクが不調になった際など、受信側の状況を配信教員に伝えた。 <p>【授業後の打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事等による短縮授業の予定について配信側教員に伝達した。 ○ 受信教室の変更について伝達した。 			



配信室の様子



受信教室の様子



配信教員がタブレットで解説している様子



生徒がタブレットで地図アプリを使用する様子



対面授業の様子

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	3
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立阿賀黎明高等学校		学年	2 学年
			受信生徒数	6 名
	受信教室配置職員	教員		
		教員以外	○	非常勤事務職員
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリケーション	Google	Classroom、Meet		
	その他	ロイロノート		
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業前後のオンラインでの打ち合わせ等を通じて、配信側の要望を受信側補助職員に伝えた。これにより、タブレットで生徒の手元を映してもらい、生徒の学習状況を把握することができ、グループワークや発表を円滑に実施することができた。 ○ 複数のアプリケーションを切り替えながら授業をすることが難しく、生徒の学習効率も損なわれると感じたことから、複数のアプリケーションの機能を代替できる「ロイロノート」を利用することでその解決が図られた。 ○ 「Classroom」を活用して、授業以外でも生徒にメッセージを発信することで、コミュニケーションの機会を増やすことを試みた。また、Meetを活用したオンライン質問タイムを設けることで、テスト前などに生徒が質問しやすい環境を整えるなどした。 <div data-bbox="544 1469 1326 1951" data-label="Image"> <p>The screenshot shows a message from a teacher (高見 和雄) dated 2022/11/10. The message text is as follows:</p> <p>本日から学期開始になったと驚きました。明日の9時10分～10化学基礎の授業は、オンライン配信で、みなさんには自宅から参加してもらいます。もちろん、体調が悪い人は欠席となりますが、参加できる人は、10:15～10:20の間に、クラスルームに入ってください。</p> <p>【参加方法】「R4阿賀黎明化学基礎タブレット」のクラスルーム画面の右上のビデオマークを押して、「参加」ボタンをおす。カメラやビデオの許可を求められたら、すべて「許可」を押してください。</p> <p>【注意】動画でも見守ってもらいます。マスクは外してビデオをONにしたまま参加してもらいます。輪番が回り込むので考慮すること、WiFiが良く入る場所を決めておいてください。iPadと筆記用具。(あればタッチペンと数角筆)を準備しておくこと。</p> <p>★本日15:35から、テストでみなさんとなつてみたいのですが、クラスルームのビデオマークから参加してもらえますか？みなさんの都合が悪ければ時間を変更しますが、具合が大丈夫なら、まずは、このメッセージを見たら、下の「クラスのコメントを通知」から返信ください！高見</p> <p>Below the message, there is a comment from a student (高見 和雄) dated 2022/11/10: 今日見ました。遅くなってすみません。</p> </div> <p style="text-align: center;">Google Classroomでの生徒とのやりとり</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習などの課題や教材などを授業時間以外にも配付することが可能であったため、家庭学習の充実につながった。 ○ 実験ができない分、実験動画を利用する場面が多かったが、準備、実験、片付けなどの時間がかからないため、協働学習や考察に時間をかけることができた。 ○ 理科の実験は、薬品を扱える教員が教室にいない状況で実験をさせることは難しい。生徒だけで行えるような実験は限られるので、どうしても実験の回数は減らさざるを得ない。
<p style="text-align: center;">受信側の状況</p>	<p>【授業前の準備及び打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機器の準備、生徒の活動に応じた集音マイクの置き位置の確認 ○ 授業プリントの印刷 ○ 撮影する生徒の順番を確認 ○ 考査の採点済み解答用紙を返却 <p>【授業中の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末を三脚で固定したり、持ち歩いたりしながら、生徒の授業態度や生徒手元の様子を配信した。 ○ 生徒の iPad の充電が切れた際、持ち帰り対応前は他の生徒が使っていない端末を使わせた。その後は、延長コードを用意して自席で充電しながら授業を受けさせた。 ○ 体調不良の生徒を配信教員に伝え、保健室に行くよう指示した。 ○ 配信側カメラ及びマイクが不調になった際、受信側の状況を配信教員に伝え、タブレット端末を利用して授業を継続する手助けをした。 <p>【授業後の打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事等による短縮授業の予定について配信教員に伝達した。 ○ 配信教室の変更について伝達した。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験の際、生徒の声や机・椅子の移動の音で配信教員の指示が聞きにくくなる。 <p>【総括と今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員でないことから、生徒の欠席理由が病欠なのか、あるいは公欠なのかかわからないことがあった。あらかじめ授業の出席人数が分かっていると、配信教員が受信生徒の様子を見やすいように、カメラ位置を調節することもできる。 ○ 授業中の生徒の授業態度が悪い、あるいは非常事態（災害等）が起きた、というときにどのような対応をするべきなのか、事務職員という立場では対応が難しい。 ○ 配信教員が大型ディスプレイの画面に映す教材を変更する時、配信教員の声が届かない時がある。操作に手間取って話せないだけなのか、マイクがオフまたは音声の通信が途切れてしまっているのか判断するのに少し時間を要してしまう。



配信室の様子



受信教室の様子（○囲みは受信側補助職員）



実験の様子

教科・科目	地理歴史・地理A	単位数	3
-------	----------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡高等学校相川分校		受信学年	2 学年
			受信生徒数	10 名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭（地理歴史・世界史）
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet、Google Earth、スライド、Forms、YouTube、		
	その他	Book、映像資料		
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの自身の授業では説明や解説が長くなりがちであったが、遠隔授業を担当したことにより、生徒が考え、表現する活動を取り入れた授業へ転換する契機となった。 ○ 各種アプリケーションを活用した調べ学習や発表の機会の設定するとともに、動画教材を効果的に活用して、生徒の興味・関心を引き出すことにつながった。 ○ 単元の中で受信校が立地する地域の文化や産業等と関連付けられるものがあれば積極的に取り入れ、地域の魅力の再発見や愛着の醸成にも努めた。 <div data-bbox="564 1330 1287 1720" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">タブレット用 Google Classroom 上の課題一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遠隔授業だけの関わりとなる受信生徒との信頼関係の構築や適切な指導に苦慮した。 ⇒ 受信校の教員との連絡を密に行うことで、受信校の学校行事や諸活動を把握するとともに、新聞記事等で受信校や受信生徒の活躍を確認した際には、必ず授業冒頭で話題にすることを心掛けた。 			

受信側の状況

【授業前の準備及び打合せ】

- 事前にグループウェアに送信された授業プリントを印刷、配付
- 考査の採点済み答案を印刷、原本とともに生徒へ返却

【授業中の支援】

- 机間指導（集中できていない生徒、寝そうな生徒への声かけなど）

【授業後の打合せ】

- 考査問題の送信や取り扱いについて

【総括】

- 配信教員が1つのテーマに対して複数のマルチメディアを使用した授業を構成し、最新の情報やニュースを随時に示すことで、生徒は興味・関心をもって授業に取り組んでいた。
- 配信教員は、Google Earthや「NHK 地理A番組」、配信教員のオリジナル資料やプリントを画面に示しながら、生徒の実態を踏まえて丁寧に授業を進めていた。
- 定期考査の採点は配信教員がグループウェアを活用して行ったが、早く採点して送り返してもらい、考査後、すぐに生徒に答案返却することができた。
- 校務支援システムを使用し、各生徒の現状について情報交換ができた。



配信室の様子



受信教室の様子（丸囲みは受信補助職員）



タブレット端末の活用の様子



対面授業の様子（丸囲みは配信教員）

教科・科目	国語・古典B	単位数	2
-------	--------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	3 学年
			受信生徒数	10 名
	受信教室配置職員	教員	○	常勤講師 (国語)
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施		○	
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet		
	その他	PowerPoint、Kahoot!		
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機器の使い方はある程度の時間がかかった。遠隔授業システムが受信側とうまく接続されない時は、ソフトウェアのアップデートを実施しているなど、様々な原因があることも理解できた。 ○ タブレット端末の活用を踏まえて、年度当初は Google スライドで教材を作成していたが、当該アプリが縦書きに対応しておらず、結局黒板に縦書きしたものをウェブカメラで映しながら授業を行った。 ※ウェブカメラの画角の関係で、黒板全体を映すことができず、対面授業と比較して黒板の使用幅は限定される。 ○ 年度途中からは、黒板と PowerPoint の資料をデジタルスイッチャーで切り替えながら授業を進めた。 ○ 書画カメラの使用頻度は少ない。 ○ タブレット端末では一画面に提示できる情報量が限られてしまう。 ○ 基本的にまとめや課題は紙媒体を活用したが行かせたが、課題の提出は Google Classroom を活用した。 <div data-bbox="603 1581 1275 1794" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">Google Classroom での課題プリント提出の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受信側補助職員とはうまく連携が取れ、特段困ったことはなかった。 ○ 配信教員が生徒と個別に面談し、授業や単元の理解度を把握できればなお良い。そのためにはチャットとか音声でつなげられると良い。 			

受信側の状況

【授業前の準備及び打合せ】

- 機器の準備
- 事前にグループウェアに送信された授業プリントを印刷、配付
- 生徒のノート書きのスピードを把握するため、特定の生徒一人をタブレットのカメラで投影することとした。
- 対面授業に際しての電子黒板、教員用タブレットの準備
- 考査の採点済み答案を印刷、原本とともに生徒へ返却

【授業中の支援】

- 特定の生徒一人の手元を固定したタブレットで撮影
- 「Jamboard」でディスカッションしている生徒の様子をタブレットで撮影
- クイズアプリ「Kahoot!」の音量調節
- 机間指導（集中できていない生徒、寝そうな生徒への声かけなど）
- 欠席者がいた場合の、本文読みなどのペアワークへの参加
- タブレットを忘れた生徒に対し、生徒撮影用タブレットの貸出

【授業後の打合せ】

- 次回自習時の対応について（グループウェアから自習課題を送信）
- 考査問題の送信や取り扱いについて

【特記事項】

- 授業変更への対応が課題。受信校、または配信校の都合で急遽授業を実施することになった時があった。
- 生徒のタブレットの充電が切れている（切れそうな）ことがあった。（延長コードで充電しながら授業で使用した）。
- 授業終了後に、特定の生徒が書き写しきれなかったパワーポイント資料の写真撮影を配信教員にお願いしていた。また、授業中に iPad のカメラで配信画面を撮影している生徒がいた。
- 通信接続がうまくいかず、授業が中断したことがあった。
- 配信教員がペンで書く文字がつぶれて見にくいという生徒の声があった。



黒板を使った解説の様子



生徒のペア音読の様子
(配信室ディスプレイ画面)

教科・科目	地理歴史・セミナー日本史	単位数	3
-------	--------------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	3 学年
			受信生徒数	3 名
	受信教室配置職員	教員		
教員以外		○	実習助手 (理科)	
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリケーション	Google	Classroom、Meet、Jamboard、スライド、スプレッドシート		
	その他	Book、Goodnote、映像資料、		
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ システム上、個人のみ伝えたいことが全生徒に伝わってしまう状況だったので、授業での生徒個人への指示や質問への回答をするため、次の工夫を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒生徒にイヤホンを着用してもらい、タブレット用 Classroom から Meet で接続し、教師が特定の生徒に話ができるようにした。 ⇒タブレット用 Classroom に質問「郵便箱」(質問者のみ閲覧可) を設置し、授業時間外での質問に対応可能とした。 ○ 探究的な学習を常時取り入れること。探究的な学習を行うための時間を確保すること。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒Jamboard を使った教材作成と協働学習の実践。 ⇒生徒に毎時間、スプレッドシートを活用した「振り返りシート」を入力させ、発見した「問い(課題)」を書かせるなどした。 ○ 生徒同士の話し合いの音声が、マイク調整等も試みたが、配信側から聞きづらい。 ⇒ヘッドセットを導入して検証。 ○ 発表などの活動に対する評価基準を作成し、授業内での生徒の発言や発表などを評価に取り入れることができた。 ○ 生徒の情報活用能力を高めたり、協働学習、探究活動を推進するための「問い」作りや、「深い学び」を生み出すための授業ができるよう、力量を高めたい。 ○ 観点別評価などの理論を学んだり、他府県の配信教員と交流するなどの研修や機会があるとよい。 			
受信側の状況	<p>【授業前の準備及び打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考査の採点済み答案を印刷、原本とともに生徒へ返却 ○ 授業ノートを「Book」から「Goodnote」へ変更。(11月～) 			

【授業中の支援】

- 生徒の手元をタブレットで撮影（作業速度を確認するため）
- タブレット不具合（キーボードが反応しない）を解消
- Jamboard の操作方法を支援
- 探究的な学習の場面において、生徒と一緒に考察する（受信側で探究活動を深められる適切な生徒への支援は難しい）。

【授業後の打合せ】

- 生徒の様子について情報交換
- 考査問題の送信方法や採点の返却方法についての確認

【授業評価の支援】

- 観点別評価の材料とするため、Jamboard に取り組む際の机間指導
- 観点別評価の材料とするため、生徒発表の様子をタブレットで撮影

【特記事項（主なトラブルと対応例）】

- 特定の曜日や悪天候時は、Wi-Fi の電波状況がよくない（動画や音声途切れ途切れになる、Jamboard の更新が遅いなどの影響）。
⇒パソコンや iPad の再起動で通信状況が回復することもあり。
- 配信側の Google WorkSpace がフリーズし、タブレットで Classroom が操作できない。 ⇒遠隔授業用パソコンの画面共有で代替。
- パソコン用 Classroom から Meet に接続したが、配信側音声を受信側に届かない。 ⇒別授業（古典B）の Classroom を代用。
- 受信側音声配信側へ届かない。 ⇒マイクを差し直して解消。
- 配信側音声、スピーカーからではなく大型ディスプレイから聞こえる（聞き取りに問題なし。その日限りの事象）。
- 受信側スピーカーから配信側の音声聞こえない。
⇒タブレット端末経由での音声のやりとりで代替。
- 配信側からの動画教材が BGM とナレーションが一部聞こえない。
⇒配信側のノイズキャンセリングをオフにして解消。
- 配信側 Web 会議用カメラの不調（Meet 起動時に「起動できませんでした」と表示） ⇒遠隔授業システムパソコンのカメラで代用。
- 受信側集音マイクの緑のランプがついていない ⇒配線のつなぎ直しで復旧。



配信室の様子



受信教室の様子

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2
-------	---------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	2 学年
			受信生徒数	18 名
	受信教室配置職員	教員	○	常勤講師（理科・物理）
教員以外				
配信校	新潟県立佐渡高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施		○	
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet、Jamboard		
	その他	PowerPoint		
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Jamboard を使用することで、生徒の問題を解く様子が分かり、状況に応じて、個別に添削したり、全体にヒントを出したりすることができた。 ○ デジタルスイッチャーのおかげで、ICT に詳しくなくてもスムーズに授業を行うことができた。スイッチャーは見た目は複雑だが、実際は切り替えのために大きなボタン4つしか使用せず、パワーポイントの画面共有よりはるかに便利だった。 ○ 対面授業と比べて、特に以下の3点に課題があり、結果として、配信教員による一方的な説明時間が多くなりがちだった。 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の微妙な表情が見えない、反応・空気感がわからないことで、教室全体が画一的に（平面的に）見える。 ②個別の声掛けができない、特に後ろの生徒の表情の違いはほとんど見えないため、コミュニケーションが取りづらい。 ③若干のタイムラグがある。 ⇒Jamboard を使用して、協働的な学び（グループワーク、隣の生徒との意見の確認）を多くとるようにした。 ○ 協働的な学びを活性化させる意味でも、席替えやグループ活動のメンバーの入れ替えを頻繁にすればよかった。 ○ 1 コマの授業の中でタブレットを用いるが、授業の終わりは必ず紙のプリントで授業の内容をまとめるようにし、デジタルとアナログのバランスを心がけた。 ○ タブレットでの活動も Google のアプリのみ使用し、受信側の生徒や補助する教員が簡単に取り組めるように心掛けた。 ○ 配信側が受信側職員に期待したい動きを指示しづらい場面があった。（例えば、大型ディスプレイに集中してもらいたいときに受信側職員が 			

	<p>机間指導を開始したときなど)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に対して注意しづらかった。画面上で生徒が集中していない様子が見られても、実際に何が原因で集中していないのか分からないので、むやみに注意をすることができなかった。 ○ 実験について <ul style="list-style-type: none"> ①受信側職員が当該教科の教員でないと想定して行った簡単な実験でも、生徒は適切に実験を行うことができず、受信側の専門の教員が対応した。 ②実験の器具や薬品等が配信校にあるものが受信校になかったり、細かい部分でのセッティングが受信側職員に伝わらなかったり、準備に相応の時間と手間がかかる。 ③実験室が普段の受信教室と違う階の場合、大型ディスプレイの移動が大変だと思われる。 ○ 配信教員よりも受信側補助職員が ICT にある程度詳しい方がよい。(受信側の機器トラブルを配信側で解決することが難しいため。) ○ 生徒のタブレット画面を配信側の大型ディスプレイ等で一覧に確認できるとよい。(Jamboard では、シートをスライドさせないと生徒タブレットの様子が見られない。) ○ 黒板のような大きなスペース全体を使って流れを理解することが、遠隔授業では難しい面がある。何らかの方法を開発できればと考える。
<p>受信側の状況</p>	<p>【授業前の準備及び打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業プリントの印刷とファイリング用の穴開け ○ 短縮授業、時間変更、座席表変更等の確認 ○ 考査の採点済み解答用紙のカラー印刷 <p>【授業中の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導やタブレット端末で生徒の手元の様子を配信。 ○ 生徒が配信教員に質問しづらい時の対応（生徒に代わって質問）。 ○ 配信側のトラブルで配信が止まった際、生徒に自習するよう指示。 ○ 生徒の実験に係る実験器具の使い方指導。 ○ 授業中に遠隔授業用パソコンの再接続（バッテリー残量不足が原因）。 <p>【授業後の打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次回授業プリントの印刷、配付確認 ○ 実験で使用する試薬の確認→別の試薬を代用品として提案。 ○ 実験の振り返り（配信教員の指示が聞こえないこと、実験の手順が多かったこと、生徒が金属の種類を見分けられなかったこと等を共有）

教科・科目	公民・政治・経済	単位数	2
-------	----------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡総合高等学校		受信学年	2年
			受信生徒数	14名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭(数学)
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	免許外教科担任制度の解消		○	
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリ	Google	Classroom、Jamboard、Forms、YouTube		
	その他			
配信側の状況	<p>【成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本授業の人数(14人)程度は、これまでの経験してきた対面授業の人数に近いため、当初から違和感なく授業が実施できた。 ○ 受信校の生徒の普段の様子を把握しづらいため、授業での接し方や指示の出し方が難しい。 ⇒ 受信側補助教員との連絡を密に行うとともに、受信校訪問の際に、生徒の話をよく聞き、生徒の特徴等の把握に努めた。 ○ 定期試験前など、生徒の授業時間外での質問への柔軟な対応 ○ 授業以外で生徒と接する機会がないため、生徒の様子(人間関係等)を把握することが難しく、授業内での声掛けに苦慮している。 ○ 授業内において生徒からの質問がほぼ無かった。 ○ 授業内容をより深く学ぶためにも、授業科目に関係する受信校の教育活動の情報共有を行う必要がある(例:主権者教育講演会や人権教育講演会の内容を政治経済の授業に活かす)。 			
受信側の状況	<p>【授業前の準備及び打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機器の準備 <p>【授業中の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導用タブレット端末で生徒の様子や手元を配信教員に配信 ○ 遠隔授業システムのトラブル等についての復旧作業 <p>【授業後の打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次回授業や今後の予定の確認 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機材や回線のトラブルについて、経験が増えることで手際良く復旧できるようになってきた。 ○ 配信側、受信側の教諭同士のコミュニケーションはよく取れており、 			

配信教員の意図を概ね理解して授業に臨めた。

- 最初に配信教員と受信生徒との対面交流により人間関係の構築を図り、お互いを知り、一定の親近感や信頼性を得ることで安心した環境づくりが必要である。
- 生徒が、画面に映る配信教員にマイクを通じて質問や考えを話すことは、多少のやりにくさがあるようだ。
- 本授業でも生徒人数（14人）は多いと感じた。20人を超える遠隔授業は、配信教員の生徒把握がより難しいと考える。



配信室の様子



受信教室の様子

教科・科目	数学・数学B	単位数	2
-------	--------	-----	---

受信校	新潟県立佐渡中等教育学校		受信学年	5年
			受信生徒数	10名
	受信教室配置職員	教員	○	教諭(数学)
教員以外				
配信校	新潟県立新潟翠江高等学校		配信教室の生徒の有無	無
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施		○	
	免許外教科担任制度の解消			
	専門性の高い指導の実施			
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet、Jamboard、スプレッドシート		
	その他	TFabTile、Book		
配信側の状況	<p>○ Jamboardは、同時共同編集の機能による協働的な学びに適していると言われるが、「自分の解答状況を見られたくない」という生徒が一定数いたことから、本授業では問題を貼り付けたJamboardのコピーを各生徒に配付して、自分の解答が他の生徒に見られない配慮をした。</p> <p>○ ただし、上記対応では、提出された一つ一つのJamboardを開かないと配信教員は解答状況を確認できない。</p> <p>○ 「TFabTile」というアプリを導入することで、教員側の端末で生徒の全員のタブレット画面を確認できるようにし、生徒の演習の状況をリアルタイムに確認することができた。</p> <p>○ 受信側の補助職員が数学の教員の場合、生徒にとって遠隔授業を実施する意味合いは薄れる。実際、わからない問題や質問がある場合、配信教員ではなく受信側の目の前の数学の先生に聞く場面が多々あった。</p> <p>○ グループ活動時のグループの話し合い等の様子の把握や、生徒個々への声掛けが難しい。</p> <p>○ プリントの配付、書き込みではなく、クラウド上のデジタルデータで完結させた。</p> <p>○ 家庭学習などの課題や教材などを授業時間以外にも配付することが可能であったため、家庭学習の充実につながった。</p>			

受信側の状況

【授業前の準備及び打合せ】

- 機材のセッティング

【授業中の支援】

- 演習中の机間指導（考え方の指導や、生徒の学び合いを促す）
- インターネット接続の不具合により、自習の指示を行った。

【授業後の打合せ】

- 週末課題について
- 考査の日程及び考査内容、考査後の授業内容についての確認
- 数学科会のオンライン開催について

【総括】

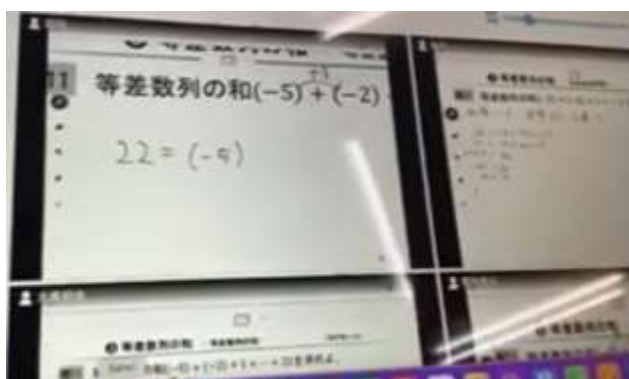
- 想像より機材の準備が簡単で、スムーズに行うことができた。
- 配信教員には、生徒の理解を確認しながら丁寧に授業を進めてもらった。また、授業後の課題や週末課題により、生徒の理解を促進するとともに、適切な評価につなげることもできた。
- 出欠の共有から、成績評価に係るオンライン教科会議の開催など、配信・受信双方での連携や情報共有がうまくいった。
- 当該教科以外の教員が受信側補助の場合、いかに負担を軽減するかが課題となる。
- 対面授業は、生徒と直接触れ合うことで生徒理解がより深まる貴重な機会であることから、可能な限り回数が増えることが望ましい。



配信室の様子



受信教室の様子



アプリ「TFabTile（ティーファブタイル）」の画面の様子



対面授業の様子

教科・科目	地域探究・ソーシャルデザイン	単位数	2
-------	----------------	-----	---

受信校	新潟県立羽茂高等学校		受信学年	2年	
			受信生徒数	15名	
	受信教室配置職員	教員	○	教諭(家庭科)	
		教員以外			
配信校	新潟県立佐渡総合高等学校		配信教室の生徒の有無	無	
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設				
	習熟度別指導の実施				
	免許外教科担任制度の解消				
	専門性の高い指導の実施		○		
年間授業回数		遠隔授業回数	10回	対面授業回数	2回
主な使用アプリ	Google	Classroom、Meet			
	その他	PowerPoint			
年間	令和4年度「ソーシャルデザイン」実施授業(考査等は除く)				
	※網掛けが遠隔授業のスポット配信				
		金2・3限		金2・3限	
	4月15日	ガイダンス・エコアクションプロジェクト発表	10月7日	講義:より効果的なプレゼンテーションソフトの使い方	
	5月6日	「佐渡市の食生活について(現状と課題)」の講話	10月14日	各自活動、プレゼンファイル作成	
	5月13日	「佐渡市の高齢者の現状と課題について」の講話、社会福祉協議会の地域福祉事業の紹介	11月4日	各自活動、プレゼンファイル作成	
	5月20日	「佐渡市の現状と課題・課題解決のヒント」について佐渡市議会議員からの講話	11月11日	各自活動、プレゼンファイル作成	
	5月27日	「かやの実会との出会いから社長になるまで・今後の展望」についての講話	12月2日	各自活動、プレゼンファイル作成	
	6月3日	「佐渡での子育てと民間子育て支援」についての講話	12月9日	発表会①(校内プレ)	
	6月10日	「佐渡の農業の現状と課題」についての講話	12月16日	発表会①の振り返りと今後の展望(個別面談)	
	6月24日	ビジネスプランラブリ事前学習出張(オンライン)授業①	1月6日	各自活動、発表準備	
	7月8日	ビジネスプランラブリ② 自のテーマに沿って活動、プラン作成	1月13日	各自活動、発表準備	
	8月26日	ビジネスプランラブリ③ 相談会 各自のテーマに沿って活動、プラン作成	1月20日	講義:プレゼンテーションの相互評価について	
	9月2日	ビジネスプランラブリ④ 各自のテーマに沿って活動、プラン作成	1月27日	発表会②(校内セレクション)	
	9月9日	ビジネスプランラブリ⑤ 各自のテーマに沿って活動プラン作成	2月3日	発表会の振り返りと今後の展望(個別面談)	
	9月16日	大正大学 教授からの講話等	2月24日	報告冊子原稿書き	
9月30日	マイプロジェクト 各自テーマに沿って活動 今後の活動プラン作成	2月27日	発表会③(佐渡総合、阿賀黎明と3校合同)		



パソコン教室で配信教員から指導を受けている様子

3 遠隔授業の公開（11月）

遠隔授業開始後、約半年間の成果や課題等の共有を図るため、対面またはオンラインでの授業参観を実施した。

(1) 実施期間 令和4年11月15日(火)～11月17日(木)

(2) 参加対象者 県内の全県立高校等の教員

(3) 実施方法

- 配信校又は受信校での参観（人数制限あり）
- オンライン（Zoom）での参観

(4) 実施内容

- 「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」概要説明（高等学校教育課）
- 公開授業参観

(5) 日程

No	実施日時	参観授業	配信校 配信担当教諭	受信校 受信補助職員	参加者
1	11月15日(火) 13:20～14:10	2年 政治・経済	新潟翠江高校 教諭	佐渡総合高校 教諭(数学)	配信校対面 3名 オンライン 18名
2	11月15日(火) 13:55～14:42	2年 化学基礎	新潟翠江高校 教諭	阿賀黎明高校 非常勤事務職員	オンライン 19名
3	11月15日(火) 14:23～15:13	5年 数学B	新潟翠江高校 教諭	佐渡中等教育学校 教諭(数学)	配信校対面 3名 オンライン 27名
4	11月16日(水) 9:50～10:45	3年 古典B	新潟翠江高校 教諭	羽茂高校 常勤講師(国語)	配信校対面 1名 オンライン 27名
5	11月16日(水) 10:25～11:12	3年 地理B	新潟翠江高校 教諭	阿賀黎明高校 教頭	配信校対面 2名 受信校対面 1名 オンライン 21名
6	11月16日(水) 10:55～11:50	3年 セミナー日本史	新潟翠江高校 教諭	羽茂高校 実習助手	配信校対面 2名 オンライン 13名
7	11月17日(木) 12:35～13:30	2年 化学基礎	佐渡高校 教諭	羽茂高校 常勤講師	オンライン 23名



プロジェクト説明資料①



プロジェクト説明資料②

公開授業 1 2年「政治・経済」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月15日(火)5限(13:20~14:10)
- 2 配信：新潟翠江高等学校 教諭 (場所 205 教室)
- 3 受信：佐渡総合高等学校 人文自然科学系列 2学年 14名
- 4 教科書：最新政治・経済 新訂版(実教出版)
- 5 単元：第3章 日本の政治制度と政治参加 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加
- 6 本時の内容：民主政治における選挙と政治参加の重要性を理解する。
- 7 本時のねらい：政治的無関心の危険性を理解させ、個人の政治への関わり方について考察させる。民主主義社会のなかで、市民としてできることを考えさせる。
- 8 接続方法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC 間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：Google Classroom、Meet、Jamboard、Forms、YouTube
- 10 補助教材：なし
- 11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
iPad から「Classroom」、 「Meet」を開く。	3分	機器の設定指示 「Classroom」で資料・課題を配信	配信校教師映像	「Classroom」、 「Meet」を開く。 「Classroom」で 資料・課題を受信
【前時の振り返り】 前時の生徒の感想や 意見等を共有し、授業 内容等を振り返る。 「Jamboard」の課題を 開く。	5分	「Classroom」から、 「Jamboard」の課題を提 示・共有	配信校教師映像	各自端末画面の 「Classroom」か ら「Jamboard」
【各班で話し合い】 若者の政治への関心を 高めるにどのような取 り組みが考えられるか 話し合う。 「Jamboard」の課題に 班ごとに書き込む。	7分	「Classroom」から、 「Jamboard」の課題を配 信	配信校教師映像	各自端末画面の 「Classroom」か ら「Jamboard」
【代表者の発表】 各班の代表者は発表。 他の生徒は各班の発表 を聞く。 他の生徒の意見や考え を共有する。	5分	「Classroom」から、 「Jamboard」の課題を配 信	配信校教師映像	各自端末画面の 「Classroom」か ら「Jamboard」

【動画視聴】 「YouTube」の動画を視聴する。(明るい選挙推進会議の動画を視聴)	5分	「Classroom」から、「YouTube」の動画を配信	配信校教師映像	各自端末画面の「Classroom」から「YouTube」
【説明】 教師の説明を聞く。 最近の選挙における投票率から若者の政治参加について考える。	10分	「Classroom」から、資料を配信	配信校教師映像	各自端末画面の「Classroom」から資料を見て教師の説明を聞く。
【各班で話し合い】 本時の授業で学んだこと等を話し合う。 Jamboard の課題に班ごとで書き込む。	7分	「Classroom」から、「Jamboard」の課題を配信	配信校教師映像	各自端末画面の「Classroom」から「Jamboard」
【代表者の発表】 各班の代表者は発表。 他の生徒は各班の発表を聞く。 他の生徒の意見や考えを共有する。	5分	「Classroom」から、「Jamboard」の課題を配信	配信校教師映像	各自端末画面の「Classroom」から「Jamboard」
【本時の振り返り】 教師が提示した課題に取り組み、授業内容等を振り返る。	3分	「Classroom」から「Forms」の課題を配信	配信校教師映像	各自端末画面の「Classroom」から「Forms」

12 授業評価：シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。



公開授業の様子

公開授業 2 2年「化学基礎」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月15日(火)6限(13:55~14:42)
- 2 配信：新潟翠江高等学校 教諭 (場所：化学準備室)
- 3 受信：阿賀黎明高等学校 国際・環境コース 2年生徒5名
- 4 教科書：改訂版 化学基礎 (数研出版)
- 5 単元：第2編 物質の変化 第3章酸化還元反応 (教科書 p.164)
- 6 本時の内容：酸化・還元の定義
- 7 本時のねらい：実験動画を視聴しながら、酸化と還元について学び、酸化と還元は表裏一体の関係にあることを理解する
- 8 接続方法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC 間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：ロイロノート、Google Classroom、Meet
- 10 補助教材：配信者が作成した実験レポートをロイロノートで配付する。
- 11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【出欠確認】 「ロイロノート」を開き、出欠フォームを提出する	5分	出欠フォームの提出を指示(教師 iPad には出欠一覧を表示し、出欠および生徒コメントを確認)	配信校教師映像	「ロイロノート」の出欠フォームを表示
【実験レポート配付】 「ロイロノート」の共有ノートで、実験レポートを受け取る	1分	実験レポートを「ロイロノート」の共有ノートで配布(書き込む過程を確認しながら指導できる)	配信校教師映像	実験レポートを表示
【学習前の知識を確認】 酸化とは何か、書き出す	6分	中学での学習内容の確認と、本時の学習目標の提示	配信校教師映像 ↓ 生徒画面の共有	自分専用の記入カードを表示
【動画の視聴】 ディスプレイで動画を視聴する	1分	NHK 高校講座の動画を配信し、酸化について確認させる(生徒用 iPad はロックし、動画視聴に集中させる)	動画の映像	画面ロック中
【実験動画の視聴】 iPad で動画を視聴し、実験レポートを記入	15分	NHK 高校講座の実験動画(1分×3本)を配信し、実験レポートを記入するよう指示。途中、ディスプレイに黒板を映して解説する	配信校教師映像 ↓ 教師画面(黒板)の映像	実験動画の映像 ↓ 実験レポートを表示
【まとめ】 レポートのまとめを書く。	10分	酸化と還元について、それぞれまとめを書くよう指示	配信校教師映像	実験レポートを表示

【酸化還元反応の利用を紹介】 動画を視聴	2分	生徒用 iPad はロックし、 動画視聴に集中させる	動画の映像	画面ロック中
【振り返りシート記入】 「ロイロノート」の振り返りシートを記入し、提出箱へ提出する	7分	振り返りシートを記入して、提出箱へ提出するよう指示	配信校教師映像	振り返りシートを表示

12 授業評価：提出された実験レポートのまとめや、授業終了時に提出させた振り返りシートを参考にしながら、生徒の理解度を判断し、その後の授業にフィードバックする。

公開授業3 5年「数学B」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月15日(火)6限(14:25～15:13)
- 2 配信：新潟翠江高等学校 教諭 (場所：205 講義室)
- 3 受信：佐渡中等教育学校 5年次文系βクラス 10名
- 4 教科書：東京書籍 数学B Standard
- 5 単元：1章「数列」1節「数列」
- 6 本時の内容：等差数列の和
- 7 本時のねらい：簡単な等差数列で等差数列の和の公式を学習し、演習問題を通して理解を深める。
- 8 接続方法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC 間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：TFabTile、Book、Google Classroom、Jamboard、スプレッドシート
- 10 補助教材：教科書データ、問題演習用 Jamboard
- 11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【準備】 アプリ「TFabTile」を開き、部屋に入室する	2分	「TFabTile」で部屋への入室を指示。部屋名を「Classroom」で配信。	配信校教師映像	「TFabTile」を起動して部屋に入室する。
【講義】 初項、末項、項数が分かるときの等差数列の和の公式について復習する	5分	アプリ「Book」を用いて教科書の13ページについて説明。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Book」で開いた教科書データに書き込む。
【講義】 初項、公差、項数が分かるときの等差数列の和の公式について説明を聞く	8分	アプリ「Book」を用いて教科書の13ページについて説明。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Book」で開いた教科書データに書き込む。

【問題解説】 例 6 について説明を聞く	3分	アプリ「Book」を用いて教科書の 14 ページについて説明。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Book」で開いた教科書データに書き込む。
【問題演習】 問 10 の問題 (Jamboard) を解く	5分	「Classroom」から課題を配信。 「TFabTile」で解答状況を確認。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Book」で開いた教科書データに書き込む。
【問題解説】 答え合わせ	3分	答える生徒を指名。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Jamboard」で演習問題の丸付け。
【問題解説】 例 7 について説明を聞く Jamboard を解く。	5分	アプリ「Book」を用いて教科書の 14 ページについて説明。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Book」で開いた教科書データに書き込む。
【問題演習】 問 11 の問題 (Jamboard) を解く。	12分	「Classroom」から課題を配信。「TFabTile」で解答状況を確認。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ	「Jamboard」で演習問題を解答する
【問題解説】 答え合わせ	3分	生徒の解答の 「Jamboard」を開いて答え合わせをする。	教員タブレット画面 生徒「Jamboard」を開いた画面。	「Jamboard」で演習問題の丸付け。
【まとめ・振り返り】 ・本時の学習について確認する ・「スプレッドシート」へ振り返りを記入する	2分	等差数列の和の公式について確認。「スプレッドシート」へ振り返りを記入するよう指示。	教員タブレット画面 「Book」で開いた教科書データ 配信校教師映像	「Book」で開いた教科書データを見る。 「スプレッドシート」に記入する。

12 授業評価：シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。



公開授業の様子

公開授業 4 2年「古典B」 授業計画書

- 1 日時:令和4年11月16日(水)2限(9:50~10:45)
- 2 配信:新潟翠江高等学校 教諭 (場所:205講義室)
- 3 受信:羽茂高等学校 3年生徒10名
- 4 教科書:改訂版 標準古典B(第一学習社)
- 5 単元:物語(二) 源氏物語「若紫」
- 6 本時の内容:源氏物語が描かれた背景と本文後半の解説(教科書 p.137~140)
- 7 本時のねらい:源氏物語が描かれた背景と「若紫」の内容について理解しようとする態度を養う。
- 8 接続方法:回線 生徒用Wi-Fi
システム Google Classroom2回線(ディスプレイPC間、タブレット間)
- 9 使用アプリ:Google Classroom、Meet、Kahoot!、PowerPoint
- 10 補助教材:なし
- 11 授業計画:

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
本時限で行うことを聞き、理解する。	3分	紫式部周辺の人物関係を「Kahoot!」で復習 「若紫」後半の解説を行っていくことを説明。	配信校教師映像	
【PowerPoint】紫式部周辺の人物関係について理解する。	10分	「PowerPoint」資料を使用し紫式部周辺の人物関係、バックグラウンドについて説明する。	「PowerPoint」 教師映像	
【Kahoot!】「Kahoot!」を使用し、これまでの学習内容を振り返る。	10分	「Kahoot!」を起動させクイズ形式で学習させる。	「Kahoot!」 教師映像	各自端末で「Kahoot!」に取り組む。
【音読】ペアで本文を音読する。	5分	ペアで本文の音読をさせる。	教師映像	
【PowerPoint】「若紫」本文後半について理解する。	27分	「PowerPoint」を使用しながら「若紫」本文後半の解説を行う。	「PowerPoint」 教師映像	各自端末で「Classroom」にアクセスし、本文口語訳を開く。

- 12 授業評価:シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。

公開授業 5 2年「地理B」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月16日(水)3限(10:25~11:12)
- 2 配信：新潟翠江高等学校 教諭 (場所：101 講義室)
- 3 受信：阿賀黎明高等学校 地理B選択者 3学年2名
- 4 教科書：新詳地理B (帝国書院)
- 5 単元：2章 現代世界の諸地域 9節 アングロアメリカ
- 6 本時の内容：①カナダ ②アングロアメリカのまとめ
- 7 本時のねらい：①カナダの複雑な民族構成と多文化主義の特色を理解し、カナダとアメリカ合衆国が深くつながっていることを学ぶ。
②アングロアメリカの地域性を振りかえり、自分でまとめ発表する。
- 8 接続方法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC 間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：Google Classroom、Meet、Book、Google Earth、Google Slides、Forms、YouTube、映像資料など
- 10 補助教材：教員が事前に作成した授業プリントを受信校に予め送信し印刷しておく。
- 11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
「Meet」で教師の画面(BookのPDF)を共有する	2分	タブレットで画面共有	配信校教師	教師の画面 (「Book」のPDF)
カナダの国土を概観する	1分	画面共有しながら解説	配信校教師	教師の画面 (「Google Earth」)
カナダの自然と社会に関する映像を視聴する	3分	端末から映像を配信	映像資料	教師の画面 (「Book」のPDF)
カナダの自然環境、社会について解説を聞く	5分	画面共有しながら解説	資料集 PDF 配信校教師	教師の画面 (「Book」のPDF)
カナダの民族に関する映像を視聴する	3分	端末から映像を配信	映像資料	教師の画面 (「Book」のPDF)
カナダの民族、産業について解説を聞く	5分	画面共有しながら解説	教科書 PDF 資料集 PDF 配信校教師	教師の画面 (「Book」のPDF)
課題「アメリカ合衆国で行って見たい都市」(Google Slides)に取り組む	17分	「Classroom」から「Google Slides」課題を配信 課題の説明・指示	配信校教師 配信課題	配信課題 各自のアプリ画面
取り組んだ課題について発表、質問への回答	6分	生徒の発表への助言	配信課題 配信校教師	配信課題

確認問題に取り組み、「Forms」に解答する質問が出たら答える	3分	入力Formsを送信し、解答を確認する	問題PDF 配信校教師	「Forms」画面
問題のふりかえり	2分	画面共有しながら解説	「Foms」画面 資料集PDF 配信校教師	教師の画面 (「Book」のPDF)

12 授業評価：シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。



公開授業の様子

公開授業 6 3年「セミナー日本史」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月16日(水)3限(10:55~11:50)
- 2 配信：新潟翠江高等学校 教諭(205講義室)
- 3 受信：羽茂高等学校 セミナー日本史選択者 3学年3名
- 4 教科書：改訂版 詳説日本史B(山川出版社)
- 5 単元：第10章 二つの世界大戦とアジア 5. 軍部の台頭
- 6 本時の内容：日中戦争のまとめ
- 7 本時のねらい：第一次世界大戦後から日中戦争までの授業で習得した知識に基づき、日中戦争が不可避となった歴史的背景を協働で分析、意見集約することによって、歴史を考察する力と表現力を育む。
- 8 接続方法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 回線(ディスプレイ PC間、タブレット間)
- 9 使用するアプリ：Google Classroom、GoodNotes、Jamboard、スライド、スプレッドシート、映像資料、ブック等

10 補助教材：詳説日本史図録 第8版（山川出版社）

11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【導入】 前時までの復習 本時の説明	5分	本時の説明 前時までの復習	スライド資料 配信教師映像	「Classroom」 スライド資料 「GoodNotes」 「Jamborad」
【個人作業】 日中戦争を回避できなくなった要因について分析し、自分の考えをまとめる。	5分	教師の問いに対する考えを、「クラゲチャート」 (Jamboard 個人シート)に入力させる	スライド資料 「Jamboard」 配信教師映像	「Jamborad」 「GoodNotes」
【協働学習】 班で意見を交換し、集約して、Jamboard 班シートに入力	15分	意見を集約し、班のJamboard に入力させる	「Jamboard」 スライド資料 配信教師映像	「Jamborad」 「GoodNotes」
【発表】 代表者1名による発表	5分	教師は支援員のiPad と繋いだ「Meet」から生徒の発表を視聴	スライド資料 「GoodNotes」	「Jamboard」 「Jamborad」
【個人作業】 日中戦争を回避できなくなった要因について、班で集約した考えを個人に戻ってワークシートに文章化	15分	ワークシートを「GoodNotes」に追加させ、個人に戻って集約した意見を文章にまとめさせる	スライド資料 「Classroom」 「GoodNotes」 ※画面共有	「Classroom」 「Jamborad」 「GoodNotes」

12 授業評価：シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。



公開授業の様子

公開授業 7 2年「化学基礎」 授業計画書

- 1 日時：令和4年11月17日（木）4限（12：35～13：30）55分授業
- 2 配信：佐渡高等学校 教諭（地学準備室）
- 3 受信：羽茂高等学校 2年生 生徒19名
- 4 教科書：改訂 新編化学基礎（東京書籍）
- 5 単元：2編 物質の変化 2章 酸と塩基 3節 中和反応と塩
- 6 本時の内容：塩の種類、塩の水溶液の性質
- 7 本時のねらい：塩の組成による分類を理解する。また、正塩の水溶液の性質が元の酸・塩基の強弱によることを理解する。
- 8 接続方法：回線 生徒用Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線（ディスプレイPC間、タブレット間）
- 9 使用アプリ：Google Classroom、Meet、Jamboard、PowerPoint
- 10 補助教材：配信者が作成した授業プリントを受信校であらかじめ印刷し、授業時に配布する。
- 11 授業計画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【前時の振り返り】 前時の授業プリントの練習問題を確認する。	13分	書画カメラを用いて、前時の授業プリントの練習問題を解説する。	・配信校教師映像 ・PowerPoint映像 ・書画カメラ映像	
【前時の補足】 中和反応の利用例の動画を視聴する。	3分	前時の学習内容の利用例を紹介する。	・動画の映像	
【講義】 塩の組成による分類を理解する。	5分	PowerPointを使用し、塩の組成による分類を説明する。	・配信校教師映像 ・PowerPoint映像	
【講義】 正塩の水溶液の性質が元の酸・塩基の強弱によることを理解する。	7分	PowerPointを使用し、正塩の水溶液の性質が元の酸・塩基の強弱によることを説明する。	・配信校教師映像 ・PowerPoint映像	
【個人演習】 正塩の水溶液の液性の問題演習を行う。	5分	Jamboardの画面の様子を見て、アドバイスをを行う。	・配信校教師映像 ・PowerPoint映像	各自の端末のJamboardで演習
【協働学習】 グループをつくり、演習問題の解答をグループ内で発表し、まとめる。	7分	グループ活動の様子をモニターで確認し、アドバイスをを行う。	・配信校教師映像	各自の端末のJamboardで説明
【問題解説】 演習問題の解答を確認する。	5分	書画カメラを用いて、演習問題を解説する。	・配信校教師映像 ・書画カメラ映像	各自の端末のJamboardで確認

<p>【本時のまとめ】 プリントで本時の学習内容をまとめる。</p>	<p>10 分</p>	<p>生徒の様子を机間指導用ディスプレイで確認し、アドバイスをを行う。</p>	<p>・配信校教師映像</p>	
--	-------------	---	-----------------	--

12 授業評価：シラバスの規準にもとづき、必要に応じて受信側教員と後日行う。



公開授業の様子

【事後アンケートの結果（全体）】回答者数 128 人

- 公開授業を参観して、今後の授業や実務に活用できるような内容はあったか。

回答項目	回答数	(割合)
あった	64	50.0%
少しあった	50	39.1%
あまりなかった	14	10.9%
なかった	0	0.0%

- 公開授業を参観して、今後の実務に活用できそうな具体的な内容は何か。

(上記質問における肯定的回答をした 114 人の複数回答)

項目（複数回答可）	回答数	(割合)
オンライン授業の進め方	70	61.4%
教員の指導におけるタブレットの活用方法	65	57.0%
生徒学習に取り組むためのタブレット活用方法	69	60.5%
遠隔授業用機器の活用方法	45	39.5%

- 本日の公開授業は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
満足	49	38.3%
どちらかといえば満足	62	48.4%
どちらかといえば不満足	13	10.2%
不満足	4	3.1%

- 遠隔授業における授業配信等に関わってみたいと思うか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	11	8.6%
少しそう思う	45	35.2%
あまりそうは思わない	48	37.5%
全くそう思わない	24	18.8%

4 遠隔授業研究協議会（2月）

県内外の教職員を対象に、本県遠隔授業に係る調査研究上の成果や課題等について共有を図るため、11月の公開授業同様に、対面またはオンラインで本研究協議会を実施した。

(1) 実施日時 令和5年2月8日(水)9:20~12:00

(2) 実施会場 県庁17階 0Aルーム（本部）

新潟翠江高等学校、阿賀黎明高等学校、佐渡高等学校、羽茂高等学校

(3) 参加方法・人数

①新潟翠江高校での参加（8名）

②阿賀黎明高校での参加（2名）

③佐渡高校での参加（2名）

④羽茂高校での参加（0名）

⑤オンラインでの参加（107名）

(4) 日程

9:20 開会（進行：高等学校教育課企画振興係指導主事）

9:20~ 9:25 高等学校教育課長あいさつ

9:30~ 10:50 公開授業

公開授業①（9:30~10:17） 理科・化学基礎

配信 新潟翠江高等学校（通信制課程） 教諭

受信 阿賀黎明高等学校 2年（5名）

内容 「酸化還元反応」

公開授業②（9:50~10:45） 理科・化学基礎

配信 佐渡高等学校 教諭

受信 羽茂高等学校 2年（22名）

内容 「酸化還元反応」

11:00 研究協議

発表者	新潟翠江高等学校	教諭	（公開授業①配信教員）
	阿賀黎明高等学校	事務職員	（公開授業①受信側職員）
	佐渡高等学校	教諭	（公開授業②配信教員）
	羽茂高等学校	常勤講師	（公開授業②受信側職員）
	新潟翠江高等学校	教諭	（地理A・地理Bの配信教員）
	新潟翠江高等学校	教諭	（数学Bの配信教員）
	羽茂高等学校	実習助手	（セミナー日本史の受信側職員）

11:40 指導・講評

京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 氏

信州大学教育学部 名誉教授 東原 義訓 氏

12:00 閉会

公開授業① 授業計画書

- 1 日 時：令和5年2月8日(水)4限(9:30~10:17)
- 2 配 信：新潟翠江高等学校 教諭 (化学準備室)
- 3 受 信：阿賀黎明高等学校 国際・環境コース 2年生徒5名
- 4 教 科 書：改訂版 化学基礎 (数研出版)
- 5 単 元：第2編 物質の変化 第3章酸化還元反応 (教科書 p197)
- 6 本時の内容：電気分解
- 7 本時のねらい：実験動画を視聴しながら、電気分解のしくみを学び、身近な金属の製錬に電気分解などの酸化還元反応が利用されていることを理解する。
- 8 接 続 方 法：回線 生徒用Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：ロイロノート、Google Classroom、Meet
- 10 補 助 教 材：配信者が作成した実験レポートをロイロノートで配付する。
- 11 授 業 計 画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【出欠確認】 「ロイロノート」を開き、出欠フォームを提出する	3分	出欠フォームの提出を指示 (教師 iPad には出欠一覧を表示し、出欠および生徒コメントを確認)	配信校教師映像	「ロイロノート」の出欠フォームを表示
【導入】 教師の説明を聞く	5分	1円玉、10円玉を見せて、何でできているか質問し、地球上の鉱石から電気分解の技術によってつくられていることを示す	配信校教師映像	画面ロック中 (生徒は操作できない)
【本時の目標】 教師の説明を聞き、本時の目標と流れを確認する	1分	電気分解のしくみについて理解することを目標とし、実験動画の視聴、レポート作成について説明	配信校教師映像	画面ロック中 (生徒は操作できない)
【実験レポート配布】 「ロイロノート」の共有ノートで、実験レポートを受け取る	1分	実験レポートを「ロイロノート」の共有ノートで配布 (書き込む過程を確認しながら指導できる)	配信校教師映像	実験レポートを表示
【実験】 動画を視聴し、結果・考察を記入する	15分	動画を生徒のタブレットに配信 結果・考察を個人で記入させる。	配信校教師映像	実験動画の映像 実験レポートを表示

個人で考察した後、グループで考えを説明し合う 発表代表者を決める		グループで互いに考えを説明し合うよう指示グループ代表者に発表してもらおう（生徒発表機能）	記入例を示すときに、教師タブレット画面を投影する	発表者の画面を表示
【動画視聴】 動画を視聴し、金属の製錬に電気分解の技術が利用されていることを理解する	2分	動画の視聴に集中させるため、生徒タブレットを画面ロックして、教室のディスプレイに動画を配信	動画の映像	画面ロック中
【調べ学習】 担当するテーマについて、調べて発表カードをつくる	10分	グループごとに与えられたテーマについて、発表カードをつくるよう指示	配信校教師映像	発表カード
【発表】	4分	グループごとに、調べたことを発表させる	配信校教師映像	発表者の画面を表示
【まとめ】 教師の説明を聞きながら、教科書の重要箇所をマークする	1分	教科書を開かせ、電気分解のまとめとして、簡単に説明しながら重要箇所にマークさせる	書画カメラで教科書を投影	画面ロック中
【振り返りシート記入】 振り返りシートを記入し、提出箱へ提出する	5分	振り返りシートを記入して、提出箱へ提出するよう指示	配信校教師映像	振り返りシートを表示

12 授業の評価について

提出された実験レポートや、授業終了時に提出させた振り返りシートを参考にしながら、生徒の理解度を判断し、その後の授業にフィードバックする。



【公開授業①のオンライン参観画面（新潟翠江高校から阿賀黎明高校へ配信）】



【公開授業① 受信教室（阿賀黎明高校）の様子】

※円囲みは受信側補助職員が生徒の手元を映すためのタブレットを設置している様子

公開授業② 授業計画書

- 1 日 時：令和5年2月8日(水) 2限 (9:50~10:45)
- 2 配 信：佐渡高等学校 教諭 (地学準備室)
- 3 受 信：羽茂高等学校 2年生 生徒19名
- 4 教 科 書：改訂 新編化学基礎 (東京書籍)
- 5 単 元：2編 物質の変化 3章 酸化還元反応 3節 金属の酸化還元反応
- 6 本時の内容：金属のイオン化傾向、金属の反応性
- 7 本時のねらい：金属イオンを含む水溶液や希塩酸に金属片を入れて変化の有無を調べ、金属の反応性の大小を考える。
- 8 接 続 方 法：回線 生徒用 Wi-Fi
システム Google Classroom 2回線 (ディスプレイ PC 間、タブレット間)
- 9 使用アプリ：Google Classroom、Meet、Jamboard、PowerPoint
- 10 補 助 教 材：配信者作成の実験プリントを受信校であらかじめ印刷し、授業時に配付する。
- 11 授 業 計 画：

生徒の学習	時間	教師の指導	受信教室ディスプレイ	生徒タブレット
【実験内容の確認】 本時の実験の操作などを確認する。	5分	実験プリントを用いて本時の実験を説明する。	・配信校教師映像	
【実験】 プリントのとおり実験をし、記録する。	20分	全体映像および各班の映像を見ながら、アドバイスを送る。	・配信校教師映像 ・PowerPoint 映像	

【整理と考察】 はじめに個人で実験結果を整理する。グループ内で発表した後、他の人の意見を参考に整理し直す。	25分	Jamboard の画面の様子を見て、アドバイスをを行う。	・配信校教師映像 ・PowerPoint 映像	各自の端末の Jamboard で整理・発表
【本時のまとめ】 本時の学習内容をまとめる。	5分	生徒が整理した Jamboard の画面などを用いて、本時の内容を解説する。	・配信校教師映像 ・PowerPoint 映像 ・Jamboard 画面	

12 授業の評価について

シラバスの規準にもとづき、受信側教員と協議の上、後日行う。



【公開授業②のオンライン参観画面（佐渡高校から羽茂高校へ配信）】

公開授業後の生徒インタビュー

【阿賀黎明高校】

- 遠隔授業は、普段の対面授業とほとんど変わらない。
- 様々な資料が使われていて、対面よりもわかりやすい授業だった。
- 家でも授業が受けられるのかもしれないと思った。
- 遠隔授業でも多くの実験の機会があるとよい。

【羽茂高校】

- これまでの授業は黒板を写すことが中心であったが、遠隔授業では様々なアプリを使い、特にジャムボードで先生がすぐに指導してくれるのがよい。
- 最初は画面越しの授業に不安があったが、実際に授業を受けると、動画などで実験のイメージを伝えてくれるなど、分かりやすく教えてくれた。
- タブレットの充電が無くなりそうなことがあった。自席で充電できる環境があるとよい。
- 質問しづらかった。きちんと声を拾って返してくれるか心配だった。

研究協議

<公開授業の振り返りについて>

【公開授業①配信教員】

- 本時では、電極でどのような反応が起こるのか、電子の流れを考えて自分の言葉で説明することで、より理解が深まると考え、グループワークを設定した。
- 実験については、年2回の受信校訪問（対面授業）で実施するようにしたが、通常の遠隔授業では、解説部分を除いた実験動画を利用し、結果から生徒自身が考察できるように工夫した。

【公開授業②配信教員】

- 金属のイオン化を確かめる実験を行った。実験後の整理と考察をメインに考えていたが、生徒の理解が追い付いていなく、イメージしづらかった。絵などを用いて生徒に理解させるような工夫があってもよかった。
- 1年間とおして、パワーポイントを用いて説明し、Jamboard でグループワークによる話し合いや意見の共有を行い、書画カメラで自分の手書きのノート等を写して解説してきた。

【公開授業①受信側職員】

- タブレット端末を用いて配信教員に生徒の手元の様子を送信することが補助の中心であったが、配信教員のマイクがミュートになっていることや、動画が音声のみだったことも伝えた。

【公開授業①受信側職員】

- 生徒の実験のミスがないかどうかを確認していた。実験に夢中になってプリントを書き込んでいない生徒や、実験動画のビデオ記録が疎かになっている生徒を注意していた。

<機器操作や授業構成等の工夫について>（その他の配信教員・受信側職員より）

- 機器操作では、デジタルスイッチャー操作等に不安があったがすぐに慣れた。また、一方的に説明する授業ではなく、動画や各種アプリを活用したさまざまな学びの機会を増やした。
- タブレット端末を有効に活用した。Jamboard を多用したが、生徒の解答状況を一括で把握するための専用アプリ「TFabTile（ティーファブタイル）」も導入した。
- 機器準備はパターン化されている。通信トラブル等が発生した際は、すぐに原因を特定できなかったこともあったが、これまでの対応を蓄積することで次年度の対応に活かしたい。
- 少人数の授業では、先生と生徒の双方向のやりとりが多く、授業時間外でも配信教員がオンラインで生徒の質問等に対応していた。このため、生徒の満足度が高かったと思う。

<遠隔授業における理科の実験について>（理科の配信教員・受信側職員より）

- 受信側職員が事務員の場合、薬品を扱いつらい。現段階では、遠隔授業での実験が教員による演示が中心にならざるを得ないため、対面授業の回数は増やすことも良いのではないかと考える。
- 中和滴定の実験をした際には、生徒の実験器具の扱いや生徒の実験の様子をモニタリングすることに大きな課題があった。実験の準備は対面授業以上に入念な準備が必要と考える。
- 受信側職員が理科の教員や実習助手であると、配信側も幾分安心して実験ができる。
- 生徒は実験を楽しみにしており、教室全体がにぎやかになる分、配信教員の声や指示が通りづらくなる。

＜今後の遠隔授業の可能性や期待したいことについて＞（その他の配信教員・受信側職員より）

- 小規模校で多くの科目を担当することは負担になる。遠隔授業により、科目専門の教員に授業を担当してもらうのは大変ありがたいと思うし、生徒の選択科目の幅も広がる。
- ICT との関わりがとても重要だと考えた。遠隔授業での指導ノウハウを対面授業にも活用していきたい。
- 遠隔授業では机間指導をしなくても、Jamboard を共有すれば生徒のシートに書き込める。生徒自身も他の生徒の解答を見て学ぶこともできる。
- 受信側職員が事務職員の場合、生徒が騒いだり災害があった場合の対応が不安である。
- 配信教員は授業外で生徒とコミュニケーションが取れない。遠隔授業において、教員と生徒の信頼関係をどのように構築していくかが今後のポイントになるのではないかと。



【研究協議の様子】

指導・講評

【京都大学大学院教育学研究科 石井准教授】

- 課題を把握して自力で解決、ペア・グループワークで解決、そしてまとめと振り返りを行う、小学校のような問題解決型の授業展開に学ぶことも重要である。
- 画面上では関係性と思考がドライになりがちで、活動と手元の結果は見えるが、プロセスは意識しないと掴みにくい。あらためて受信側の役割を考える必要がある。
- 見えすぎてしまうがために教員は待てなくなり、指導頻度が多くなるし、管理主義的な眼差しになりやすい。個別指導を理想化しすぎず、生徒主体でつながりあうことを意識してほしい。
- 問いや課題の質ともう少し待つて委ねる姿勢と学び（何を経験し、何が残っているか）を見る眼が大切である。リモートで得た授業観や装備を活かして、対面環境を充実させていって欲しい。問われるのは対面授業のあり方であり、学習観・授業観の転換のきっかけにしてほしい。

【信州大学教育学部 東原名誉教授】

- 新潟県の遠隔授業システムの構成や操作方法は今年度まででほぼ完成されたといつてよい。
- 理科の授業という観点から、遠隔授業でここまでできる、できないがある程度示された。実験は、①映像での代替、②教員による演示実験、③生徒による実験の3パターンに分けられ

るが、大学では教員がいなくてもできる実験がある程度用意されている。高校の実験においても、生徒だけでできる実験をもう少し開発していてもよいのではないか。

- 受信側の体制については、ICT 支援員のような職種だけでなく、生徒指導もできるような適性のある方、教育実習生や、大学生など、様々な補助の可能性が考えられる。



【事後アンケートの結果（全体）】回答者数 83 人

- 公開授業を参観して、今後の授業や実務に活用できるような内容はあったか。

回答項目	公開授業①		公開授業②	
	回答数	(割合)	回答数	(割合)
あった	49	59.0%	43	51.8%
少しあった	29	34.9%	32	38.6%
あまりなかった	5	6.0%	8	9.6%
なかった	0	0.0%	0	0.0%

- 公開授業を参観して、今後の実務に活用できそうな具体的な内容は何か。
(上記質問における肯定的回答者の複数回答)

項目（複数回答可）	公開授業①		公開授業②	
	回答数	(割合)	回答数	(割合)
オンライン授業の進め方	51	65.4%	45	60.0%
教員の指導におけるタブレットの活用方法	53	67.9%	45	60.0%
生徒学習に取り組むためのタブレット活用方法	51	65.4%	62	82.7%
遠隔授業用機器の活用方法	19	24.4%	17	22.7%

- 研究協議は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	49	59.0%
少しそう思う	24	28.9%
あまりそうは思わない	10	12.0%
全くそう思わない	0	0.0%

○ 研究協議会全体は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	51	61.4%
少しそう思う	21	25.3%
あまりそうは思わない	11	13.3%
全くそう思わない	0	0.0%

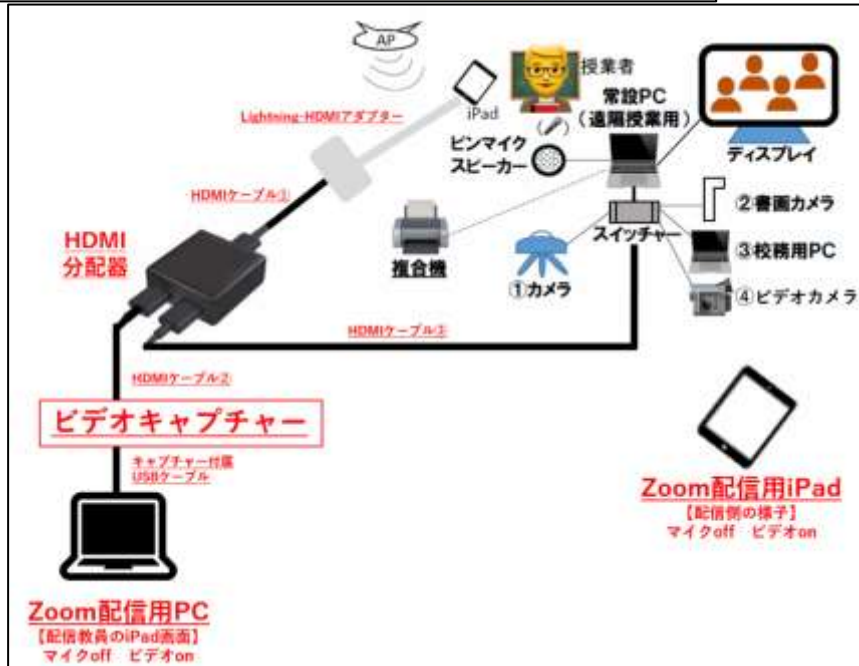
○ 遠隔授業における授業配信等に関わってみたいと思うか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	11	13.3%
少しそう思う	29	34.9%
あまりそうは思わない	32	38.6%
全くそう思わない	11	13.3%

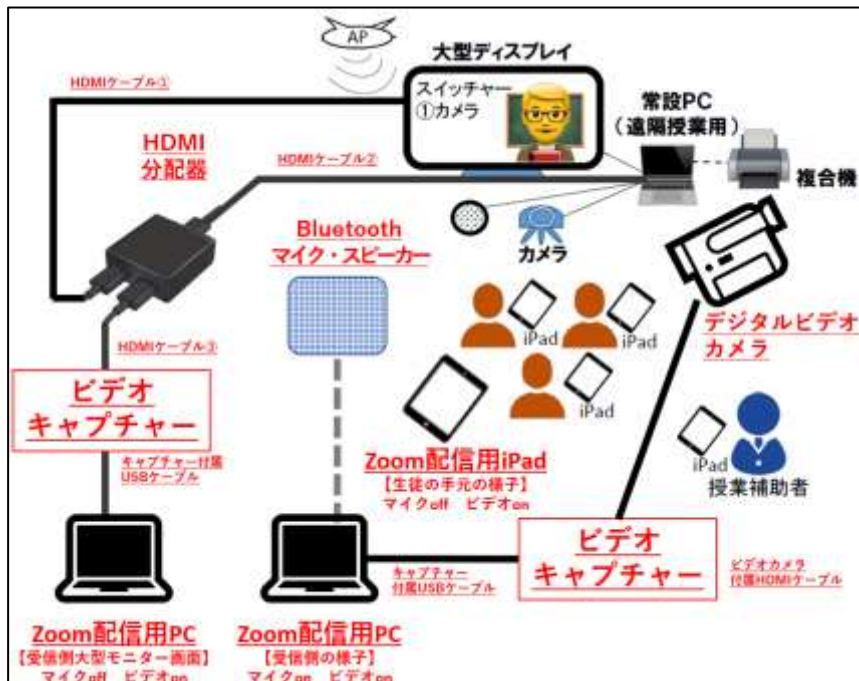
【参考】 公開授業のオンライン参観の推奨設定（5画面で参観）に係る機器接続図

(2) 推奨設定

- ①他の参観者のビデオを非表示にする ⇒参観に必要な画面だけが表示される
 - 画面左上に「ギャラリービューに切り替える」が表示されていたら、これをタップする。
 - いずれかの参加者の画面をダブ・タップし、「音声参加者を非表示」をタップする。



配信側の機器接続



受信側の機器接続

5 放課後オンライン講習

(1) ねらい

本調査研究では、大学進学等を目指す生徒の進路実現や、学習に課題を抱える生徒への支援に向け、遠隔授業の配信に加え、遠隔授業システムを活用したオンライン講習を行っている。令和4年度は、事前に対象校の全生徒（令和3年度は高校2年生、中等教育学校5年生）に希望調査を行い、その結果を踏まえながら、講習内容を決定、実施した。

【参考】希望調査の結果（令和4年9月実施）

1年	大学進学対策										検定対策			その他	
	国語	数学	英語								英検	数検	簿記	ベーシック	
阿賀黎明	1	3	1								3	1	1		7
佐渡	22	33	37								77	9	2		113
相川分校	1	2	1								0	0	0		0
羽茂	4	3	4								7	1	3		10
佐渡総合	5	8	4								8	1	8		9
佐渡中等	4	8	6								14	0	2		19
計	37	57	53								109	12	16		158

2年	大学進学対策											検定対策			その他	
	国語	数学	英語	世史	日史	地理	政経	倫理	化学	物理	生物	英検	数検	簿記	ベーシック	就職面接
阿賀黎明	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	3
佐渡	10	14	23	2	3	6	2	0	11	4	3	44	5	8	54	9
相川分校	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	5	1
羽茂	3	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	2	2
佐渡総合	8	5	5	1	1	0	1	2	1	0	1	9	2	8	15	3
佐渡中等	1	2	8	1	2	2	0	0	1	0	3	18	2	1	19	3
計	26	26	39	7	7	9	3	2	14	4	10	73	10	21	97	21

3年	大学進学対策											検定対策			その他	
	国語	数学	英語	世史	日史	地理	政経	倫理	化学	物理	生物	英検	数検	簿記	ベーシック	就職面接
阿賀黎明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
佐渡	4	20	22	1	4	4	6	0	4	1	4	39	3	7	53	6
相川分校	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽茂	0	0	3	0	0	0	1	2	0	0	1	2	0	2	7	2
佐渡総合	6	3	5	0	2	0	1	1	1	0	2	6	0	4	10	11
佐渡中等	0	2	1	2	1	0	0	0	2	2	0	3	0	1	7	2
計	11	27	32	3	7	4	8	3	7	3	7	51	3	14	78	21

(2) 実施体制

ア 実施方法

- 双方向ライブ配信形式とする。
- 配信者及び受講者ともに遠隔授業システム設置室を使用することを原則とする。
- タブレット端末を使用して、各講座別の Google Classroom を活用する。

イ 対象生徒

- 1・2年生（中等教育学校は4・5年生）のうち、大学等進学希望者
- 実用英語技能検定受験希望者

ウ 開講する講座及び担当者

- 模擬試験等を活用した大学進学対策

教科	担当教員	対象者
国語	新潟翠江高校教諭	1年生
数学	佐渡高等学校教諭	1年生
英語	佐渡高等学校教諭	1年生
	新潟翠江高校教諭	2年生

- 検定対策

種別	担当教員	対象者
英検	新潟翠江高校教諭	2級受験者 準2級受験者

【参考】令和3年度との比較

	令和4年度	(参考：令和3年度)
対象生徒	1年(4年)・2年(5年)	2年(5年)
実施方法	双方向ライブ配信	双方向ライブ配信
	「県立学校学習支援システム」活用推奨(※)	担当者によるオンデマンド配信
実施内容	模擬試験等の復習解説 検定試験の過去問解説	模擬試験等の復習解説

※…令和4年9月から県立高校等に導入した、民間業者への業務委託による学習支援教材。
 主な内容は、①学習動画(高校用450教材以上)、②小テスト問題(高校用650教材以上)
 ③医学部入試対策(有料)

(3) 実績

【登録生徒数】

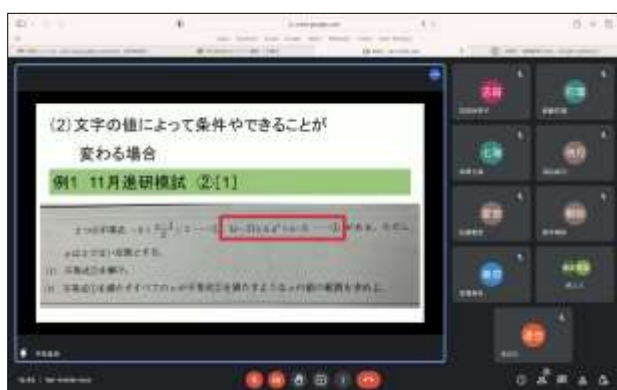
実施科目名	受講生徒数
1年国語	7人
1年数学	9人
1年英語	10人
2年英語	1人
英検対策	1人

【実施日】

実施日	実施科目
12月6日(火)	2年英語
12月7日(水)	1年国語、英検対策
12月13日(火)	1年数学、1年英語
12月14日(水)	1年国語、英検対策
12月20日(火)	1年数学、1年英語、2年英語
12月21日(水)	1年国語、英検対策
1月10日(火)	1年数学、1年英語
1月11日(水)	1年国語、英検対策
1月18日(水)	英検対策
1月24日(火)	1年数学、1年英語、2年英語
1月31日(火)	1年数学、1年英語
2月1日(水)	英検対策
2月7日(火)	1年数学
2月8日(水)	英検対策
2月15日(水)	英検対策
2月21日(火)	1年数学、英検対策



講習の Google Classroom



1年数学の講習の様子



1年英語の講習の様子

6 総括（成果と課題）

令和4年度は、年3回（7月・11月・2月）に受信生徒対象の授業アンケートをGoogle formsを利用して実施するとともに、管理機関が定期的に授業視察（訪問・オンライン）や、配信教員、受信補助職員等へヒアリングを実施した。この結果を踏まえながら、これまでの取組から遠隔授業の成果と課題を検証する。

(1) 生徒対象授業アンケート結果

ア 対象生徒数 72名（通年の配信授業を受講している生徒数）

イ 質問項目

- 大型ディスプレイに表示される映像や資料の見やすさ
- 配信する先生の音声の聞き取りやすさ
- 配信教員へ質問や、問いかけに対する回答のしやすさ
- タブレット端末の操作について
- 通常の授業と比較した、授業の理解度
- 通常の授業と比較した、授業の参加態度（意欲的に参加できたか）
- 通常の授業と比較した、自己表現や協働活動の頻度
- 通常の授業と比較した、
 - ・ノートやプリントに書く時間 ・他の生徒の意見や考えを共有する時間
 - ・1人で考える時間 ・先生に個別に教えてもらう時間
- ほかの教科・科目での希望
- ほかの学校との合同授業の希望
- 通常の授業と比較した、Google Classroomの活用頻度
- 通常の授業と比較した、自宅課題が出される頻度
- 配信教員から出される自宅課題の難易度
- 遠隔授業への要望

ウ 回答状況と主な質問項目の回答結果

7月：61人（84.7%） 11月：55人（76.3%） 2月：59人（81.9%）

- 大型ディスプレイに表示される先生の映像や資料は見やすかったですか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	31 (50.8%)	25 (45.4%)	32 (54.2%)
そう思う	24 (39.3%)	25 (45.4%)	22 (37.3%)
あまり思わない	6 (9.9%)	3 (5.6%)	5 (8.5%)
全く思わない	0 (0.0%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)

- タブレット端末の操作はスムーズに行うことができましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	27 (44.3%)	28 (50.9%)	29 (49.1%)
そう思う	23 (37.7%)	21 (38.2%)	27 (45.8%)
あまり思わない	11 (18.0%)	5 (9.1%)	3 (5.1%)
全く思わない	0 (0.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、授業内容を理解できましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	23 (37.7%)	20 (36.4%)	23 (39.0%)
そう思う	26 (42.6%)	25 (45.5%)	24 (40.7%)
あまり思わない	10 (16.4%)	10 (18.1%)	11 (18.6%)
全く思わない	2 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)

- 通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、意欲的に参加することができましたか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	25 (41.0%)	26 (47.3%)	29 (49.2%)
そう思う	34 (55.7%)	26 (47.3%)	22 (37.3%)
あまり思わない	2 (3.3%)	3 (5.4%)	7 (11.9%)
全く思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)

- 配信する先生への質問や、先生からの問いかけに対する回答はしやすかったですか。

	7月	11月	2月
大変そう思う	17 (27.9%)	22 (40.0%)	22 (37.3%)
そう思う	32 (52.4%)	23 (41.8%)	25 (42.4%)
あまり思わない	10 (16.4%)	9 (16.4%)	10 (16.9%)
全く思わない	2 (3.3%)	1 (1.8%)	2 (3.4%)

- 主な自由記述

- ・資料や動画が見やすく、意欲的に取り組むことができる。
- ・資料がタブレットにデータとして残るので、後ですぐに見返すことができる。
- ・資料が机の上で煩雑にならないので、内容が頭に入ってきやすい。
- ・動画での説明や、班になっての活動などがあり、記憶に残りやすい。
- ・授業に工夫が凝らしてあり、先生の話す内容も大変分かりやすい。
- ・分からないことをその場ですぐに質問することができない。
- ・配信教員とのコミュニケーションが少しとりにくい。

(2) 総括（成果と課題）

ア 配信側について

- 配信教員の機器操作、受信生徒のタブレット端末・アプリ操作の習熟度が向上し、年間を通じて大きなトラブルがなく円滑に授業を行うことができた。これは、配信校内の教員同士による日々の情報交換によるものが大きい。
- 「Classroom」やロイロノートを活用して、円滑にデジタル化したものを送受信することができた。また、「Jamboard」や「スライド」等を活用して、協働的な学びを実施することができた。
- 配信側教員がデジタル教材の活用等、工夫を重ねながら授業を行っており、生徒対象アンケート結果では、授業の理解度や参加意欲の肯定的回答が8割以上を占めた。

- 少人数かつ実習の伴わない科目においては、ICT環境を十分に活用した、対面と比較しても遜色ない授業が実施でき、小規模校でも専門的な授業を受けることができた。
- ICTを活用した協働学習を繰り返し実践したことによって、遠隔授業であっても生徒が自発的に意見を述べ、積極的に生徒同士で意見を交換することができるようになった。
- 複数のアプリを生徒に使用させる体験を積み重ねた結果、生徒のICT機器の活用能力を伸ばすことができた。
- 授業内において生徒からの質問がほぼ無かった。他の生徒に質問内容を聞かれてしまうことが理由と考えられ、教員も個々の生徒に対して声掛けが難しい。
- 生徒が配信教員への問いかけや質問に回答のしづらさを感じているため、マイク配置の工夫や、チャット等の文字情報を活用することなど、システムの改善を図る必要がある。(生徒が個々にマイクイヤホンを準備し、個別の質問に対応する授業もあった。)
- マイクの配置を生徒により近い位置に変え、配信教員・生徒の声をより聞こえやすくした。
- 生徒同士がグループで話し合いを行う際、声が小さくなる時があり、教師の見取りが難しい。
- 評価に際しては、受信校の評価基準をもとに、受信校職員に相談するなどして、適切に評価をすることができた。
- 実験については、演示実験や、動画で実験の映像を見せるなど、工夫して行うことができた。
- 配信教員のICT活用スキルは、対面授業でも活かされるものが多くあり、遠隔授業のひとつの成果である。

イ 受信側について

- 授業以外で生徒と接する機会がないため、生徒の様子(人間関係等)を把握することが難しく、授業内での声掛けに苦慮している。
- 生徒と配信教員とのつながりが、授業のときのみ限定される。生徒の授業以外の場面での様子を知ることができれば、より深い関係を構築することができる。
- 対面授業以上に、遠隔授業では、生徒理解に努め、信頼関係を構築していく必要がある。
- 対面授業に比べ生徒個々の理解度を把握しづらいので評価が非常に難しい。
- 実験・実習の準備や片付け・実施は、専門の知識が必要となる場面がある。
- 受信側職員が、当該教科以外の教員等であっても、十分に授業をサポートすることができた。ただし、成績評価や授業内の生徒指導等の点においては、当該教科の教員が望ましい。
- 机間指導や生徒の代わりに配信教員に質問することで、対面授業と変わらない授業を行うことができた。
- 受信校に特別支援や生徒指導的配慮を必要とする生徒がいた場合の対応について、慎重に行う必要がある。

ウ 実施体制について

- 時間割や年間行事予定など、初期段階で共有されているべき情報を、受信校と配信校間で正確に把握するためのルール作りが必要。
- 配信教員は、受信校との兼務教員であるとはいえ、配信校の業務が主となるため、バランスや優先順位の図り方が難しいと感じる場面があった。
- 受信校の短縮授業や授業変更等により、整備した配信室より多くの授業を同時に行わなければいけないことがあり、簡易なシステムで授業を行うことがあった。遠隔授業においては、できる限り変更等がないようにする必要がある。
- 配信教員が、受信校のクラス担任や当該教科教員などとも相談したい場面もあり、配信校と受信校との連携体制を強化していく必要がある。
- 実験や実習を効果的に行うには、安全面での配慮を行いながら、対面授業の機会を多くするなど、引き続き検証が必要である。

エ 受信側のサポート体制の検証

- 受信補助は教員に加え、本事業の特例を活用した実習助手、事務職員の受信補助の検証を実施した。授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う授業での安全確保等の観点から、受信側職員のサポート体制については、慎重に調査研究を進める必要がある。

【実習助手】

- ・教員スタッフの一人として、普段から教室内で生徒と接しており、実験、実習における教員の補助も行っている。そのため、受信側職員として、授業内での生徒への指導は可能であり、配信教員と連携して、実験、実習を含めた遠隔授業のサポートを円滑に行うことができる点が有効である。

【事務職員】

- ・教員と異なり、通常、生徒を指導する立場にないため、生徒への指導に不安感を持つケースもある。生徒同士のトラブルや、災害等不測の事態の対応を受信校内で共有しておく必要がある。

Ⅱ 学校間連携（生徒交流）

1 生徒間交流

(1) ネットワーク校生徒交流会

- ア 日時 令和4年5月30日(月) 16:00～17:00
イ 方法 オンライン（Google Meet）
ウ 内容 ・各校の代表生徒による自校の紹介
・今後の活動に係る情報共有について（Google Classroomの活用）



オンラインによる交流の様子

ネットワーク校6校の学校紹介

① SaGaSu委員会

- ・生徒間交流のアイデア募集
- ・ロゴマークの活用
- ・プロジェクトの発信

② SaGaSuゼミ

- ・探究活動の共同研究、交流授業
- ・放課後の進学補習等の学習会

ネットワーク校みなさんからの発信を期待しています

交流会で使用したスライド

(2) 広島県との生徒交流会

- ア 日時 令和4年10月17日(月) 16:00～16:35
イ 方法 オンライン（Zoom）
ウ 内容 ・CORE ハイスクール・ネットワーク構想の実施期間である広島県との交流をスタート
・広島県生徒実行委員会より、学校間連携の取組等の活動報告
・新潟県 SaGaSu 委員会より、地域の伝統芸能の探究活動等、今後の活動紹介
・グループ別交流（お互いの学校紹介や探究活動の取組紹介）
- エ 参加校 【広島県】油木高校、東城高校、日彰館高校、佐伯高校、加茂北高校、大崎海星高校、
【新潟県】阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校、佐渡中等教育学校



全体会の様子



新潟県の学校紹介



広島県の学校紹介

オ 参加生徒の感想

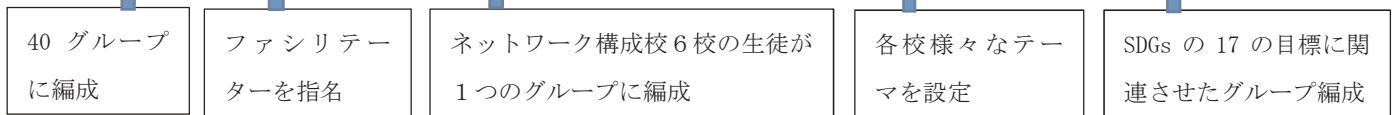
- 同じ探究テーマで同じような環境にある学校同士で、探究活動を進める上で悩んでいることを共感でき、有意義な時間を過ごすことができました。（新潟県）
- 色々な地域の学校独自の活動などが知れてとても視野が広がったようで良かったです。（広島県）
- 佐渡では感じられない新たな地域の魅力を感じられて楽しかったです。（新潟県）
- 私は短い時間の中で発言することができなかつたので、もしまたこのような機会があれば、何かしら発言することができるよう頑張りたいです。（広島県）

(3) ネットワーク校合同探究発表会

- ア 日時 令和4年10月26日(水) 13:40～15:40
- イ 方法 オンライン (Google Meet)
- ウ 参加校 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計324人
- エ 内容
 - ・ネットワーク構成校6校324人の生徒が、8人程度のグループに分かれ、他校の生徒に自分の探究活動等の取組を発表、質疑応答
 - ・グループは、発表テーマ、SDGsの17の目標に関連づけて40のグループに編成（以下参照）

オ グループ編成例

チーム番号	ファシリテータ	学校名	探究活動	SDGs17
21		阿賀黎明高等学校	ゲームを利用した地域の活性化	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡総合高等学校	環境工学系列～授業等の取組紹介～	(8) 働きがいも 経済成長も
21	F	佐渡高等学校	人が惹き付けられるような映像について	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡中等教育学校	経済成長や雇用について	(8) 働きがいも 経済成長も
21		羽茂高等学校	職場体験に行って～人手不足の解消に向けて	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡高等学校相川分校	リピって佐渡	(8) 働きがいも 経済成長も





開会式（全体会）の様子



生徒の発表スライド



教室での参加生徒の様子
(それぞれが、他校の生徒とグループ編成)



オンライン上での参加生徒の様子
(ファシリテーターが質問者を指名)

カ 参加生徒の感想

- 発表するときに、スライドを言葉に合うように動かすことができ、わかりやすく説明することができた。
- 練習の時よりスムーズに発表できた。もう少し原稿を見る回数を減らして発表できるとよかった。
- 発表するときに、ただ書いたものを読むだけになってしまったので、次回は、聞き手のことをきちんと考えて、質問にも答えられるように準備したい。

(4) ネットワーク校探究活動等成果発表会

ア 日時 令和5年1月27日(金) 13:40~15:40

イ 方法 オンライン (Zoom、Google Meet)

ウ 参加校 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計324人
広島県立日彰館高校、新潟県 SaGaSu 委員会

エ 内容 ・SaGaSu 委員生徒による委員会紹介、探究活動発表（全体会）
・探究活動等成果発表会（分科会）

各校生徒がグループ毎に1人ずつ、質疑応答を含めて5分で発表

・広島県代表生徒による探究活動発表（全体会）

・高堂景寿指導委員による講評（全体会）



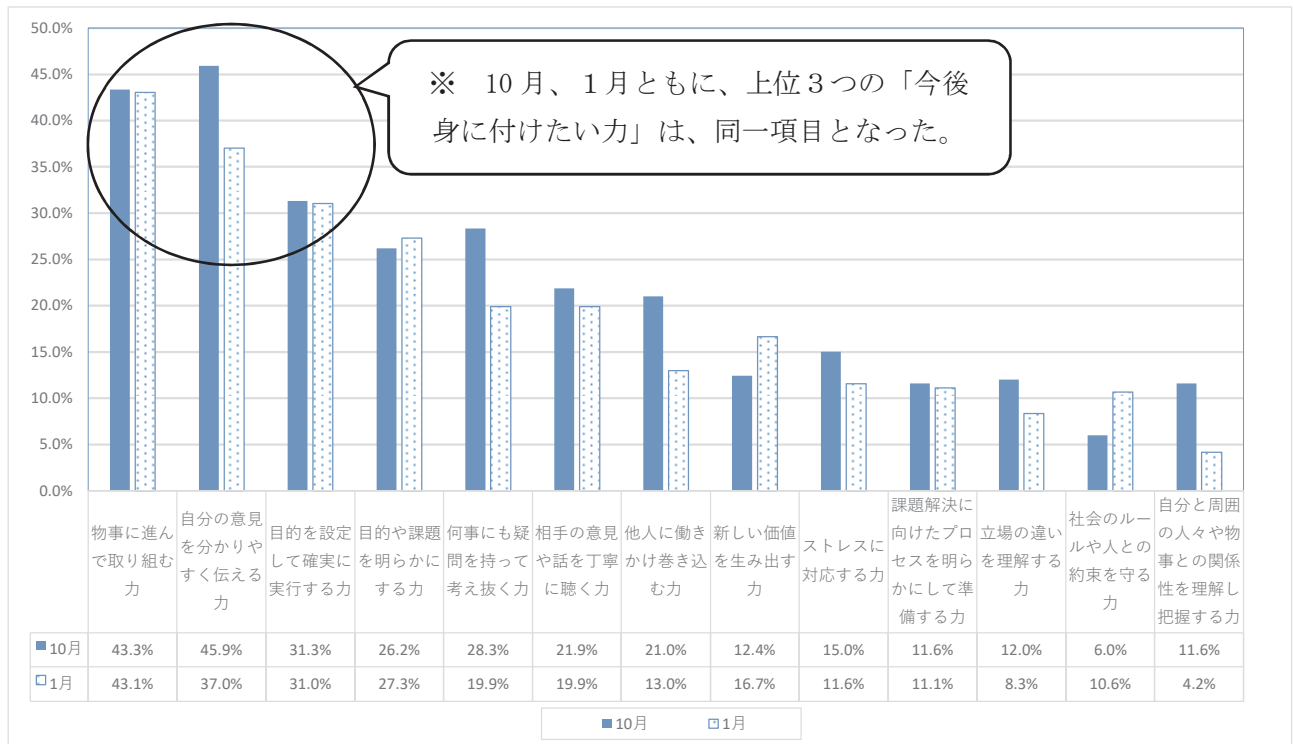
全体会の様子



他校生徒へ発表する参加生徒の様子 全体会で発表する SaGaSu 委員生徒の様子

オ 合同発表会のアンケート結果

発表会やこれまでの探究学習を通じて、今後あなたが身に付けたい力は何ですか。



カ 合同発表会における成果と課題

オンラインの活用により、学校間の距離や参加人数の障壁を越えて、阿賀町と佐渡市の生徒324人による合同発表会を実施することができた。

対面であれば、代表生徒の発表を参観するだけの活動になりがちだが、参加生徒全員が発表及び質疑応答を行うという点にもこだわり、これもオンラインによって実現することができ

た。教育現場において、オンライン活用の一つのモデルとなる取組になった。

また、上記アンケートにおいて、多くの生徒が、「物事に進んで取り組む力（主体性）」、「自分の意見を分かりやすく伝える力（発表力）」、「目的を設定して確実に実行する力（実行力）」を今後身に付けたい力としており、全員が他校の生徒に発表を行う形の発表会は、今後も重要な取組になる。

次年度は、事前に発表会の意義や目的、発表会をとおして身に付けてほしい力などを参加生徒に周知し、また質疑応答の時間を充分にとるなどして、こうした力を育成するための取組を進めていきたい。

(5) 広島県主催の成果報告会への参加

ア 日 時 令和5年2月2日(木) 14:50～15:20

イ 方 法 オンライン (Zoom)

ウ 参加校 広島県東コンソーシアム構成校（油木高校、東城高校、日彰館高校）
新潟県 SaGaSu 委員会

エ 内 容 広島県主催の CORE ハイスクール・ネットワーク構想盛会報告会に、新潟県の SaGaSu 委員会の生徒が参加し、探究活動の成果発表を行った。

(6) SaGaSu 委員会の活動

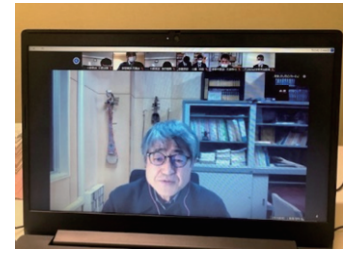
日時	内容
5月30日(月)	SaGaSu 委員生徒の自己紹介、学校紹介
6月15日(水)	今後の活動について
7月6日(水)	ゼミ班、発信班、交流班の3班に各校で分かれ、活動計画を協議
7月21日(木)	ゼミ班の探究活動の進め方についての協議
7月25日(月)	3つの班で今後の活動についてのミーティングとその共有
8月25日(木)	広島県との交流に向けた準備
9月21日(水)	広島県との交流に向けた最終打ち合わせ
10月17日(月)	広島県との生徒交流会
11月16日(水)	これまでの取組の振り返り
12月9日(金)	ゼミ班における探究活動の発表に向けた準備、確認
12月20日(火)	交流班における今後の交流活動についての意見交換
12月21日(水)	発信班における SNS での広報活動の役割分担
12月22日(木)	ゼミ班における探究活動発表 (1/27) の準備 新潟大学名誉教授伊野義博による指導・助言
1月19日(木)	探究発表のリハーサル
1月27日(金)	ネットワーク校探究活動等成果発表会にて、SaGaSu 委員会の活動紹介と、探究活動の成果発表
2月2日(木)	広島県の成果報告会にて、探究活動の成果発表 (羽茂高校3名が代表して発表)
3月24日(金)	今年度の活動のふりかえりと次年度の活動に向けての確認



全体会での意見交換の様子



班活動での意見交換の様子



伊野義博名誉教授からの
指導・助言

(7) ゼミ班の探究活動「伝統芸能と現代を繋げる」(抜粋)

ゼミ班での取組

- 元新潟大学教授伊野先生とのミーティング
- 地元の祭に参加し民謡を体験
- 伝統民謡の継承者にインタビュー
- 歴史文献を読む

取組紹介スライド

まとめ

- 各地域様々な芸能が受け継がれ今もなおその文化を肌で感じられる。
- 発表した芸能以外にも全国で一般的に知られているような「佐渡おけさ」や、少数地域・狭い範囲でしか行われていない認知が低い芸能は全国各地にも存在する。
- 時代の波に飲まれて失われてしまった芸能も少なくない。
- 今あるものに目を向け関心を持つことが大切。

まとめのスライド

鬼太鼓 佐渡総合高校

- ・五穀豊穡、大漁、家内安全を祈って「門付け」を行う神事
- ・田植え前の4月15日と収穫前の9月15日に行われる

佐渡総合高校の発表スライド

狐の嫁入り行列 阿賀黎明高等学校

伝説

↑ 越前山

狐火一

狐の嫁入り行列

↑ 狐のメイク

阿賀黎明高校の発表スライド

ろうそは佐渡でも珍しい

役付けの紹介

佐渡高校の発表スライド

宵乃舞 佐渡高校相川分校

宵乃舞とは佐渡市相川地区の京町通と奉行所で行われる音頭流しです。音頭流しと言われてもあまりピンとこないと思うので、和風サンバのパレードと言ったらわかりやすいでしょうか。もちろんパレードのような賑やかさはありませんが、和のしっとりとした舞と歌声、三味線の音色を美しい景色とともに堪能できます。
19時から始まるので日が沈むにつれて涼みががだんだんと暗くなり、通りの両側に並ぶ宵乃舞と書かれたぼんぼりが演者を夕日とともに優しく照らします。

佐渡高校相川分校の発表スライド



佐渡中等教育学校の発表スライド



羽茂高校の発表スライド

(8) 地域探究等における3校合同発表会

ア 日時 令和5年2月27日(月) 13:20~15:05

イ 会場 各校(オンライン)

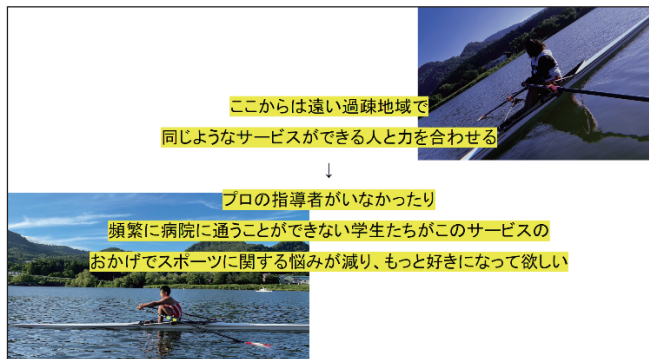
ウ 参加校 羽茂高校、阿賀黎明高校、佐渡総合高校の2年生

エ 内容 3校それぞれの代表グループが、地域資源を生かした探究学習の成果を発表

順番	発表者	発表内容
1	羽茂高校 2名	佐渡観光プラン
2	羽茂高校 1名	部屋の片付けお助けアプリの提案
3	羽茂高校 2名	佐渡のサイクリングコースの作成
4	阿賀黎明高校 6名	食と見守り
5	阿賀黎明高校 1名	スポーツ選手の心と体のケアでまちづくり
6	阿賀黎明高校 1名	「高齢者×Tiktok」でまちづくり
7	佐渡総合高校 3名	人口減少と空き家問題
8	佐渡総合高校 3名	佐渡市が持つ問題
9	佐渡総合高校 2名	少子・高齢化問題
10	佐渡総合高校 2名	人口減少を止めるには

オ 講評 日本大学商学部 細田 晴子 教授

- 探究活動は発表して終わりではないので、継続した取組や実践を進めていってほしい。
- 前例にとらわれず、若者らしい発想で、取り組んでほしい。
- 一人では難しいことでも、大人の味方を作るなどして、つながりを広げて取り組んでほしい。



発表5のスライド資料



オンライン発表会に参加する生徒の様子

2 成果と課題

- 5月の生徒交流会以降、月1回のオンラインミーティングをとおして、ネットワーク構成校が学校間で連携しながら、協力して取り組んでいこうとする生徒間の雰囲気が醸成できた。
- ネットワーク構成校6校による合同探究発表会では、生徒324人が参加し、他校の生徒に発表を行う機会を作るなど、オンラインを活用した学校間連携のモデルケースとなる取組となった。
- 広島県との交流をとおして、本県と異なる文化や習慣に触れるとともに、異なる地域でも共通した課題があることを認識するなど、お互いに有意義な交流会にすることができた。
- 一方、今年度は、管理機関が各校のスケジュール調整や活動の指示を行ってきた面があるため、次年度は、生徒・学校がより一層主体的に考え、行動するような取組にしていくことが課題である。

Ⅲ 地域との連携・協働

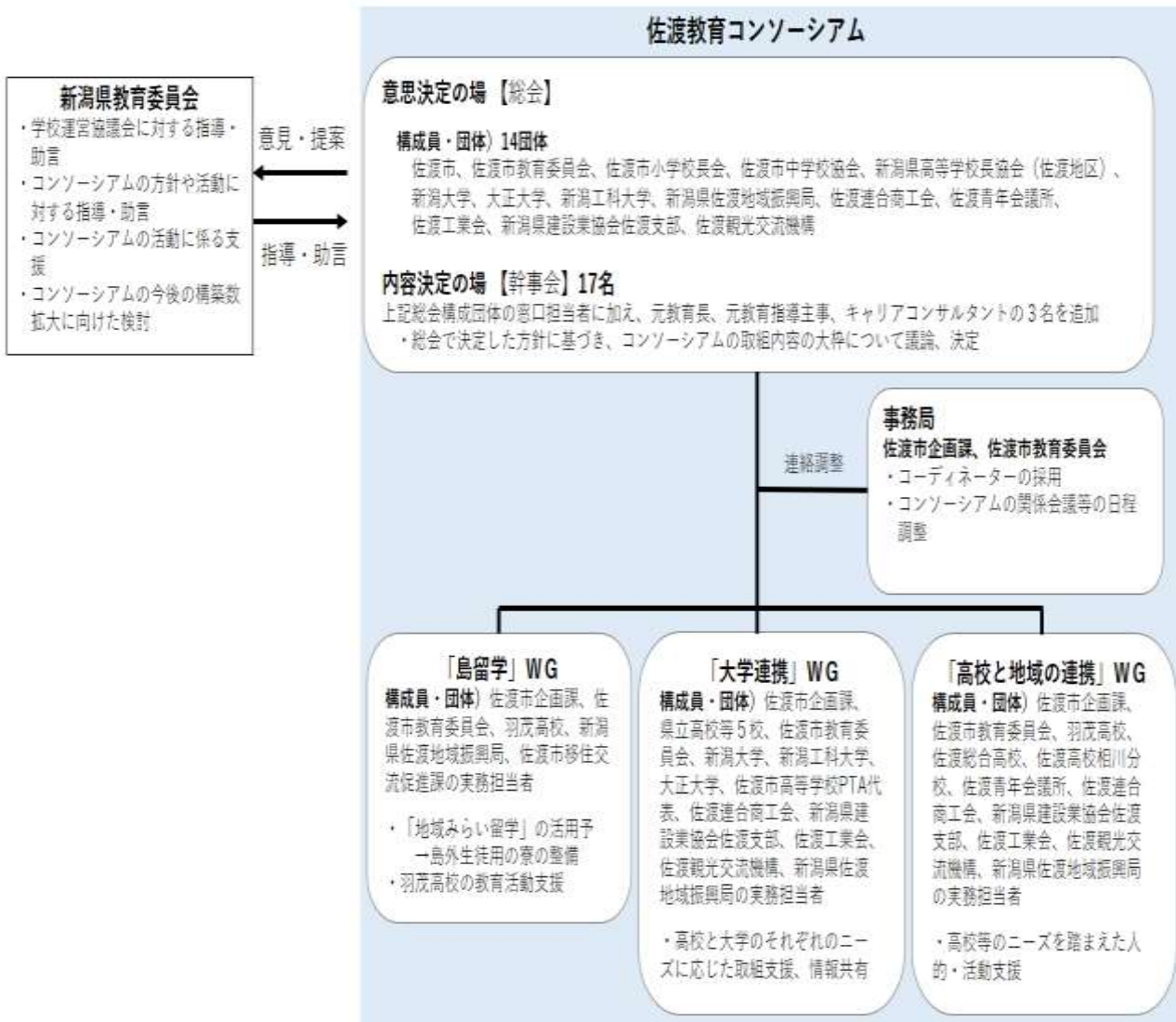
佐渡教育コンソーシアム

1 コンソーシアム構築の背景

佐渡市は人口減少をはじめとした様々な地域課題を抱えており、このような社会において、子どもたちが自立的に生き、社会に参画する人材となるために必要な資質・能力を育成することが急務となっている。そのため、佐渡市では、小中学校で地域の自然・歴史・文化への理解を深め体系化する「佐渡学」を中心としたキャリア教育に力を入れてきた。

さらに、佐渡市では、地元県立高校等が連携・協働しながら、地域を支える人材育成や地域活性化に取り組むための検討を進め、令和3年3月、佐渡教育コンソーシアムを計14団体で構築するに至った。

2 コンソーシアム構成図



3 主な会議等

(1) 佐渡教育コンソーシアム総会

- ア 日時 令和4年4月25日(月) 10:00~11:30
- イ 会場 佐渡市役所 本庁 3階 大会議室
- ウ 内容 令和3年度事業計画、令和4年度事業計画、組織体制について

(2) 佐渡教育コンソーシアム幹事会・ワーキンググループ

- ア 日時 令和4年5月23日(木) 13:30~15:00
- イ 会場 金井コミュニティセンター 2階 大会議室・小会議室
- ウ 内容 幹事長の選任、各ワーキンググループでの協議
- エ ワーキンググループでの協議内容
 - ・「高校と地域の連携」 : 地域人材等についての情報収集 等
 - ・「大学連携」 : 高大連携に向けた情報共有 等
 - ・「島留学」 : 県外生徒の受入体制構築 等

4 佐渡教育コンソーシアム講演会

- ア 日時 令和4年11月12日(土) 15:00~17:00
- イ 会場 あいぼーと佐渡 多目的ホール
- ウ 対象 学校関係者、事業所関係者、地域関係者等
- エ 講師 NIIGATA マイプロジェクト☆LABO 宮崎 芳史 実行委員長
- オ 演題 「実践型探究マイプロジェクトの始め方
～地域と中高生の共創が佐渡の未来にもたらす価値～」
- カ 内容
 - ・マイプロジェクトのプロセス
 - ・中等生 PROJECT について
 - ・アクションを学びに変えるリフレクション
 - ・NIIGATA マイプロジェクト事例紹介
 - ・学びの土壌とコーディネーター、コンソーシアム



講演会の様子



グループワークの様子

5 各校への活動支援

(1) 佐渡高等学校への支援

【大学出前講義のコーディネート】

- ア 日時 令和4年8月19日(金) 12:50~15:30
イ 会場 佐渡高等学校
ウ 対象 1学年
エ 講師 東京大学 宇宙線研究所 ダニエラ・ハデシュ 助教
オ 演題 「宇宙との繋がりー惑星/星の一生と人類との繋がりーの入門」



大学出前講義の様子

(2) 佐渡高等学校相川分校への支援

【進路ガイダンス】

- ア 日時 令和5年3月17日(金) 1限~4限
イ 会場 佐渡高等学校相川分校
ウ 対象 1年次生、2年次生
エ 内容 ・職業別ガイダンス
地元で働く様々な職業の方から、具体的な仕事内容・仕事のやりがい等について、パネルディスカッション形式で意見交換
分野別に分かれて、各教室で希望する分野の講義に参加
・ハローワーク職員講話
1年次：正社員とアルバイトの違い、企業は高校生に何を求めているか
2年次：就職試験に向けての今後の予定、準備すべきこと
オ 講師 ・製造：キンちゃん本舗株式会社、エスケーエス ・販売：フレッシュマツヤ
・建設：廣瀬組 ・介護：大浦の里 ・接客：湖畔の宿 吉田屋 ・自衛隊

(3) 羽茂高等学校への支援

【地域の課題に関する講話】

- ア 日時 令和4年5月31日(火) 12:35~14:35
令和4年6月10日(金) 9:50~11:50
イ 会場 羽茂高等学校
ウ 対象 3学年地域探究コース 14名
2学年地域探究コース 14名

エ 内容

○ 5月31日(火)

- ・「佐渡市総合計画」から考える～佐渡市を取り巻く社会情勢と現状～
企画財政部総合政策課政策推進室 丸山 良輝 政策推進係
- ・「佐渡島内のエネルギー事情について」
東北電力ネットワーク(株) 佐渡電力センター 戸井田 洋治 副調査役
- ・「佐渡市の脱炭素・エネルギー政策について」
企画財政部総合政策課地域エネルギー係 渡部 達也 係長
- ・「佐渡の農を舞台に表現する～新しい里山と棚田の価値を見出す～」
佐渡市地域おこし協力隊 村山 凜太郎 岩首地域担当

○ 6月10日(金)

- ・「佐渡における農業の現状と課題」
農林水産部農業政策課農業企画係 鶴間 津治雄 係長
- ・「佐渡における水産業の現状と課題」
農林水産部農林水産振興課水産振興係 伊藤 誠 係長



棚田に関する講義の様子



エネルギーに関する講義の様子

【SDGsに関するオンライン講義】

- ア 日時 令和4年6月22日(水) 14:40～15:30
- イ 会場 羽茂高等学校(オンラインで実施)
- ウ 対象 1学年
- エ 演題 「SDGsは他人ゴト?～SDGsを自分ゴトにしよう!～」
- オ 講師 長岡技術科学大学 勝身 麻美 UEA
※「佐渡市高校生議会」の一環として実施



オンライン講義の様子

【宿根木地域現地学習会】

- ア 日時 令和4年6月28日(火) 13:00~16:00
イ 会場 小木民俗博物館、宿根木地域
ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名
エ 内容 ・国の重要伝統的建造物群保存地区である宿根木地域についての講義(小木民俗博物館)
・観光ガイドによる現地学習(宿根木地域)
※8月19日(金)、20日(土)高校生による宿根木地域での英語観光ガイド実施

【探究学習に向けたビジネスマナー講座】

- ア 日時 令和4年7月8日(金) 10:55~11:50
令和4年7月12日(火) 12:35~13:30
イ 会場 羽茂高等学校
ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名
3学年 地域探究コース 14名
エ 講師 三条地域若者サポートステーション 佐渡サテライト 仲川 健太 相談員
オ 内容 ビジネスマナー全般、電話のマナー、メールのマナー、名刺交換のマナー等



電話の対応の様子



名刺交換の様子

【探究的な学びについての助言・指導】

- ア 日時 令和4年10月11日(火) 12:35~13:30
イ 会場 羽茂高等学校
ウ 対象 3学年「地域探究」選択者
エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 五百川 将 放課後子ども支援担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
オ 内容 ビジネスプランについてのプレゼンテーションと、講師によるフィードバック

【ジオパーク推進室との連携授業】

- ア 日時 令和4年10月26日(水) 13:30~15:30
イ 会場 羽茂高等学校、宿根木地域
ウ 対象 1学年
エ 講師 佐渡市教育委員会 社会教育課 相田 満久 ジオパーク推進指導員
オ 内容 ・佐渡ジオパークの講義 ・宿根木地域の現地学習



連携授業の様子



フィールドワークの様子

【佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト 2022・ポストイベント】

ア 日時 令和4年10月25日(火) 13:40~15:40

イ 会場 羽茂高等学校

ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名

エ 内容 ・「佐渡島の建築について(宿根木地域の重要伝統的建造物群保存地区を中心に)」

講師 元 日本大学理工学部海洋建築学科 畔柳 昭雄 教授

・「海洋再生可能エネルギーについて」

講師 日本大学理工学部海洋建築学科 相田 康洋 助教

・「達者集落や姫津集落、相川羽田地区の地域ネコの行動軌跡から学ぶ心地良い

オープンスペース」

講師 日本大学理工学研究科大学院生



建築に関する講義の様子



エネルギーに関する講義の様子

【佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト 2023・プレイイベント】

ア 日時 令和4年12月2日(金) 9:50~11:50

イ 会場 羽茂高等学校

ウ 対象 2学年「ソーシャルデザイン」選択者 16名

エ 内容 ・大学生による実践発表・研究発表

「相互教育型ビジネスモデル ~Community Lab で価値を生み出す~」

「益田孝と偉人たちに関する研究~人と人の繋がり歴史~」

・高校生によるビジネスプラン発表(大学教員、大学生等による助言)



発表テーマに関するグループワークの様子



大学生によるビジネスモデルの実践発表

(4) 佐渡総合高等学校への支援

【地域の産業を知る講演会】

ア 日時 令和4年5月27日(金) 13:25～15:05
令和4年6月3日(金) 13:05～14:40

イ 会場 佐渡総合高等学校

ウ 対象 1学年 98名

エ 講師 シーサイド・ファクトリー、佐渡地域振興局農林水産振興部、
東京税関佐渡監視署、東京税関新潟税関支署、近藤組、内海府漁業生産組合、
ダイチク佐渡、SAKAMA、Show by JAWS

※「海洋パイオニアスクールプログラム」事業の一環として実施



漁業に関する講義の様子



マリンスポーツに関する講義の様子

【佐渡島 SDGs 天地人サイエンスプロジェクト模擬講義】

ア 日時 令和4年6月14日(火) 13:20～14:10

イ 会場 佐渡総合高等学校

ウ 対象 佐渡総合高等学校1学年 98名

エ 内容 ・「日本の科学技術黎明期に活躍した佐渡にまつわる人々」

講師 東京理科大学 本間 芳和 名誉教授

・「星空を眺め続けてたどり着いた科学の世界」

講師 東京理科大学 山本 貴博 教授



本間名誉教授の講義



山本教授の講義

【SDGs に関するオンライン講義】

- ア 日時 令和4年7月26日(火) 13:20~14:10
- イ 会場 佐渡総合高等学校 (オンラインで実施)
- ウ 対象 1学年
- エ 演題 「持続可能な社会創成を目指して～SDGs～」
- オ 講師 長岡技術科学大学 志田 洋介 准教授
※「佐渡市高校生議会」の一環として実施

(5) 佐渡中等教育学校への支援

【「総合的な探究の時間」中間発表会の講評】

- ア 日時 令和4年10月13日(木) 14:25~16:00
- イ 会場 佐渡中等教育学校
- ウ 対象 4・5学年
- エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 棚村 麗乃 みなとオアシス担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
- オ 内容 生徒が「総合的な探究の時間」の学習成果について発表し、講師が発表内容について指導・講評

【「総合的な探究の時間」発表会についての助言・指導】

- ア 日時 令和5年3月2日(木) 13:30~16:08
- イ 会場 佐渡中等教育学校
- ウ 対象 4・5学年
- エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 棚村 麗乃 みなとオアシス佐渡両津担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
- オ 内容 生徒がプレゼンテーションを行い、講師によるフィードバック

6 各学校からの生徒派遣（佐渡市高校生議会）

佐渡市主催の高校生議会に、佐渡島内の高等学校、中等教育学校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問や、SDGsの17の目標に関連付けた政策提案を行った。

ア 日時 令和4年8月19日(金)

イ 会場 佐渡市議会 議場

ウ 内容 ・議会、選挙についての学習 ・議場見学 ・高校生議会

エ 高校生による代表質問

学校名	質問項目	答弁者
佐渡高校	SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」ターゲット11.4「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」に関連して、 ○ 佐渡の観光資源の情報発信について ○ ロードバイクによる佐渡の名所・旧跡を巡るコースプランの提案について	市長 観光振興部長
佐渡中等教育学校	SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連して、 ○ 商店街の再生・活性化について ○ 学生や高齢者等が活用できるフリースペース設置の提案について	副市長 地域振興部長
佐渡総合高校	SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」に関連して、 ○ 各種大会における生徒のコンディション・費用等の離島によるハンデ軽減の支援について ○ 県大会等の佐渡への誘致について	教育長
羽茂高校	SDGsの目標1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、11「住み続けられるまちづくりを」に関連して、 ○ 小中学校の給食の無償化について ○ 規格外野菜の活用等による地産地消の推進について	市長 教育次長



参加生徒の集合写真



議場の様子

7 「地域みらい留学」への支援

(1) オンラインによる合同学校説明会

日時	内容	参加人数（延べ）
6月4日(土)・5日(日)	・住まい、暮らしについての説明 ・探究的な学習等、特徴的な学習内容についての説明 ・佐渡の魅力紹介 等	155名
7月9日(土)・10日(日)		57名
8月6日(土)・7日(日)		31名
9月3日(土)・4日(日)		68名

(2) オンラインによる個別相談会

日時	内容	参加組数
8月26日(金)15:00～15:45	・学校についての説明	1組
11月16日(水)19:00～20:00	・受入体制についての説明	1組
1月5日(木)15:00～16:00	・質疑応答	1組

(3) 対面による合同学校説明会

- ア 日時 令和4年9月24日(土) 11:00～16:00
- イ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟
- ウ 内容 ・高校についての説明
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
・質疑応答
- エ 参加 地域みらい留学を検討している中学生とその保護者 3組

(4) 県外生徒対象のオープンスクール

- ア 日時 令和4年11月4日(金) 13:00～16:00
- イ 会場 羽茂高校
- ウ 内容 ・学校についての説明
・校舎見学
・授業、部活動見学
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
- エ 参加 地域みらい留学を検討している中学生とその保護者 1組

8 成果と課題

- コンソーシアム設置の2年目を迎え、定期的な会合や連絡を重ねながら、各校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な支援につなげていくことができた。
- コンソーシアムの事業をとおして、島留学（地域みらい留学）の推進等にも高校との連携体制を構築し、羽茂高校の県外募集につなげることができた。
- 教育課程内で地域資源を活用した探究的な学びを充実させることで、生徒が地域活性化に関するイベント、コンテスト等に興味、関心を持つなど、地域の課題解決や地域貢献への動機付けにつながった。
- 探究活動において、コンソーシアムが学校と地域を調整し、お互いのニーズのミスマッチを防ぐための役割を果たした。今後も佐渡島内の学校と、佐渡市、県教育委員会、関係団体が情報共有する上で、コンソーシアムの役割は重要である。
- 佐渡教育コンソーシアムは、5つの高校等を支援するという難しさがあり、学校によって取組に差が生じてしまうことや、担当者の負担などが課題となっている。来年度以降は、学校間で連携しながら、より一層、実効的なコンソーシアムのあり方を研究していく。

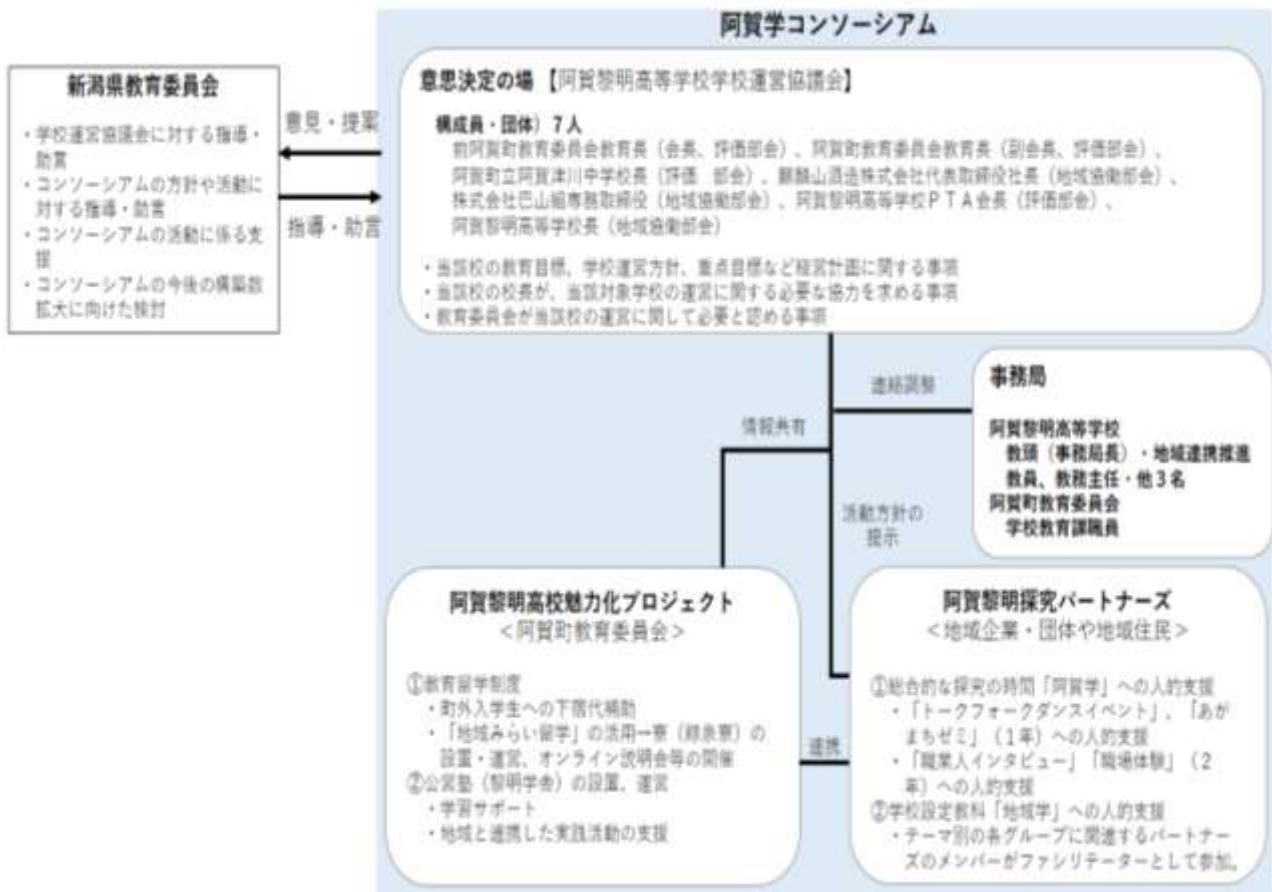
阿賀学コンソーシアム

1 コンソーシアム構築の背景

阿賀町の人口減少や少子高齢化が急速に進む中、町に唯一所在する高校である県立阿賀黎明高校でも小規模化が進行し、近年、恒常的な定員割れが生じている。高校の魅力化を図ることが町の活性化に資すると考え、平成28年度から阿賀町は「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を開始し、令和2年度には、新潟県教育委員会が阿賀黎明高校を学校運営協議会設置校に指定し、地域が学校の教育活動を支える体制を構築した。

このことを踏まえ、地元自治体、企業、地域住民等による多様な支援により、阿賀黎明高校の教育活動の魅力化に資する組織的活動を展開するに至った。

2 コンソーシアム構成図



3 学校運営協議会の開催

開催日	参加者	主な内容
令和4年5月17日(火)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動方針について ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
令和4年10月6日(木)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の進捗状況について ・連携型中高一貫教育の在り方について ・スクール・ミッション案について ・「地域探究」「スクール・ミッション」をテーマに熟議(ファシリテーター：黎明学舎)
令和5年1月18日(水)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返りと次年度の活動方針 ・スクール・ポリシーの策定に向けた連携 ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて 「熟議」(ファシリテーター：みらいず Works)



熟議で意見を出し合う様子



熟議でまとめた意見を発表する様子

4 「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」の取組（学校への地域探究活動の支援）

(1) 福祉体験

ア 日時 令和4年9月2日(金)、9月6日(火)、9月9日(金)、9月16日(金)

イ 対象 1学年17名

ウ 内容 地域の福祉サロンでのレクリエーション企画・実施をとおして、プロジェクトを進める流れを理解し、今後の探究活動の企画・実施につなげる。



ワークショップで発表する生徒の様子



座談会の様子

(2) あがまちゼミ

- ア 日時 令和4年10月14日(金)、11月4日(金)、12月9日(金)
イ 対象 1学年17名
ウ 内容 プロジェクト実践者の話を聞き、地域を知るとともにプロジェクトがどのように成
立していくかを学び、2年次のプロジェクト企画につなげる。
エ テーマ 「まちづくり・福祉」「観光・商業」「自然・農林業」

(3) 阿賀町さいこうプロジェクト（総合的な探究の時間）

- ア 日時 令和4年6月29日(水)、9月15日(木)、9月16日(金)
イ 対象 2学年16名
ウ 内容 ・自分の興味関心に応じてテーマを設定し、地元関係者へのインタビューの後、
プロジェクトを設計し実践する。
・地元関係者と連携しながら、各テーマのプロジェクト活動を実施する。
・活動実施後は班ごとにスライドとポスターを使って発表する。



動物カフェの様子



創作料理の様子



PR動画制作の様子



カヌーでの川下りの様子

(4) 地域学（学校設定科目）

- ア 日時 令和4年6月～11月の間、計8回
イ 対象 2学年教養コース9名
ウ 協力 阿賀黎明探究パートナーズ
エ 内容 ・阿賀黎明探究パートナーズおよび地域サポーターと一緒に、地域をフィールドに
プロジェクトを企画・実施し、まとめて発表する。
・令和4年度は「食と見守りプロジェクト(福祉×農業)」と「高校生のプチ起業プ
ロジェクト(まちづくり×商業)」の2チームに分かれプロジェクト活動を実施
し、夏休み中も自主活動を行った。



パートナーズからのアドバイスを
受ける生徒の様子



地域座談会に参加する生徒の様子

(5) 新潟ふるさと CM 大賞への取組

- ア 日時 令和4年5月～9月の間、計13回
- イ 対象 3学年教養コース14名
- ウ 協力 阿賀町役場まちづくり観光課
- エ 内容 ・高校生の視点で「ふるさと」を再解釈し、30秒のCM制作を体験する。
・企画、撮影、編集等すべてを生徒自身で行い、発表する。

オ 生徒の活動の様子（阿賀町各所で撮影）



向ノ島公園



麒麟山



麒麟山展望台



阿賀野川

5 入学生募集にむけた活動

(1) 学校見学&まなび体験会（現地開催）

域外、県外を含め、中学生及びその保護者を対象に、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学して魅力を体感してもらい、教育留学生と交流する機会を設定した。

回	実施日	参加中学生人数	内容
1	7月23日（土）	10人	・学校及び黎明学舎、寮の見学 ・在校生とのまちあるきワークショップ ・プレゼンテーション ・文化祭の公開（10月）
2	8月27日（土）	4人	
3	10月8日（土）	5人	

(2) 「地域みらい留学」オンライン合同説明会（高校別説明会）

回	日時	参加人数（延べ）
1	6月4日（土）・5日（日）	128人
2	7月2日（土）・3日（日）	77人
3	8月6日（土）・7日（日）	50人
4	9月3日（土）・4日（日）	58人



在学生との交流の様子

6 専用ホームページによる情報発信 <https://miriyokuka.com/agareimei/>

- 生徒募集に向け、阿賀町のホームページ内に、阿賀黎明高校魅力化プロジェクトの専用ページを掲載



黎明学舎の様子

7 成果と課題

- 年3回の学校運営協議会において、探究パートナーズ、黎明学舎、高校、管理機関が連携し、高校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な活動を進めていくことができた。
- 公営塾「黎明学舎」のスタッフと阿賀黎明高校の担当教員が毎週打ち合わせを行うことで、円滑にコミュニケーションを図り、総合的な探究の時間や地域学等を進めることができた。
- 地域コーディネーターだけでなく、地域団体「阿賀黎明探究パートナーズ」や「黎明学舎」のメンバーも協力し、探究活動のコーディネートを行っていただき、教員の負担軽減にもつながった。
- 総合的な探究の時間や地域学において、それぞれの授業で、異なる協力者・団体と連携しながら同時に進めているため、それらの有機的に連携させるために、「育てたい資質・能力」についての共有が必要となることから、来年度は、「スクール・ポリシー」策定に向けた検証を、熟議等をとおして、地域と一体となって進めていく必要がある。

第3章

調査研究の総括

I 事業関係アンケート調査結果の分析

1 文部科学省「地域に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業」Web アンケート調査（以下、「内田洋行調査」）

- ・調査機関 株式会社 内田洋行
- ・対 象 文部科学省「地域に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業」全国 13 地域 90 校の生徒・教員
- ・回答方法 Google Forms
- ・回答期間 令和 4 年 11 月～12 月
- ・そ の 他 各回答項目の肯定的回答の割合のうち、網掛け部分は全国の割合を上回っていることを示している。

ただし、本県学校の回答者数は、在籍生徒数に対して多くない学校もあることには留意する必要がある。

生徒対象 遠隔授業で実施された教科・科目について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
1 回答者数	44	64	233	100	37	478	10,471
2 「授業を受けた」回答人数と割合	9	34	64	10	12	129	2,451
	20.5%	53.1%	27.5%	10.0%	32.4%	27.0%	23.4%
興味・関心のある教科・科目を選択することができた。	7	25	48	3	11	94	1,837
	77.8%	73.5%	75.0%	30.0%	91.7%	72.9%	74.9%
将来の進路目標に応じて必要な教科・科目を選択することができた。	6	25	45	3	10	89	1,813
	66.7%	73.5%	70.3%	30.0%	83.3%	69.0%	74.0%
これからの社会を想定した新しい学びが取り入れられた教科・科目を選択することができた。	7	26	51	3	11	98	1,865
	77.8%	76.5%	79.7%	30.0%	91.7%	76.0%	76.1%
自分の理解度に合った授業ができた。	7	31	52	9	12	111	2,013
	77.8%	91.2%	81.3%	90.0%	100.0%	86.0%	82.1%
学習内容について、先生が分かりやすく教えてくれた。	8	32	54	9	12	115	2,115
	88.9%	94.1%	84.4%	90.0%	100.0%	89.1%	86.3%
学びに対する興味・感心を高めることができる授業である。	8	30	51	8	11	108	2,059
	88.9%	88.2%	79.7%	80.0%	91.7%	83.7%	84.0%
知識や技能を身につけられる授業である。	8	32	59	8	11	118	2,160
	88.9%	94.1%	92.2%	80.0%	91.7%	91.5%	88.1%
主体的に取り組むことができる授業である。	8	30	54	10	12	114	2,058
	88.9%	88.2%	84.4%	100.0%	100.0%	88.4%	84.0%
先生や他の生徒との対話を通じて、新たな気付きを生みだしたり、深めたりすることができる授業である。	8	30	53	9	11	111	1,991
	88.9%	88.2%	82.8%	90.0%	91.7%	86.0%	81.2%
異なる考えを持った人々たちとの協働作業を通じて、課題を解決できる授業である。	8	30	53	8	10	109	1,936
	88.9%	88.2%	82.8%	80.0%	83.3%	84.5%	79.0%
これまでは本校だけではできなかった活動を行う授業である。	8	26	46	9	9	98	1,860
	88.9%	76.5%	71.9%	90.0%	75.0%	76.0%	75.9%

- 本県の遠隔授業受信校は、全国平均と比較しても高い満足度を示しており、一定の成果があったと考えられる。
- 遠隔授業の生徒の評価が高かった理由としては、大きな通信トラブルがなく、配信教員がデジタル教材等を十分に活用し、丁寧かつ工夫して授業を進められたこと、1人1台のタブレット端末環境を用いた主体的・協働的な学びを効果的に取り入れたこと等が考えられる。

生徒対象 地域との協働による授業を受けたことについて、あなたの考えを教えてください。

※各回答項目の肯定的回答の割合は、全回答者数に占める割合を示している。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
1 回答者数	388	44	64	233	100	37	866	10,471
2 「授業を受けた」 回答人数と割合	66	6	44	77	31	25	249	4,778
	17.0%	13.6%	68.8%	33.0%	31.0%	67.6%	28.8%	45.6%
回答項目	肯定的回答の人数と全回答者数に占める割合							
地域の協力によって、学校だけでは実施できない学びが受けられた。	63	3	43	68	31	25	233	4,572
	16.2%	6.8%	67.2%	29.2%	31.0%	67.6%	26.9%	43.7%
地域の協力によって、専門性の高い学びが受けられた。	60	2	44	70	27	25	228	4,318
	15.5%	4.5%	68.8%	30.0%	27.0%	67.6%	26.3%	41.2%
地域の協力によって、実践的な学びが受けられた。	51	2	43	68	27	25	216	4,314
	13.1%	4.5%	67.2%	29.2%	27.0%	67.6%	24.9%	41.2%
地域の協力によって、地域の課題の複雑さ・解決の困難さを学ぶことができた。	57	2	42	69	25	25	220	4,256
	14.7%	4.5%	65.6%	29.6%	25.0%	67.6%	25.4%	40.6%
地域の協力によって、地域の課題解決に参画することができた。	45	2	41	64	23	24	199	3,918
	11.6%	4.5%	64.1%	27.5%	23.0%	64.9%	23.0%	37.4%
様々な人たちが地域を支えていることが分かった。	63	3	44	71	30	25	236	4,519
	16.2%	6.8%	68.8%	30.5%	30.0%	67.6%	27.3%	43.2%
地域との協働による授業について、学習内容に満足している。	64	5	44	73	30	23	239	4,593
	16.5%	11.4%	68.8%	31.3%	30.0%	62.2%	27.6%	43.9%

- ネットワーク構成校の回答の割合は、2校が全国平均の割合を上回った。本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組むコースとして、「地域探究コース」を、令和2年度に羽茂高校に、令和4年度に阿賀黎明高校にそれぞれ設置した。両校においては、総合的な探究の時間や、学校設定科目「地域学」「地域探究」等において、積極的に地域と連携した取組を実施したことが要因と考えられる。
- どのネットワーク構成校も、「地域と連携・協働した授業を受けた」と回答した割合が高い学校は、それ以降の各項目でも肯定的な回答の割合が高いことから、地域と連携・協働した授業を実施することは、学びの充実の面において大きな意義があり、令和5年度も引き続き、全てのネットワーク構成校で積極的に推進していく必要がある。
- 新しい学習指導要領でも重要とされる「社会に開かれた教育課程」という観点からも、地域と協働した授業実践をより一層進める必要がある、コンソーシアムとも共有しながら引き続き取組を検討していく。

生徒対象 高校の授業について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
回答者数	388	44	64	233	100	37	866	10,471
もっと、興味・関心のある教科・科目を勉強したい。	338 87.1%	29 65.9%	55 85.9%	191 82.0%	85 85.0%	33 89.2%	731 84.4%	9,036 86.3%
もっと、将来の進路目標に必要な教科・科目を勉強したい。	350 90.2%	29 65.9%	51 79.7%	193 82.8%	86 86.0%	32 86.5%	741 85.6%	9,126 87.2%
もっと、これからの社会を想定した新しい学びが取り入れられた教科・科目を勉強したい。	328 84.5%	28 63.6%	46 71.9%	180 77.3%	81 81.0%	31 83.8%	694 80.1%	8,632 82.4%
もっと、自分の理解度に合った授業を受けたい。	331 85.3%	32 72.7%	56 87.5%	192 82.4%	85 85.0%	30 81.1%	726 83.8%	8,937 85.4%
学習内容について、もっと分かりやすく教えてほしい。	315 81.2%	28 63.6%	52 81.3%	180 77.3%	73 73.0%	27 73.0%	675 77.9%	8,286 79.1%
もっと、学びに対する興味・感心を高めることのできる授業を受けたい。	338 87.1%	31 70.5%	56 87.5%	192 82.4%	82 82.0%	29 78.4%	728 84.1%	9,022 86.2%
もっと、知識や技能を身につけられる授業を受けたい。	350 90.2%	31 70.5%	55 85.9%	186 79.8%	89 89.0%	32 86.5%	743 85.8%	9,096 86.9%
もっと、主体的に取り組むことのできる授業を受けたい。	311 80.2%	29 65.9%	46 71.9%	176 75.5%	79 79.0%	30 81.1%	671 77.5%	8,237 78.7%
もっと、先生や他の生徒との対話を通じて、新たな気付きを得ることのできる授業を受けたい。	297 76.5%	28 63.6%	48 75.0%	160 68.7%	74 74.0%	28 75.7%	635 73.3%	8,045 76.8%
もっと、異なる考えを持った人たちとの協働作業を通じて、課題を解決できる授業を受けたい。	289 74.5%	28 63.6%	44 68.8%	155 66.5%	68 68.0%	27 73.0%	611 70.6%	7,782 74.3%
もっと、これまでは自校だけではできなかった活動を行う授業を受けたい。	282 72.7%	27 61.4%	42 65.6%	156 67.0%	65 65.0%	26 70.3%	598 69.1%	7,963 76.0%

- 全国平均の割合を上回ったネットワーク構成校の数が最も多い回答項目は、「もっと主体的に取り組む授業を受けたい。」(3校)であった。遠隔授業の取組においても、教員の一方的な説明時間が長いほど、受信側生徒の集中力が低下することに加え、生徒の「個別最適な学び」や「協働的な学び」につながりにくいことが明らかになった。遠隔授業のみならず、対面授業においても、生徒の学びの充実に向け、より一層の授業改善に取り組む必要がある。

生徒・教員対象 自分が通っている（勤務している）学校について、どのような点が魅力だと思いますか。

学校名	佐渡		佐渡相川		羽茂		佐渡総合		佐渡中等		阿賀黎明		ネットワーク構成校		全国	
	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員
回答者数	388	32	44	6	64	14	233	25	100	21	37	17	866	115	10,471	1,608
大学入試に対応した教科・科目が充実している点	346	30	23	1	49	7	144	3	75	20	25	8	662	69	8,522	762
	89.2%	93.8%	52.3%	16.7%	76.6%	50.0%	61.8%	12.0%	75.0%	95.2%	67.6%	47.1%	76.4%	60.0%	81.4%	47.4%
多様な進路希望に対応した教科・科目が充実している点	330	24	32	5	53	11	215	22	62	13	27	14	719	89	8,948	1,211
	85.1%	75.0%	72.7%	83.3%	82.8%	78.6%	92.3%	88.0%	62.0%	61.9%	73.0%	82.4%	83.0%	77.4%	85.5%	75.3%
これからの社会を生きるために必要な資質・能力を高めるための学習機会が充実している点	317	23	35	3	55	12	206	20	75	16	30	16	718	90	9,060	1,377
	81.7%	71.9%	79.5%	50.0%	85.9%	85.7%	88.4%	80.0%	75.0%	76.2%	81.1%	94.1%	82.9%	78.3%	86.5%	85.6%
他校の教師から学ぶ授業が導入されている点	135	4	28	2	49	11	121	19	34	10	24	15	391	61	4,952	817
	34.8%	12.5%	63.6%	33.3%	76.6%	78.6%	51.9%	76.0%	34.0%	47.6%	64.9%	88.2%	45.2%	53.0%	47.3%	50.8%
他校の生徒とともに学ぶ授業が導入されている点	131	7	24	2	34	7	96	12	31	8	19	11	335	47	4,298	740
	33.8%	21.9%	54.5%	33.3%	53.1%	50.0%	41.2%	48.0%	31.0%	38.1%	51.4%	64.7%	38.7%	40.9%	41.0%	46.0%
ICTを活用して協働的に学ぶ授業が導入されている点	210	25	29	3	46	14	123	20	59	16	26	14	493	92	7,651	1,422
	54.1%	78.1%	65.9%	50.0%	71.9%	100.0%	52.8%	80.0%	59.0%	76.2%	70.3%	82.4%	56.9%	80.0%	73.1%	88.4%
社会の第一線で活躍されている社会人などによる授業が導入されている点	220	10	26	1	45	8	158	19	48	18	23	11	520	67	6,527	904
	56.7%	31.3%	59.1%	16.7%	70.3%	57.1%	67.8%	76.0%	48.0%	85.7%	62.2%	64.7%	60.0%	58.3%	62.3%	56.2%
学外の人や組織に参画していただき、教わったりサポートを受けたりする授業が導入されている点	212	8	26	1	51	13	154	19	57	16	30	16	530	73	7,199	1,113
	54.6%	25.0%	59.1%	16.7%	79.7%	92.9%	66.1%	76.0%	57.0%	76.2%	81.1%	94.1%	61.2%	63.5%	68.8%	69.2%
地域課題解決をテーマとした学習機会が設定されている点	230	8	26	0	60	14	161	20	79	17	30	17	586	76	7,955	1,321
	59.3%	25.0%	59.1%	0.0%	93.8%	100.0%	69.1%	80.0%	79.0%	81.0%	81.1%	100.0%	67.7%	66.1%	76.0%	82.2%
地域課題について、地域住民と意見交換する学習機会が設定されている点	166	4	24	0	52	10	128	12	38	12	31	16	439	54	5,888	1,010
	42.8%	12.5%	54.5%	0.0%	81.3%	71.4%	54.9%	48.0%	38.0%	57.1%	83.8%	94.1%	50.7%	47.0%	56.2%	62.8%
地域課題解決に実際に参画する学習機会が設定されている点	183	4	25	0	59	12	132	19	52	13	30	17	481	65	6,713	1,121
	47.2%	12.5%	56.8%	0.0%	92.2%	85.7%	56.7%	76.0%	52.0%	61.9%	81.1%	100.0%	55.5%	56.5%	64.1%	69.7%
地域の人たちによる、生徒の学びをサポートするための体制がある点	182	4	26	1	54	10	131	15	37	10	29	17	459	57	6,559	997
	46.9%	12.5%	59.1%	16.7%	84.4%	71.4%	56.2%	60.0%	37.0%	47.6%	78.4%	100.0%	53.0%	49.6%	62.6%	62.0%
遠隔授業システムを活用して、生徒一人一人の個性や特性に応じて丁寧に学習支援を行う体制が整っている点	176	9	24	1	43	10	114	14	38	13	25	14	420	61	5,548	930
	45.4%	28.1%	54.5%	16.7%	67.2%	71.4%	48.9%	56.0%	38.0%	61.9%	67.6%	82.4%	48.5%	53.0%	53.0%	57.8%
遠隔授業システムを活用して、教師が学び合える研修環境が整っている点	-	5	-	1	-	7	-	15	-	9	-	11	-	48	-	784
	-	15.6%	-	16.7%	-	50.0%	-	60.0%	-	42.9%	-	64.7%	-	41.7%	-	48.8%
遠隔授業システムを活用して、教師の負担軽減を促進する協働体制が整っている点	-	3	-	0	-	5	-	10	-	7	-	4	-	29	-	548
	-	9.4%	-	0.0%	-	35.7%	-	40.0%	-	33.3%	-	23.5%	-	25.2%	-	34.1%

- 「他校の生徒とともに学ぶ授業が導入されている点」において、ネットワーク構成校の生徒4校が全国平均を上回った。第2年次における「学校間連携」の取組として、ネットワーク構成校探究活動等発表会を2回実施した成果が表れていると言える。
- 「地域」に関する項目において、「地域探究コース」が設置されている羽茂高校及び阿賀黎明高校の割合が、生徒・教員ともに肯定的評価が高いのが特徴的であり、学校の特色が表れていると言える。
- 令和5年度は、生徒が有意義に感じられる授業や学習機会の提供や、教員の負担軽減を促進する学校間連携のあり方について、引き続き取り組んでいく必要がある。

生徒対象 あなた自身について、あなたの考えを教えてください。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	ネットワーク 構成校	全国
回答者数	388	44	64	233	100	37	866	10,471
将来、自分の住んでいる地域のために、役に立ちたいと考えている。	279	29	50	172	67	22	619	7,580
	71.9%	65.9%	78.1%	73.8%	67.0%	59.5%	71.5%	72.4%
自分の住んでいる地域の将来について、明るい希望を持っている。	214	31	50	161	45	18	519	6,844
	55.2%	70.5%	78.1%	69.1%	45.0%	48.6%	59.9%	65.4%
地域の人たちと一緒に活動する機会がある。	187	29	46	133	43	26	464	6,255
	48.2%	65.9%	71.9%	57.1%	43.0%	70.3%	53.6%	59.7%
自分が関わることで、社会がより良くなるよう変えられると思う。	238	23	42	133	54	20	510	6,640
	61.3%	52.3%	65.6%	57.1%	54.0%	54.1%	58.9%	63.4%
自分のやりたいことがわかる。	277	33	47	179	75	21	632	7,789
	71.4%	75.0%	73.4%	76.8%	75.0%	56.8%	73.0%	74.4%
目標を達成するために何をすべきなのかわかる。	279	34	49	183	70	21	636	8,111
	71.9%	77.3%	76.6%	78.5%	70.0%	56.8%	73.4%	77.5%
自分の住んでいる地域の中に、尊敬していたり憧れていたりする人がいる。	221	30	41	139	43	17	491	6,070
	57.0%	68.2%	64.1%	59.7%	43.0%	45.9%	56.7%	58.0%
日常生活や社会の中で課題を見つける力が身についている。	269	30	46	162	80	20	607	7,705
	69.3%	68.2%	71.9%	69.5%	80.0%	54.1%	70.1%	73.6%
情報を収集する力が身についている。	300	32	46	176	82	21	657	8,367
	77.3%	72.7%	71.9%	75.5%	82.0%	56.8%	75.9%	79.9%
情報を整理・分析する力が身についている。	291	31	45	166	73	22	628	7,997
	75.0%	70.5%	70.3%	71.2%	73.0%	59.5%	72.5%	76.4%
自分の考えや意見などをまとめて、表現する力が身についている。	288	31	41	161	75	23	619	7,870
	74.2%	70.5%	64.1%	69.1%	75.0%	62.2%	71.5%	75.2%

- ネットワーク構成校のうち、「自分の住んでいる地域の将来について、明るい希望を持っている」と回答した割合が全国平均を上回ったのは3校であった（昨年度は1校）。本事業を通じて、コンソーシアムと情報共有し、地域の魅力再発見や課題解決に向けた学習について、一定の成果が表れていると言える。
- 「自分が関わることで、社会がより良くなるよう変えられると思う」の回答した割合が高まることは、生徒が地域課題を「自分事化」し、アクションを起こすことで自己有用感も高まり、結果的には地方創生人材の育成につながるものと考えられる。こうした良い循環を生み出すためにも、令和5年度は、より一層コンソーシアムとの連携を図り、生徒が社会に参画しやすい環境整備に取り組む必要がある。
- 「自分の考えや意見などをまとめて、表現する力が身についている。」と回答した割合が全国平均を上回った学校はなかった。今年度に取り組んだ探究活動等成果発表会などの学校間連携の取組をとおして、引き続き発表力や質問力、コミュニケーション力の向上を図っていきたい。

2 令和4年度学校生活等に関する意識調査（以下、「意識調査」）

- ・調査機関 新潟県教育委員会（高等学校教育課）
- ・調査対象 新潟県立高等学校の全日制課程・定時制課程の1年生・2年生全員
新潟県立中等教育学校の2年生・4年生・5年生全員
- ・回答方法 Google Forms
- ・回答期間 令和5年1月23日（月）～2月10日（金）
- ・その他 各回答項目の肯定的回答の割合のうち、塗りつぶし部分は全県の割合を上回っていることを示している（全日制高校及び佐渡中等教育学校は全県全日、佐渡高校相川分校は全県定時との比較）。

質問 電子黒板やタブレット端末など ICT を活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか。

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	178	13	27	94	41	14	11,438	276	379	84.8%
回答者数(2年・中等5年)	140	12	20	93	37	15	10,844	226	334	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	148 83.1%	12 92.3%	26 96.3%	83 88.3%	34 82.9%	11 78.6%	9,938 86.9%	240 87.0%	331 87.3%	ネットワーク構成校 86.3%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	128 91.4%	9 75.0%	18 90.0%	83 89.2%	23 62.2%	15 100.0%	8,955 82.6%	178 78.8%	255 76.3%	

- ネットワーク構成校の肯定的回答の割合は、1年生で3校、2年生で4校が全県平均の割合を上回った。
- ネットワーク構成校全体の平均は86.3%で、全県全日・定時の平均84.8%を上回り、本プロジェクトの取組が、関係校の授業改善につながっているものと考えている。
- 遠隔授業で実施している1人1台端末を用いた授業スタイルを、対面授業にも波及するよう取り組み、全県の生徒の学習意欲向上につなげていきたい。

質問 学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。

- 選択肢** 1 つながっている 2 どちらかといえばつながっている
3 どちらかといえばつながっていない 4 つながっていない
5 学校でそのような授業はなかった

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	178	13	27	94	41	14	11,438	276	379	70.0%
回答者数(2年・中等5年)	140	12	20	93	37	15	10,844	226	334	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	129 72.5%	12 92.3%	26 96.3%	82 87.2%	29 70.7%	13 92.9%	8,249 72.1%	216 78.3%	262 69.1%	ネットワーク構成校 76.0%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	93 66.4%	7 58.3%	20 100.0%	64 68.8%	30 81.1%	15 100.0%	7,318 67.5%	155 68.6%	226 67.7%	

- ネットワーク構成校は、1年生は5校が、2年生は4校が、全県平均の割合を上回った。特に、地域探究コースを設置し、地域資源を活用した探究学習に積極的に取り組んでいる羽茂高校と阿賀黎明高校は1・2学年ともに9割以上の高い割合となった。

- ネットワーク構成校全体の平均は76.0%で、全県全日・定時の平均70.0%を上回った。
- 本プロジェクトの地域連携・協働の取組を全県に周知する機会を設定し、全県的に取組が進むよう努めていく。

質 問 地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。

- 選択肢** 1 高まった 2 ある程度高まった
3 あまり高まらなかった 4 高まらなかった
5 学校でそのような学習を行ったことがない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	178	13	27	94	41	14	11,438	276	379	69.7%
回答者数(2年・中等5年)	140	12	20	93	37	15	10,844	226	334	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	117 65.7%	10 76.9%	24 88.9%	80 85.1%	34 82.9%	10 71.4%	8,262 72.2%	204 73.9%	277 73.1%	ネットワーク構成校 70.5%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	88 62.9%	7 58.3%	18 90.0%	56 60.2%	25 67.6%	13 86.7%	7,270 67.0%	140 61.9%	212 63.5%	

- ネットワーク構成校は、1年生で4校が、2年生で3校が、全県平均の割合を上回った。特に羽茂高校の回答割合は、1・2年生ともに8割後半の高い割合となった。
- ネットワーク構成校全体の平均は70.5%で、全県全日・定時の平均69.7%を上回った。
- 地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習することについては、ネットワーク構成校の2年生(5年生)全員が参加する探究活動等の成果発表会を実施し、SDGsの理解を促す機会を設定した。生徒一人ひとりの探究学習テーマをSDGsに関連付けてグループ発表するなど、充実した取組を実施することができた。令和5年度は、その取組を継続させ、自分たちの取組が地域課題や地球規模の課題を解決するという意識をさらに醸成していきたい。

質 問 自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか。

- 選択肢** 1 そう思う 2 どちらかというと思う
3 どちらかというと思わない 4 思わない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	178	13	27	94	41	14	11,438	276	379	81.2%
回答者数(2年・中等5年)	140	12	20	93	37	15	10,844	226	334	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	143 80.3%	13 100.0%	24 88.9%	82 87.2%	35 85.4%	9 64.3%	9,423 82.4%	234 84.8%	288 76.0%	ネットワーク構成校 80.4%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	117 83.6%	7 58.3%	16 80.0%	68 73.1%	24 64.9%	12 80.0%	8,686 80.1%	161 71.2%	250 74.9%	

- ネットワーク構成校は、1年生で4校が全県平均を上回ったものの、2年生では、全県平均の割合を上回ったのは、1校だけであった。
- ネットワーク構成校全体の平均は80.4%で、全県全日・定時の平均81.2%を下回った。
- 地域と連携・協働した取組を進める一方で、地域に将来貢献したいという回答割合は高くはなかった。
- 各コンソーシアムと情報共有して、地域への愛着を育むための学びの環境整備により一層取り組む必要がある。

- 令和5年度は、生徒がコンソーシアムの会議にも参加して直接要望する機会を設けるなど、生徒が「地域らしさ」から学べる郷土愛をさらに醸成する取組を検討したい。

質 問 あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか。

- 選択肢** 1 役に立つ 2 ある程度役に立つ
3 あまり役に立たない 4 役に立たない 5 わからない

学校名	佐渡	佐渡相川	羽茂	佐渡総合	佐渡中等	阿賀黎明	全県全日	全県定時	全県中等	全県全日・定時
回答者数(1年・中等4年)	178	13	27	94	41	14	11,438	276	379	64.9%
回答者数(2年・中等5年)	140	12	20	93	37	15	10,844	226	334	
肯定的回答の人数・割合 (1年・中等4年)	119 66.9%	5 38.5%	21 77.8%	51 54.3%	23 56.1%	6 42.9%	6,755 59.1%	141 51.1%	252 66.5%	ネットワーク構成校 65.1%
肯定的回答の人数・割合 (2年・中等5年)	104 74.3%	8 66.7%	13 65.0%	55 59.1%	28 75.7%	12 80.0%	7,758 71.5%	129 57.1%	250 74.9%	

- ネットワーク構成校は、1年生で2校が、2年生で4校が、全県平均の割合を上回った。
- ネットワーク構成校全体の平均は65.1%で、全県全日・定時の平均64.9%を上回った。
- 佐渡高校は1・2学年ともに70%前後の高い割合となった。
- 令和5年度は、通年の遠隔授業や生徒のニーズに合わせたオンライン講習を実施し、ネットワーク構成校の進路実現に向けて取り組んだ。令和5年度は、引き続き、効果的な遠隔授業や、探究活動等の充実を図り、ネットワーク構成校の進路実現に向けた学習につなげていきたい。

Ⅱ 設定目標の達成状況

1 成果目標（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【授業アンケート】 「遠隔授業は対面授業と同じくらい内容を理解できたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	/	50%以上	80.6%	達成
【全県調査】 「電子黒板やタブレット端末など ICT を活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	/	50%以上	86.3%	達成
【学びの基礎診断認定ツール】 2年生の国数英の学習到達ゾーンが1年間で1ランク以上上がった生徒の割合	/	10%以上	21.0%	達成

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目数	/	25	23	達成せず
上記のうち、学校設定科目数	/	18	16	達成せず

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、免許外教科担任制度の活用件数	/	12	9	達成

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

ア 学校満足度（学校が進路実現の役に立つ）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合 （高校2年生と中等教育学校5年生が対象）	71.4% （*）	基準値 +5 ポイント	71.2% 基準値 -0.2 ポイント	達成せず

* 令和3年度の全県割合

※ 目標設定の考え方

例年2月に新潟県教育委員会では、高等学校2年生（全日制・定時制）と中等教育学校5年生を対象に、学校満足度を把握するアンケート調査を実施しており、その中の「進路実現に学校は役に立っている」と感じた生徒の割合は県の教育施策の点検評価の指標ともなっている。各構成校が本事業の取り組んだ成果を定量的に表すことができ、本事業の取組を推奨するためのエビデンスとしても活用できる。

イ 地域への理解や将来の貢献意識

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 70.0%	基準値 +10 ポイント	76.0%	達成 せず
「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 69.7%	基準値 +10 ポイント	70.5%	達成 せず
「自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県 平均 81.2%	基準値 +10 ポイント	80.4%	達成 せず

2 COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(1) ネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	見込	実績	達成状況
実施科目数	9科目	9科目	達成

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	見込	実績	達成状況
学校数	6校	6校	達成

(3) 管理機関が設定した活動指標：遠隔授業に関する公開授業・研究協議会等の開催回数

	見込	実績	達成状況
公開授業	2回	2回	達成
研究協議会	1回	1回	達成

第4章

第3年次に向けて

I 「教科・科目充実型」遠隔授業の本格実施に係る調査研究

【令和5年度 配信科目一覧】 ★は同時配信

配信側	受信側	教科	科目	単位数	備考
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡高校相川 分校2年	芸術	書道 I	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校2年	理科	化学基礎 ★	2	通年配信
佐渡総合高校	羽茂高校2年	地域探究	ソーシャル・ デザイン	2	スポット 配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	国語	古典B	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	地理歴史	セミナー 日本史	3	通年配信
佐渡高校	羽茂高校2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡総合高校 2年	公民	政治・経済	2	通年配信
佐渡高校	佐渡総合高校 2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡総合高校 2年	福祉	社会福祉基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校5年	数学	数学B	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校5年	外国語	論理・表現Ⅱ	2	通年配信
佐渡高校	佐渡中等教育 学校5年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校4年	情報	情報 I	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 2年	理科	化学基礎 ★	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 3年	地理歴史	地理B	3	通年配信
佐渡高校	阿賀黎明高校 2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 1年	芸術	書道 I	2	通年配信

令和4年度（第2年次）では、8科目にわたり、単位認定を伴う通年の授業配信を実施し、遠隔授業のノウハウを蓄積するとともに、受信側体制等の課題も見えてきている。令和5年度は、前頁の表のとおり、配信科目を17科目に拡大し、下記の1～5の調査研究を実施する。

1 タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業の実施

本県の遠隔授業では、生徒1人1台端末を前提として取り組んでおり、教職員の端末操作とクラウドの活用の習熟度を高めるとともに、遠隔授業の通年配信の中で、反転学習の要素を踏まえた効果的な授業方法の実証研究も行っている。配信教員は、機器の操作はクリアしており、今後はより一層授業の質を向上させていくことが目標となる。ICTを活用しながら、生徒同士の意見の発表や共有を行うなど、生徒の主体的・協働的な学びに向けた効果的な遠隔授業の方法をさらに研究していく。

2 複数校同時配信の遠隔授業に関する調査研究

小規模校の生徒の「協働的な学び」の充実に向け、複数校への同時配信について取り組むこととしている。羽茂高校と阿賀黎明高校の校時をそろえ、「化学基礎」の遠隔授業を同時配信し、多様な意見に触れ、協働的な学習を可能とする遠隔授業のあり方について検証する。

3 ネットワーク構成校での教育課程の共通化に関する研究

令和5年度の配信科目において、ネットワーク構成校の教育課程の中で、「地学基礎」の共通化を図り、地学の専門教員配置校から「地学基礎」の配信を4校に行うこととしている。阿賀町と佐渡市がもつ地理的環境や地質的特徴をお互いに学び合う機会を創出するなど、共通化した配信科目における遠隔授業のあり方について、複数校同時配信を見据えながら、検証を進めていく。

4 遠隔授業における実験・実習のあり方に関する研究

これまで、理科や芸術等における実験・実技の効果的な指導方法や、VRの活用、地元介護系人材のサポートによる福祉の配信のあり方について検討を進めてきた。来年度は、その検討を踏まえて、配信科目に「書道Ⅰ」と「社会福祉基礎」を実施する予定である。どちらも実習を伴う科目であることから、遠隔授業における実験・実習の効果的な指導方法や、先端技術を活用した指導方法の研究を進めていく。また、情報科目については、実習の指導においても、遠隔による障壁は小さいと考えており、「情報Ⅰ」も新規科目として配信することとする。

5 受信体制のあり方に関する研究

国委託事業では、受信教室に教員以外の学校職員を配置することが、特例的に認められている。本県では、受信側職員として、実習助手や非常勤事務職員を配置し、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う指導等、受信側のサポート体制の検証を進めてきた。来年度も、受信側の羽茂高校及び阿賀黎明高校において、引き続き教員以外の学校職員を配置し、受信側職員に係るマニュアルの作成や、指導内容の確認等を行いながら、受信体制のあり方について、引き続き研究する予定である。

Ⅱ 学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究

1 ネットワーク構成校6校による連携

これまでの取組では、管理機関が中心となって生徒間交流や関係教員の情報共有の機会を設定してきた。令和5年度は、ネットワーク構成校の生徒及び教員が主体的にプロジェクトの参画者となれるよう、引き続き、以下の機会を設定し、管理機関として支援する。

(1) 生徒会執行部の生徒を中心に、地域の魅力発信や県外交流等の活動を行う「SaGaSu委員会」

(2) 探究学習の合同発表や、各種講習を一緒に学んで高め合う「SaGaSuゼミ」

1年生：「探究スキル」や「地域の魅力や課題」をテーマとした講演会や意見交換の機会の設定

2年生：SDGsの17の目標に関連付け、ネットワーク構成校の生徒をグループ化し、探究学習の成果を共有できる機会の設定

3年生：キャリア形成に関する情報提供やオンライン講習等の機会の設定

(3) 教員の授業改善に関する情報交換や合同研修会の実施

2 中高一貫教育校による学校間連携

ネットワーク校の佐渡中等教育学校と阿賀黎明高校（H14から併設型、H31から連携型の中高一貫教育校）は、本県の課題である小規模な中高一貫教育校であり、人間関係力の育成のための連携・交流ネットワークの形成に向け、次の取組を行う。

○ 特色ある学校行事や探究活動に関する合同発表

○ 中高6年間一貫した探究活動の在り方の研究

○ 他の中高一貫教育校との連携を視野に入れた学校間連携の研究

来年度から、佐渡中等教育学校前期課程生と阿賀町立阿賀津川中学校とで学校紹介をはじめとした生徒交流を開始し、特色ある学校行事や探究活動の取組内容について合同発表を実施する予定である。

3 羽茂高校と阿賀黎明高校による「地域探究コース」の学校間連携

本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組む「地域探究コース」を、令和2年度に羽茂高校に、令和4年度に阿賀黎明高校にそれぞれ設置した。離島と中山間地域という異なった環境に立地する「地域探究コース」同士による学校間連携について、次の取組を行う。

○ 両校の地域における課題解決に向けた探究内容の整理と共有

○ 両校の地域における魅力的なコンテンツを活かした地域活性化活動の共有

今年度は、当該2校に佐渡総合高校を加えた3校で、オンラインによる探究活動の成果発表を実施し、互いのこれまでの学びを深めることができた。来年度は、引き続き成果発表の機会を定期的に確保するとともに、地域探究コースの連携のあり方を協議することとする。

Ⅲ 学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究

1 「スクール・ポリシー」の策定を見据えた取組

県教育委員会では、各校との協議及び地元自治体等への意見聴取を踏まえ、令和5年3月にスクール・ミッションを再定義し、公表することとしており、県立高校等は、このスクール・ミッションに基づき、令和5年度にスクール・ポリシーの策定作業を行い、令和6年3月に策定、公表する予定である。このことを踏まえ、佐渡島内5校と阿賀黎明高校では、令和5年度に、佐渡市と阿賀町の各コンソーシアムにおいて、各校のスクール・ポリシー策定に向けた協議を行う予定である。

【スクール・ミッションの再定義】

- 市町村の意見を踏まえ、各学校と協議しながら「スクール・ミッションの再定義」を策定、公表（R5年3月）

【スクール・ポリシーの策定】

- ① 令和5年3月公表の「スクール・ミッション」を踏まえ、各学校が策定作業開始
- ② 学校で作成した案を保護者や学校外の関係者に提示し、意見聴取
- ③ 高等学校教育課と協議し、スクール・ポリシーを策定、公表（R6年3月）

※スクール・ポリシー（三つの方針）の内容

- 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

2 探究活動を中心としたコンソーシアムの支援の在り方の研究

第3章のアンケート調査の分析において、ネットワーク構成校の「地域の将来に対する明るい希望」や「将来の地域貢献意識」の割合が高くはなかったことを踏まえ、各コンソーシアムと情報共有して、特に生徒が直接参画できる機会や環境を充実させる。

また、SDGsの理解促進の機会や、生徒の進路希望に応じた職場体験や各種機会を提供することで、生徒の探究学習の充実や進路実現、そして各学校の魅力向上につなげていくこととする。

なお、各コンソーシアムの取組については、次の共通理念を再確認する。

- 生徒が「主語」になる（主体性の確保）
- 生徒が「手応え」を実感できる（自己肯定感の高まり）
- 生徒が「本物」と出会える（百聞は一見にしかず）
- 生徒が「地域らしさ」から学べる（郷土愛の醸成）
- 生徒も大人も「ワクワク」しながら活動（探究心の刺激）

資料

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

目的

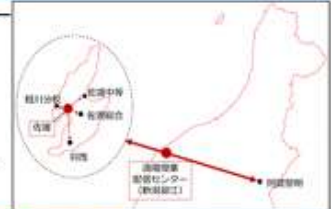
- Sado(佐渡)とAga(阿賀)とSuikou(新潟翠江)のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く**
- 遠隔授業をとおして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。
 - 佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

- 本県の人口減少と少子化の急速な進行
 - ・若者を中心として社会減少数が全国平均以上
 - ・都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
 - ・佐渡市・阿賀町の中学生数は20年前に比べ約半減
- 通学範囲の広さと通学手段の不便さ
 - ・離島である佐渡市は、東京23区約1.4倍の面積に県立高等学校等が5校点在
 - ・福島県境にある阿賀町は、県内屈指の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離
- 県立高等学校等の小規模化の進行
 - ・本県の全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち44%が1～3学級（令和4年度算集）

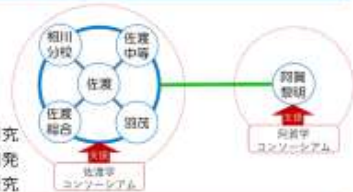
1. 遠隔授業に関する取組の概要

- **新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信**
 - 理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
 - 国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
 - 大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習
- **新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信**
 - 本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
 - VRや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- **佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築**
 - 共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
 - 地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実
- **コンソーシアム内外の学校間連携の推進**
 - 佐渡島内5校による、佐渡の魅力の情報発信
 - 異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
 - 例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発
 - 離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究



3. ネットワークを構成する学校

- 新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
- 新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
- 新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校(定時制・通信制、普通科)
- 新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

育成を目指す資質・能力

- 専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解と活用力を育成
- ICTを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成
- 地元の佐渡市や阿賀町へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画・地域貢献を行う態度を醸成
- 地域と地球規模の課題を関連付け、自己のキャリア形成に活かそうとする態度、新潟の未来を創造しようとする態度を醸成

主なアウトプット(活動目標)

- ネットワーク構成校における遠隔授業の実施科目数の増加
- 地元自治体等とコンソーシアムを構築する学校数の増加



主なアウトカム(成果目標)

- 遠隔授業や地域と連携・協働した探究学習によって、「学習意欲の向上につながった」と回答した生徒の割合

令和3年度：50%以上 令和4年度：60%以上
令和5年度：70%以上

- 県の高校生意識調査における「学校の指導が進路実現が役に立つ」と回答した生徒の割合（高校2年生・中等教育学校5年生対象）

令和2年度県内平均値
68.4%と比較して、

ネットワーク構成校※は、
令和3年度：+5ポイント
令和4年度：+8ポイント
令和5年度：+10ポイント

※遠隔授業配信センターとなる新潟翠江高校の数値は除く。

委託期間終了後の見通し

- 県事業への接続と高等学校等の再編整備計画への反映
⇒ 遠隔授業の対象校拡大や、地域と連携した魅力ある学校づくりの一層の推進
- 本事業のコンソーシアムモデルをもとに、県内他地域への新たなコンソーシアム構築に向けた支援

「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会 設置要綱

(設 置)

第1条 文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」に係る管理機関（新潟県教育委員会）の取組に対する指導・助言を得るため、「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成等)

第2条 委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。
2 任期は、委嘱の日から令和6年3月31日までとする。

(会議の進行等)

第3条 会議の進行は管理機関が担うものとする。
2 委員が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(幹 事)

第4条 会議には、幹事を若干人置く。
2 幹事は、新潟県教育庁職員の中から教育長が任命する。

(事務局)

第5条 会議の事務局は、新潟県教育庁高等学校教育課に置く。

(雑 則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、事務局が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年5月10日から施行する。
この要綱を、令和3年7月16日から改正する。

別 表**「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」指導委員会 委員名簿**

(敬称略)

No	氏 名	所 属 等
1	石井 英真	京都大学大学院教育学研究科 准教授
2	東原 義訓	信州大学教育学部 名誉教授
3	長尾 雅信	新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授
4	高堂 景寿	相互技術株式会社 代表取締役社長
5	岩佐 十良	株式会社自遊人 代表取締役

【教育委員会】

○ 幹事

教育次長（幹事長） 長谷川 雅一
 高等学校教育課長 市野 正廣

○ 事務局（高等学校教育課）

参事（事務局長）	石橋 弘光
企画振興係長	今井 亮二
企画振興係管理主事	田邊 康彦
企画振興係指導主事	齋藤 達也
企画振興係指導主事	南雲 悠
教育情報化推進担当副参事（指導主事）	原口 央
教育情報化推進担当指導主事	石田 亘
教育情報化推進担当主任	齋藤文比古

C I O（教育庁参与、遠隔教育推進担当） 大橋 英喜

第1回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要

日 時：令和4年7月11日(月) 午前10時～12時

場 所：新潟県庁15階 教育委員会室

参加者：石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員

欠席：岩佐委員（事前に意見聴取）

次 第

- 1 開会あいさつ（長谷川教育次長）
- 2 自己紹介
- 3 資料説明 ①新潟県高等学校教育の現状と課題、新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 1年目の取組と2年目の計画
②SaGaSu プロジェクトが見据える本県高校教育の可能性、新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 2年目の進捗状況

<指導委員からの指導・助言等>

- 遠隔授業内であっても、生徒同士の会話や、意見を出し合い共有する時間を確保することが大切である。
- 他の生徒の意見を聞き、自分の意見を修正、改善していくような、協働学習を実践して行ってほしい。
- 授業中の生徒同士の対話などを文字に残し、ポートフォリオのような成果物として残すことで、評価につなげていくことができる。
- 1人1台端末を用いた遠隔授業の取組は、「新潟モデル」として、全国に知られてきている。さらに、県内の高等学校等をはじめ、中学校にも発信し、広めてほしい。
- 生徒が協働して、主体的に学び、自由に自分の意見を出し合うことができる仕掛けが大切である。生徒の様子を見守りながら、評価につなげていく必要がある。
- 遠隔授業は、生徒も先生も元気になる取組となる可能性がある。環境整備や、人への投資等、何を大切にしていけるかを共有して進めてほしい。
- ネットワークを構成することで、人と人とのつながりが増えていき、お互いに助け合っていく環境ができる。非常に良い取組なので、丁寧に実証して行ってほしい。
- 本プロジェクトの取組は、新潟県の高等学校教育や、各校の学校改革において、大きな役割が期待できる。

第2回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要

日 時：令和4年11月7日(月) 午前9時30分～11時30分

場 所：自治会館 別館 第1研修室

参加者：石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員

欠席：岩佐委員（事前に意見聴取）

次 第

- 1 開会あいさつ（長谷川教育次長）
- 2 資料説明 ①令和4年度の進捗状況
②今後の遠隔教育について

<指導委員からの指導・助言等>

- 遠隔授業で理科の実験に挑戦されたことに拍手を送りたい。このノウハウは今後非常に重要になってくる。遠隔授業でもできること、遠隔授業では難しいこと、また、その場合にどのように対応すべきか等を検証してほしい。
- 遠隔授業だから余計に、生徒に説明しなければならないと思ってしまうかもしれないが、指示がなくても生徒はできることがある。また、様々なICTを活用することによって、先生の指示がなくても授業が成立する。
- 遠隔授業におけるICTの活用が、生徒の学びをどう変えていったのか、本プロジェクトの取組をとおして検証してほしい。
- 遠隔授業における合同授業を行うときは、時程を揃えることが課題となることが多い。例えば、全部揃えるのではなく、遠隔授業の1コマだけを揃え、成功した事例もある。これまでの遠隔授業のノウハウもだいぶ蓄積されてきたので、合同授業の実施を検討してもいいのではないか。
- 合同発表会における生徒の発表では、各校生徒のレベルも様々な印象があった。段階を踏んで、成長を感じることができる形で実施できるといい。
- グループ分けで、SDGsに関連づけたり、同じようなテーマで結びつけて、考えを掘り下げていくことは良い。一方で、型にはめずに、ある程度、生徒の自主性に任せて議論させるやってみることも試みとしても面白い。
- 物事をまとめて、人前で分かりやすく説明し、それに対して質問するというプロセスは、生徒同士で学びが深まっていくものである。今後の生徒の成長に期待している。
- 質問力、つまり「ツッコミ」が大切である。今の高校生は与えられた課題に取り組むことはできるが、自分から問題を見つけることは難しい。何事にも疑問を抱く訓練となる。
- 本プロジェクトをとおして、新潟の高等学校をどうしていきたいか、そのビジョンを示していく必要がある。

第3回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会の概要

日時：令和5年2月15日(水) 午後2時～4時

場所：自治会館 別館 第1研修室

参加者：東原委員、長尾委員、高堂委員、岩佐委員

欠席：石井委員（事前に意見聴取）

次第

- 1 開会あいさつ（長谷川教育次長）
- 2 資料説明 ①令和4年度の事業報告
②令和5年度の遠隔授業に向けて
③令和6年度以降の自走体制構築に向けて

<指導委員からの指導・指導等>

- 新潟県の遠隔授業では、1人1台端末を用いて、個別の学習状況の把握ができています。生徒の取組状況を把握することができ、つまづいていると分かればフォローアップできる。生徒の学びには、個人差があるため、それぞれの状況に合わせた働きかけを行って、個々の学びを支援してほしい。
- 配信教員は、機器の操作はクリアし、今後はより一層、授業の質を向上させていくことが課題となる。
- 公開授業を参観した教員のアンケートでは、「遠隔授業に関わってみたい」という意見が多く、これはチャンスである。より多くの教員が、遠隔授業に関わることを期待している。
- 複数校同時配信を実施する場合は、両校の配信環境やツールをよく確認し、両校が同じ条件で実施できる環境づくりをすべきである。
- 書道を遠隔授業で行う場合は、書画カメラが2～3台あるといい。先進事例を参考にして、取り組んでほしい。
- 配信センターを設置した場合、専任教員は遠隔授業が中心となるが、教員にとっては、遠隔授業だけでなく、週に1回でも対面授業を行う環境を整えると良い。
- 10月と比べて、1月の探究活動等成果発表会は、各校とも各段にプレゼンテーション力が向上した。質問も活発で、鋭い質問をする生徒も多く見受けられ、成果を感じた。
- 探究活動等の発表会後のアンケートにある「身に付けたい力」を、各校で到達目標として共通理解を持って臨むと、より意味のあるものになる。
- 探究活動の取組に関しては、高校生は、まだ力を最大限に発揮していない印象である。しかし、高校生が本気になれば、想像を超える力を発揮することがある。もっと高校生が本気になって活躍できる場を設けてほしい。
- 他校生徒との学校間連携や、地域との協働の取組をとおして、社会性のある生徒を育ててほしい。

令和4年度 文部科学省委託事業

「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
(CORE ハイスクール・ネットワーク構想)」調査研究報告書 (第2年次)

令和5年3月発行

新潟県教育庁 高等学校教育課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1